

ご先祖様から私たちへの贈りもの

自然災害伝承碑の事例

(第四版)

大阪府域(全体中間報告)

令和 6 年 (2024) 2 月 19 日

辻 謙一 (現地撮影・調査)

- 文章は一部、国土地理院地図等から引用
- 本資料は研究用として整理したものである
- 標題における「○」は国土地理院地形図に掲載済箇所「●」は未掲載箇所
- 自然災害伝承碑に準ずる災害の痕跡も掲載している

安政南海地震 6箇所（以下同）-----P8～

- 大阪市 浪速区 両川口
- 大阪市 天王寺区 四天王寺
- 大阪市 生野区 舍利尊勝寺
- 堺市 大浜北町 擁護璽（ようごじ）
- 大阪市 此花区 海嘯溺死者各位之靈

●大阪市 西区 和光寺（下線表示は、第四編の追加箇所 以下同）

淀川水害(明治 18 年) 29-----P20～

- 枚方市 淀川伊加賀
- 高槻市 淀川唐崎
- 大阪市 北区 淀川
- 大阪市 都島区 櫻宮
- 東大阪市 徳庵

- 寝屋川市 赤井堤
- 大阪市 鶴見区 正因寺境内 六郷修堤碑
- 大阪市 福島区 海老江中公園内
- 大阪市 東成区 深江南
- 大阪市 中央区 梅檀木橋

- 大阪市 北区 川崎橋
- 大阪市 北区 天満橋
- 大阪市 北区・中央区 天神橋
- 大阪市 北区 渡辺橋・肥後橋
- 大阪市 西区 木津川橋

- 大阪市 西区 安治川橋
- 大阪市 西区 松島橋
- 枚方市 小野平右衛門家
- 大阪市 城東区 南中浜子安地蔵尊
- 大阪市 城東区 正圓寺 寺子屋中浜菁義塾

- 東大阪市 鴻池新田 朝日社 墾田紀功碑
- 大阪市 城東区 若宮八幡大神宮 由緒之碑
- 四条畷市 四条畷神社 大橋房太郎君紀功碑・治水翁碑
- 大阪市 城東区 野江水流地藏尊
- 大阪府 守口市 守居神社

- 大阪市 北区 富島神社
- 大阪市 都島区 毛馬排水機場 淀川改修紀功碑
- 大阪市 北区 造幣局 洪水標示石
- 柏原市 大和川右岸堤防

淀川水害(その他) 10-----P83～

- 高槻市 大塚切れ
 - 大阪市 西淀川区 大塚切れ
 - 摂津市 千本つきの歌
 - 枚方市 上庄南之口樋跡
 - 寝屋川市 伝・秦河勝の墓
-
- 大阪市 北区 将棊島粗朶水制跡
 - 大阪市 淀川区 圓稱寺
 - 大阪市 淀川区 十三大橋
 - 大阪市 都島区 毛馬排水機場 淀川左岸水害予防組合設立記念碑
 - 大阪市 都島区 毛馬排水機場 毛馬北向地藏

大和川水害 4-----P101～

- 東大阪市 中甚兵衛翁碑
- 柏原市・藤井寺市 大和川付替碑
- 大阪市 住吉区 堤防安泰祈願の碑
- 東大阪市 彌刀神社

寝屋川水害 4-----P117～

- 大阪市 鶴見区 寝屋川改修記念碑
- 大東市・寝屋川市 寝屋川治水緑地竣工

- 寝屋川市 寝屋川改修記念碑
- 大東市 住道地区河川改修完成記念

室戸台風(学校内) 17-----P122～

- 大阪市 城東区 今福小学校
- 大阪市 城東区 聖賢小学校
- 大阪市 西区 九条東小学校
- 堺市 三宝小学校
- 吹田市 豊津第一小学校① 石碑

●吹田市 豊津第一小学校② レリーフ

- 吹田市 豊津第一小学校③ 記念講演会 吉岡藤子訓導顕彰碑
(顕彰碑所在地は、宇部市立厚南小学校内)

- 茨木市 春日丘高等学校
- 吹田市 岸部第一小学校
- 大阪市 生野区 プール学院

- 高槻市 如是小学校
- 高槻市 芥川小学校
- 東大阪市 弥刀小学校
- 大阪市 住吉区 住吉小学校
- 大阪市 生野区 北鶴橋小学校

- 守口市 守口小学校
- 豊中市 熊野田小学校

室戸台風(その他) 20-----P151～

- 大阪市 西淀川区 稗島尋常小学校 近傍地
- 門真市 大和田小学校 正門外
- 大阪市 中央区 大阪城公園内 教育塔
- 大阪市 城東区 榮照寺
- 大阪市 西淀川区 外島保養院① 跡地

- 大阪市 西淀川区 外島保養院② 中野婦長殉職碑

(殉職碑所在地は、岡山県瀬戸内市 邑久光明園内)

- 枚方市 長安寺
- 寝屋川市 水本墓地
- 寝屋川市 打上墓地
- 堺市 関西大風水害殉職者慰靈碑

- 堺市 十輪院
- 堺市 宝珠院
- 堺市 月藏寺
- 堺市 経王寺
- 大阪市 西区 関西風水害浸水深（現存せず）

●大阪市 西区 九島院

- 大阪市 北区 鶴満寺
- 東大阪市 友井墓地
- 大阪市 生野区 生起地蔵尊
- 東大阪市 殉難記念碑

大阪市水防碑 14-----P188～

- 大阪市 都島区
- 大阪市 浪速区
- 大阪市 北区（現在）
- 大阪市 西区
- 大阪市 大正区

- 大阪市 港区 築港南公園
- 大阪市 淀川区
- 大阪市 住之江区
- 大阪市 住吉区
- 大阪市 此花区

- 大阪市 福島区
- 大阪市 西淀川区
- 大阪市 北区
- 大阪市 東淀川区

阪神・淡路大震災 6-----P210～

- 大阪市 北区 堀川戎神社 福興戎像
 - 大阪市 平野区 白鷺公園
 - 大阪市 西淀川区 大野百島住吉神社
 - 大阪市 西淀川区 田蓑神社
 - 大阪市 福島区 福島天満宮
- 大阪市 天王寺区 四天王寺鳥居

火災 1-----P217～

- 枚方市 砲弾解体中の引火

東日本大震災 1-----P220～

- 大阪市 天王寺区 一心寺

昭和 10 年水害 1-----P221～

- 高槻市 芥川 陸軍工兵殉難之碑

疫病 2-----P222～

- 大阪市 天王寺区 一心寺
- 寝屋川市 八坂神社

分類困難 その他 25-----P227～

- 大阪市 此花区 正蓮寺 濃尾地震
- 茨木市 安威川茨木川合流 水害
- 大阪市 港区 天保山 水害
- 摂津市 神崎川改修饒足の碑 水害
- 高槻市 番田大樋 水害

- 寝屋川市 鴨川洪水北向きお地蔵さん 水害
 - 大阪市 平野区 平野川氾濫被災者供養塔 水害
 - 大阪市 生野区 平野川水路改修之碑 水害
 - 箕面市 箕面川 滝道① 水害
 - 箕面市 箕面川 滝道② 水害
-
- 大阪市 港区 池島公園 勝利の女神 水害
 - 大阪市 港区 災害モニュメントパーク 水害
 - 大阪市 都島区 旧毛馬基標 地震
 - 大阪市 西区 河村瑞賢紀功碑 水害
 - 大阪市 此花区 重修桜堤碑（ちょうしゅうおうていひ） 水害・津波
-
- 池田市 水害記念碑 水害
 - 豊能町 瀧本訓導の碑 水害
 - 大阪市 西淀川区 大野百島住吉神社 風害
 - 大阪市 西淀川区 左門殿川 水害
 - 寝屋川市 千種庄右衛門彰徳之碑 水害
-
- 吹田市 記念碑 水害
 - 東大阪市 恩地川記念碑 水害
 - 大阪市 北区 歯神社 水害
 - 堺市 三宝公園西 津波
 - 阪南市 鳥取池 水害

計 140 箇所

番外（自然災害伝承碑ではないものの極めて教訓性が高いもの）

-----P279～

- 大阪市 北区 国分寺公園 天六地下鉄工事現場ガス爆発事故 火災

○大阪市 浪速区 両川口 安政南海地震





(碑文 原文)

(東面)

大地震両川口

于時嘉永七甲寅年六月十四日子刻頃大地震。

市中一統驚き、大道川端にミ、ゆり直しを恐れ四五日心もとなふ夜を明しぬ。
伊賀大和けか人多しとなん。同十一月四日辰刻大地震。前二恐れ明地に小屋
懸、老少多く小船に乗。翌五日申刻大地震。家崩れ出火も有。恐敷有様漸治る
頃、雷の如く響き、日暮頃海辺一同津波。

安治川ハ勿論、木津川別而はけ敷、山の如き大浪立、東堀迄泥水四尺斗込入、
両川筋に居合す数多の大小船碇綱打きれ一時川上へ逆登る勢ひに、安治川橋、
亀井橋、高橋、水分、黒金、日吉、汐見、幸、住吉、金屋橋等悉崩れ落。

尚大道へ溢る水にあひて逃迷ひ、右橋より落込も有。大黒橋際ニ大船横堰に成
候故、川下に入船、小船を下敷に弥か上乗懸、大黒橋西、松ヶ鼻南北川筋一面

暫時二船、山をなして多く破船。川岸の掛造り納屋等大船押崩し、其物音人の叫ふ声々急変にて助ヶ救ふ事あたハす。忽水死けか人夥敷。船場島内迄も津浪寄せ来るとて、上町へ逃行有様あハたゞし。

今より百四十八ヶ年前、宝永四丁亥年十月四日大地震之節も、小船二乗、津波ニテ溺死人多しとかや。年月隔てハ傳へ聞人稀なる故、今亦所かはらず夥敷人損し、いたま敷事限なし。

後年又計かたし。

(南面)

津浪記

都而大地震之節ハ津波起らん事を兼而心得、必船に乗へからす。

又家崩れて出火もあらん、金銀証文藏メリ火用心肝要也。

扱川内滯船ハ大小ニ応し水勢穩成所撰繫かへ、囲ひ船ハ早々高く登し、用心すへし。

かゝる津波ハ沖汐込斗ニ非す。

磯近き海底、川底より吹涌。又ハ海辺の新田畠中ニ泥水あまた吹上る。

今度大和古市池水溢れ、人家多く流しも此類なれば、海辺、大川、大池の辺に住人用心有へし。

水勢平日之高汐と違ふ事、今の人能知所なれとも、後人之心得、且、溺死追善旁、有の伝、拙文にて記し置。

願くハ、心あらん人、年々文字よミ安きやう墨を入給ふへし。

(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

安政元年(1854)12月24日の安政南海地震後に発生した津波によって、安治川・木津川等に停泊する船に避難した人々が大きな被害を受けた。宝永4年(1707)に発生した宝永地震の時に起きた同様の災害の教訓が生かせなかつたことを、後世への戒めとして残すため建立されている。

嘉永7年(1854)6月14日午前零時ごろに大きな地震が発生した。

大阪の町の人々は驚き、川のほとりにたたずみ、余震を恐れながら4、5日の間、不安な夜を明かした。この地震で三重や奈良では死者が数多くてた。同年11月4日午前8時ごろ、大地震が発生した。以前から恐れていたので、空き地に小屋を建て、年寄りや子どもが多く避難していた。地震が発生しても水の上なら安心だと小舟に乗って避難している人もいたところへ、翌日の5日午後4時ごろ、再び大地震が起こり、家々は崩れ落ち、火災が発生し、その恐ろしい様子がおさまった日暮れごろ、雷のような音とともに一斉に津波が押し寄せてきた。

安治川はもちろん、木津川の河口まで山のような大波が立ち、東堀まで約1.4メートルの深さの泥水が流れ込んだ。両川筋に停泊していた多くの大小の船の碇やとも綱は切れ、川の流れは逆流し、安治川橋、亀井橋、高橋、水分橋、黒金橋、日吉橋、汐見橋、幸橋、住吉橋、金屋橋などの橋は全て崩れ落ちてしまった。さらに、大きな道にまで溢れた水に慌てふためいて逃げ惑い、川に落ちた人也有った。

道頓堀川に架かる大黒橋では、大きな船が川の逆流により横転し川をせき止めたため、河口から押し流されてきた船を下敷きにして、その上に乗り上げてしまつた。

大黒橋から西の道頓堀川、松ヶ鼻までの木津川の、南北を貫く川筋は、一面あつという間に壊れた船の山ができ、川岸に作った小屋は流れてきた船によって壊され、その音や助けを求める人々の声が付近一帯に広がり、救助することもできず、多数の人々が犠牲となつた。また、船場や島ノ内まで津波が押し寄せてくると心配した人々が上町方面へ慌てて避難した。

その昔、宝永4年(1707)10月4日の大地震の時も、小舟に乗つて避難したため津波で水死した人も多かったと聞いている。

長い年月が過ぎ、これを伝え聞く人はほとんどいなかつたため、今また同じように多くの人々が犠牲となつてしまつた。

今後もこのようなことが起つて得るので、地震が発生したら津波が起ることを十分に心得ておき、船での避難は絶対してはいけない。また、建物は壊れ、火事になることもある。お金や大事な書類などは大切に保管し、なによりも

「火の用心」が肝心である。川につないでいる船は、流れの穏やかなところを選んでつなぎ替え、早めに陸の高いところに運び、津波に備えるべきである。津波というのは沖から波が来るというだけではなく、海辺近くの海底などから吹き上がつてくることもあり、海辺の田畠にも泥水が吹き上がることもある。

今回の地震で大和の古市では、池の水があふれ出し、家を数多く押し流したもの、これに似た現象なので、海辺や大きな川や池のそばに住む人は用心が必要である。

津波の勢いは、普通の高潮とは違うということを、今回被災した人々はよくわかっているが、十分心得ておきなさい。犠牲になられた方々のご冥福を祈り、つたない文章であるがここに記録しておくので、心ある人は時々碑文が読みやすいよう墨を入れ、伝えていってほしい。

安政2年(1855)7月建立

※石碑の素晴らしい文を作成された方は、京都・大行寺(だいぎょうじ・仏光寺の北東)の開祖の高僧、信暁(しんぎょう 1774年-1858年)と判明。

○大阪市 天王寺区 四天王寺 安政南海地震



(碑文 原文)

[正面] 諸国地震及洪浪南無阿彌陀佛水陸横死大菩提

[南面] 去年霜月四日五日の地震を遁のがれん為に小船に乗居し輩 やから俄に
わかの洪浪湧か如く木津川口邊の大小数あまた船一時に川上に押寄橋
を落し船を摧くだき漂没死人夥おびただし尤前日より海鳴潮の干満乱
しを志ら寿して死に至る者寔まこと憐むへし后世

[裏面] 海鳴潮の干満かんまんみだれし時は早く津波の兆と知りて難をのかれ
玉ふへしと云いう爾のみ 安政二乙きのと卯秋建之

[北面] (梵語の記載のみ)

(碑文 要約)

嘉永 7 年 11 月 4 日・5 日 (1854 年 12 月 23 日・24 日) の地震被害を避けようと小船に避難した者たちが、湧くような勢いで木津川口に押し寄せた津波によって、大小の船もろとも上流へ押し流され、おびただしい死者を出した。海鳴があつたり潮の干満が乱れたりする時は津波の兆しと知って、避難するよう記している。

●大阪市 生野区 舍利尊勝寺 安政東南海地震



(碑文 原文)

[西面] 永代常念経回向 当寺

[南面] 為地震津波横死建之

[北面] 嘉永七年甲寅十一月

※嘉永 7 年 (1854) 11 月と、安政東南海地震が起きたまさにその月の年紀が
みられることから、この災害に動機づけられて建立されたものと思われる。
(安政へと改元されたのは同月 27 日)

○堺市 大浜北町 摩護壇（ようごじ） 安政南海地震





(碑文 要約)

嘉永 7 年 (1854) 11 月 5 日 (旧暦) の安政南海地震後に発生した津波が川を逆流し、堺でも 8 つの橋が落ち、船が割れるなどの被害を受けた。

しかし、住民は神社の広い境内に避難するなどして怪我をした人もいなかった。
宝永 4 年 (1707) の宝永地震では船に避難して命を落とした人も多い。

地震が強いときは決して船に避難してはいけない。

※現在地へは明治 28 年 (1895) に移設

●大阪市 此花区 海嘯溺死者各位之靈 安政南海地震





(碑文 背景 此花区 HP から引用加筆)

安政三年海嘯溺死者各位之靈

此花区内における江戸時代最後の新田開発請負人、常吉庄左衛門の没後 50 回忌にあたる明治 40 年(1907)に建立された。

併せて安政元年(1854)の海嘯(津波・碑面には安政 3 年となっている)による犠牲者を祀っている。

この辺りは、大正期ごろまで美しい松が生い茂り「千本松」といわれていたが、今はその面影はない。

●大阪市 西区 和光寺 安政南海地震



(碑文 背景)

為溺死

山号はあみだ池に所在する寺であり、智善上人が建立したところから蓮池山智善院と号した。

墓地には堀江界隈の居住者の墓とともに、海難事故による遭難船をつらねた碑や安政南海地震の犠牲者に対する慰靈碑など、この地が海浜部に近い地域であったことを示す遺物がたくさん見られたが、長年の風化と空襲の火災による剥落が進んでいる。

※安政南海地震のものであることは、言い伝えの域をでない。

○枚方市 伊加賀 淀川水害（明治 18 年）



(碑文 原文)

(正面)

明治十八季淀川洪水碑

(側面)

碑面擘窠八大字係于議定官陸軍少將二品勳一等能久親王盛翰

大阪府知事從二位

建野郷三謹書

(裏面)

澣河洪水碑銘

維歲明治乙酉夏六月霖雨彌月澣河暴漲堤防大崩漂沒攝河諸郡三百三十七村下民昏墊人畜死亡流失盧舍者二千九十餘戶府知事建野氏聞事急先遣大書記官遠藤氏率其僚屬拮据經營疏鑿水道尋躬親臨之計畫工事時土木局長三島通庸與四等技師田邊義三郎亦臨之協議戮力修理堤防粗就條緒會車駕巡幸山口縣乃詔親王北白川宮代巡撫民隱於是官吏與役徒踊躍奮勵手額相慶曰是官家之恩也諸負之力也安可不記其所自傳之不朽乎哉乃條記其實一曰潰決河內國茨田郡三矢村沿河堤防係于京攝官道者潰決凡二次前者則七十餘間後者則六十間強合前後百三十間餘二日水量六月十七日水量加一丈四尺八寸其七月一日則一丈三尺八寸三日修築起工于七月十二日其八月三十日竣工中間僅四十餘日耳其成功俊速如此者巡視之備至與役徒黽勉之所致也而其係于新築者二百十九間餘而用土豚木石者都十餘萬四日工徒用入者十五萬二千六百三十人五日工費費金者四萬九千三百十二圓四十三泉嗚呼其竭人力之巨費工費之大皆河水暴漲所根據繇是顧之其傷害人民流亡家屋水反有甚於火者也故鄭子產有言曰火烈而水弱烈者民望而畏之故鮮死焉弱者狎而翫之則多死焉其有以也吾知稱此舉曰古之遺愛亦無愧因爲之銘曰火之性可畏可畏者幸身水之性可狎可狎者害人克覺斯理者可治水治民不朽銘偉績遺愛傳千春

明治十九年丙戌九月 平安菊池純 撰文 丹波小畠正 心書

(碑文 要約)

明治 18 年(1885) 6 月 18 日及び 7 月 2 日の豪雨により、現在の枚方市伊加賀付近の淀川堤防が約 180m にわたって決壊した。

通称伊加賀切れと呼ばれるこの水害は、茨田郡(現守口市・門真市・枚方市・寝屋川市・大東市等の一部)一円を水没させ、濁流は大阪市中にも及んだ。

この水害では、2 万 6 千戸以上が流失、約 290 人が亡くなった。

碑は枚方市登録文化財となっている。

○高槻市 唐崎 淀川水害（明治 18 年）





(碑文 要約 高槻市現地看板から引用)

築堤・修堤記念碑

長い歴史を秘めて流れる淀川。それは人と水との戦いの歴史でもあり、ここに建つ築堤・修堤記念碑はその記録である。

私達はここから先人の歩みを学び、「母なる河」淀川の一面を知ることができる。

そして同時にこれらの碑は、水に対する備えの大切さを私達に教えてくれる。

◆明治戌年唐崎築堤碑「左側、明治 23 年（1890 年）建立」

慶応 4 年（1868 年 9 月に改元、明治元年）5 月 12 日、折からの長雨で、唐崎弥右工門屋敷堤防が延長 309 メートルにわたって決壊。このほか前島や大塚などでも堤防が切れ、被害は流域の 165 か村、浸水面積は 5400 ヘクタールにのぼった。

築堤工事は 7 月から行われ、10 月に完了。これを顕彰するため、島上郡（現在の高槻市・島本町）のほか流域 3 郡の住民が協力して、この記念碑を建立した。

◆修堤碑「右側、明治 19 年（1886 年）建立」

明治 18 年（1885 年）6 月中旬から 7 月上旬までの大雨で、淀川左岸（枚方側）を中心に各所で堤防が決壊し、現在の大阪市内まで多くの町村が水に浸かり大きな被害をもたらした。これを契機に右岸でも同年 10 月 29 日から修堤工事に着手。山崎から一津屋までの約 24km にわたって工事を行い、翌 19 年 3 月に完了。同時にこの記念碑が建てられた。

高槻市教育委員会　更新 2010 年 3 月　設置 1987 年 6 月

※「修堤碑」には土屋鳳洲による碑文も刻まれている。

「治水にもと奇策なし。地勢を相（み）、堤防を謹しみ、水勢の趨（おもむ）く所を順にするのみ。」

●大阪市 北区 淀川水害（明治 18 年）







(碑文 原文)

明治十八年淀川の堤防決壊して大水氾濫ありてより同川改修の議起り其廿九年
大土功を開始し同三十二年十三町民家立退を命せられ同卅五年十三橋完成す其
川幅元一百間なりしを三百八十五間餘尔改て令られてして同四十二年六月本川
改修の竣工式を毛馬閘門に挙らる茲に本家町の親友會諸氏等相謀リシ道標を置
立し燈を設けやり置往来を安全ならしむ予併得を賦して頌耳代鶴翁云

浪花南水讀斎書

燈雲乃花野こし遍尔照し多李

●大阪市 都島区 櫻宮 淀川水害（明治 18 年）



↑ わざと切れの付近（網島）

（碑文 原文）

澱河洪水紀念碑銘

堯水湯旱天之降災國家代有故雖以虞代垂拱之治不能俾之絕無乃為之人牧者安得不竭盡心力拯其昏墊乎哉明治十八年乙酉夏六月大雨霖澱河暴漲潰決茨田郡伊加賀邨堤防漂沒攝河諸郡百四十五邨水勢浩々極目無際盡成巨浸士民奔竄老弱號呼有乘屋避水者有緣木求救者走者泣者顛者蹶者悲慘滿狀不可名狀災地多屬大坂府

下知府事建野君聞警蹶起曰民命至重是不可須臾舍也即會櫻井郡長與土木課員議決堤防實六月十八日也翌日午牌知府事率其僚屬數人馳赴網島權設支局便宜行事乃興鎮臺將校戮力發役夫千餘人決野田邨堤防以殺水勢其攝河諸郡人民蘇息得免魚腹之葬者未嘗不由此偉舉也然而前害已除後患繼起其二十九日暴風甚雨水量益加如驅萬馬而闖百雷徑潰決櫻宮堤防餘勢氾濫坌入市街市街沈沒槁梁悉斷其慘有轉甚前日者也知府事豫慮小民罹水災者衣食或不給為予糧食賑救之於是市井人民海外紳商亦爭給衣糧頒財物靡然從之後又大起工役修理堤防以救助貧民始于七月竣于九月災後窮民得免飢餓者亦未嘗不由其力也抑茨田東成二郡決野田邨堤防免水害者上下百餘年間前後三次一為享和二年距今八十五年矣一為文化四年距今八十年矣獨享和文化之水災水沒德菴堤然後決矣今者則先其未沒而決矣是以保其民命免水害其功効歷々有倍於前日者也若夫曰循不決不獨攝河諸郡被水害其所波及有不可測者也後之值澱河水災者豈可不鑑而誠乎哉今歲闔邨人民罹水災者感其保護之功德尤鉅為建紀念碑垂憲戒乎無疆云銘曰

大水來襄邱陵 微伯禹人咸魚 漂廬舍竈產蠶 水上床十尺餘
乘屋者緣木者 全家人悉樓居 明府曰人命重 決堤防注尾閭
水土平服耒耜 山可樵水可漁 建豐碑勒功績 仁斯民者誰歟

明治十九年丙戌春三月 建野府知事篆額 菊池純撰文 郷田浩藏書丹

(碑文 要約)

堯の時代の水害、湯の時代の旱と、天は歴代の国家に災いを降らしてきた。垂拱の治という平穏な治世もあったが、災害を絶無にすることはできなかった。

為政者は、被災者たちを救うことに、注力しなければならなかった。

明治 18 年乙酉夏 6 月に、大雨が続き、淀川が暴漲し、茨田郡伊加賀村の堤防が切れ、摂河諸郡一四五村が没した。水勢は浩々と目の前は際限なく巨大なる水面が広がった。

住民は浸水で逃げ、年寄りや子供は叫んだ。

屋根上に乗って水を避け、木に登り救いを求め、走る者、泣く者、顛（たおれる）者、蹶（つまづく）者で悲惨な状態。

被災地の多くは大坂府下に属す。

府知事建野君は急を聞き、ただちに蹶起（決起）していには民の命は重い。ただちに櫻井郡長と土木課員とで、堤防を切る議論をした。

実に 6 月 18 日のこと也。翌日正午、知事は数人の幹部職員を率い網島に馳せ支局（今でいう現地対策本部）を立ち上げた。

鎮台（陸軍）将校と協力し役夫千余人を動員し野田の堤防を切り洪水の勢いを殺した。

これにより摂河諸郡の人民は息を蘇らせ、魚に食われて亡くなること（溺死）から免れた。

未だかつて、このような偉業はされたことはなかった。

しかし、前の災害が取り除かれたと思いしや、次の災害が起きた。その 29 日、暴風甚だしく、雨の水量が益した。万馬が駆け百雷のようであった。

堤防が決壊し、余って氾濫した水は市街に流れ込み市街は水に沈没し、橋梁は悉く（ことごとく）断たれ、その惨禍は甚だしい。

知事は、水の災にあつた民が衣食の不給を鑑みて、糧食を用意し救おうとした。

ここに市井の人民や海外の紳商から衣糧が届き、財物も届けられた。

また大いに工事を起こして堤防を修理し、貧民を救済した。7月からはじまり 9月には竣工した。被災し困窮した者が飢餓を免れ得たことも、未だ嘗てなかった力量によるものであった。

茨田東成二郡が野田村の堤防を切って水害を免れさせたのはここ百年余りで 3 回あった。

享和 2 年（85 年前）・文化 4 年（80 年前）の水害では、徳庵堤が水没した後に堤を切ったが、今回は先に徳庵堤が水没する前に堤を切った。これは人命を守り水害を免れようとしたものでその功や効果は歴然で前の倍にあたる。もし堤を切っていなければ、摂河の諸郡が水害を被っただけではなく、それにより波及した被害は計り知れない。

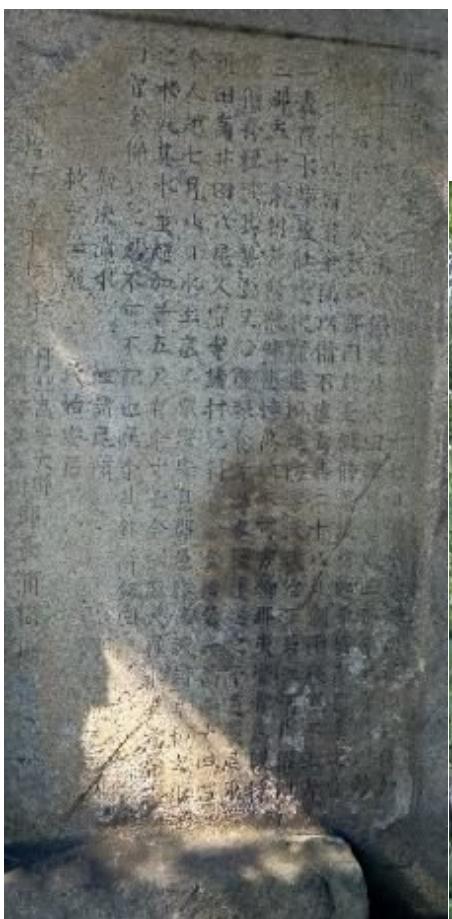
後々の淀川の水災のときは、これ鑑とすべきであろう。今歳水害に罹災した人は、保護の功德に感謝しここに紀念碑を建て末永く後世に伝えることとした。

大水が来て丘陵を襲い 伯禹に非ざれば人は溺れる 舎は水に沈み竈はカエルの場所となる 水は床上十尺余り 屋根に乗る者木に登る者 家揃って楼上に避難す 知事曰く人命は重し 堤防を切り 引いた水から土が現れ 樟や耕作や漁（日常の労務）ができ 顕彰の立派な碑を建てて功績を刻む
民びとにこのような優しさを与えたのは誰だったのか

※明治 18 年（1885）6 月枚方市伊加賀で堤防が切れ、北河内全域まで浸水が拡がり、大阪市公邸あたりの堤防を人工的に開いて、北河内全域の水を大川に戻した。その後、暴風雨が来て、さらに被害が拡大した。

同時に大阪府知事の建野郷三の強いリーダーシップが称えられている。

●東大阪市 德庵 淀川水害（明治 18 年）





(碑文 原文)

明治十八年洪水碑

明治十八年六月淫雨兼旬其十七日水暴漲決茨田郡伊加賀村堤防其汎溢溢溢延及茨田讚良東成三郡南至寐屋川勢浩々殆乎將及我郡部內於是假修築堤防起于德庵至角之堂凡一千八百有余間以備不虞焉其二十八日劇雨疾風不止者二晝夜水勢益壯遂決寐屋川堤防漂沒我治下若江河內澀川三郡五十余村老弱號呼悲慘萬狀不可方物郡吏警官為設桴筏備舟楫拯其墊溺又給庶艱食者以衣糧護送之于芝菱屋東新田高井田八尾久寶寺諸村梵刹覺舍全活者一萬二千四百余越七月八日水土底平衆庶安息郡邑作人較諸享和文化之水災其水量超加者五尺有余寸云今禎庶民罹水災者胥議曰宮家保護之恩不可不記也屬余其銘辭銘曰

執決滔水 泄諸尾閭 救墊恤溺 民始安居

明治十九年七月 丹北 高安 大縣 河内若江 澀川郡長 浦橋 偶

(碑文 背景 京都歴史研究 木谷 幹一氏論文から引用加筆)

明治 18 年(1885)6 月、長雨が 10 日も続き、同月 17 日に淀川はいっきに水かさを増し茨田郡伊加賀村で堤防が決壊した。

たちまちのうちに氾濫した水は溢れかえり、茨田・讚良・東成の三郡に及び、南は寝屋川まで至った。

あたり一面に浩々と水が広がり、ほとんどまさにわが郡内にまで及ぼうとしていた。

そこで、徳庵から角之堂までの凡そ千八百余間に仮設の堤防を築き、不測の事態に備えた。

同月 28 日には、二昼夜にわたり劇雨疾風が止まず、水の勢いはますます壮んになり、ついに寝屋川の堤防が決壊して、若江・河内・渋川三郡五十余村は水没してしまった。

年寄や子供は大声を上げてわめき叫び、その悲惨さは例えようもなかった。

郡の役人や警官は、桴や筏を作り、舟を漕いで溺れているものを救助し、食べ

物に困っているものには、衣服や食料を与えて、これを芝、菱屋東新田、高井田、八尾、久宝寺の諸村の寺院や校舎に護送した。

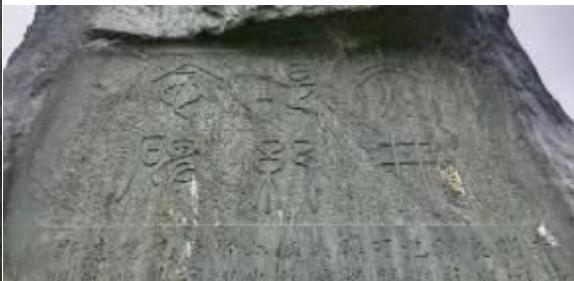
生存者は、1万2400余人であった。

7月8日になると、水没していた地面が現れ、人々はやっと安息した。

小作人たちは、享和・文化の水害と比較して、水量はそれよりも五尺あまり高かったといいあった。今年になって、水害に罹災した庶民たちが相談しあっていうには、宮家から受けた保護のご恩は、記録に残さずにはいられないということになり、余は記念碑の銘辞を託された。

その銘に曰く、堤防を決壊させて洪水を排水し、末端の水門をすべて開いて排水し、溺れたものを救って助けてもらい、住民は、はじめて安居することができた。

●寝屋川市 赤井堤 淀川水害（明治18年）



（碑文 原文）

赤井堤紀念碑

明治十有八年夏六月霖雨彌月澣川暴漲其十七日茨田郡伊賀村堤防潰決者八十餘步茨田讚良東成三郡盡成巨浸漂沒盧舍父子老弱號叫奔竄不知所措初堤防之潰也府知事建野君率土木課員馳視焉親勵土人奔走指揮二十九日雨又甚七月一日風益加焉防禦垂成又壞者四十餘步徑氾濫河内若江澣川住吉諸郡延及大坂水上屋者丈

餘至夜風雨益暴水量益加人畜悲鳴其慘狀不可勝道於是官發輕舸救漂溺又設盧舍給糧食其狀以聞勅賜金三千圓內外紳商亦爭寄贈金穀賑救小民府知事又大募役夫修理堤防三閱月竣功木屋村之北有堤防曰赤井亦潰者二百餘步流失家屋者三十五煙良田滔為沙淤今歲丙戌之春修之始於一月竣於四月其西畔五十步係于鞆呂岐莊六村之修築其東若干步木屋村修之而鞆呂岐莊五村亦補之九箇八箇大庭門真五箇之諸莊亦出七百金助之堤之西畔原有水道以其頽廢難修別疏鑿之先此郡吏佐治則行戶長西尾八郎次督課工役鼓舞窮民是以窮民得業省費頗鉅抑赤井堤在茨田郡之北郡南諸莊安危所繫然災後窮民盡失其資產修之則費不能支不修之則其害有不可測者我郡長侯野君大憂之乃諭郡南諸莊補充其費郡書記脇坂正太郎戶長西郷吉三郎與有力焉又貸與若干金以助修築蓋其所費殆萬金云嗚呼修理堤防賑救窮民雖清世餘澤令之然抑自非府知事赤子視此民之厚安得至此乎哉乃與同志某某胥議為建紀念碑傳其深仁厚澤於無彊云銘曰水旱疾疫必禱鬼神能濟之者弗負仁人維斯明府慈而能仁周窮恤溺澤在四民

明治十九年七月 大阪府知事從五位 建野郷三篆額 西尾徳太郎撰

(碑文 背景 寝屋川市 HP から引用加筆)

枚方市との境の淀川堤防に立っている背の高い碑で、明治 18 年(1885)6 月の大洪水の翌年に大阪府知事の名で建てられた。

淀川百年史などによると、淀川堤防が決壊して起きた大洪水では、左岸一帯の 997 町村で 7 万 249 戸が浸水し、27 万 6049 人が被災した。

このとき、木屋村の北にあった赤井堤も約 360 メートルにわたって決壊した。高さ約 3.6 メートルの碑には「家屋三十五を消失し、良田は土砂流入により壊滅した」と記されている。

当時の新聞では、茨田・讚良郡の死者・不明者は 51 人に上ったという。

紀念碑は堤防が決壊した場所に建てられ、水害の怖さを今に伝えている。

●大阪市 鶴見区 正因寺境内 六郷修堤碑 淀川水害（明治18年）



(碑文 要約)

明治 18 年（1885）淀川堤が伊加賀で決壊し、大阪は有史以来の大水害に見舞われた。

当時大橋房太郎は弱冠 25 歳、東京で鳩山和夫氏（元総理大臣鳩山一郎氏の父君）の書生として法学の勉強をしていたが、その惨状を目のあたりにし治水事業の重要かつ緊急性を痛感するや鳩山総理の許しを辞して大阪に帰り淀川をはじめ寝屋川、六郷川などの治水事業に命を捧げ世に「治水翁」と尊称され、庶民からは「放出の太閤さん」呼ばれた。

六郷修提碑には度重なる六郷川の水害に悩む当時の村の様子と村民を救済するため村長として同川の改修事業に立ち上がり、困難を乗り越え事業の成功に向かって、いかに尽力されたか、一端と事業の概要などが記されている。

碑は、当初阿遻速雄神社境内に建立されたが、その後放出大橋の南側に移され同橋の改修工事に伴い平成 15 年（2003）7 月、本因寺境内に再度移された。六郷川は、もと旧寝屋川の南沿いを向川と共に流れていたが、昭和 3 年（1928）一本化され現在の寝屋川となった。

修提碑の奥に、大橋房太郎氏の墓を中心にして左には氏の後任の村長、碑の撰文者でもある牛谷彌氏の墓があり、右には村委会員で氏のよき理解者であり片腕とも言われた森田嘉平治翁の顕彰碑がある。

先人たちの篤き思いが、ここにこの修提碑を呼び寄せたとの思いが伝わってくる。

また、河川改修という公共事業が、地域の代表者の強い要望により、今でいう官が実施することになり、住民が大変喜んだという経過が示されている。

●大阪市 福島区 海老江中公園内 淀川水害（明治 18 年）



（碑文 原文）

疏河紀恩之碑

澱江之水浩々洋々岐於神崎枝於中津其本流則入浪華故受利多在城市被害率在郡
村當其一時暴漲則破堤流土汎濫橫溢村沒於泥海人叫於飢渴豈不可謂慘哉沿岸志
士憂之有年一旦奮起大圖除其害講法於學術竭力於建議上下兩院遂納之政府可之
於是廿九年起工州九年略竣功蓋旧中津川直徑凡二百間今則為三百六七十間水路
自長樂分下至海口旧長六千七百廿間今則為五千三百間其堤防堅實宛然如丘阜而
南堤外別鑿一渠便於漕運總資凡一千万円其半費于此中津川是疋為本区改修之大
要嗚呼今也沿岸衆庶各安其業而得遂仰事俯育之樂音抑誰之賜也今茲西成郡海老
江部落某々相謀欲建石於祇園祠前紀其恩以告後世子孫來請予文乃叙其梗概且之
銘曰澱江之水神世叵稽其見于史日茨田堤此花之址世伝遺芳豐崎之跡幾遭滄桑、
武門迭興豺平是虎磨爪張牙何間民苦、元和偃武頗治河川仍是霸術用威弄權、懿
矣明治先民之利疏河大成生死易地、昔泣泥海今醉春風維此貞石永勒偉功
明治四十一年歲次戊甲春三月、
浪華默化道人田部密撰并書 浪華大黒橋飯田明尊刻

（碑文 背景）

淀川流域は明治 18 年 (1885) の大洪水をはじめ、長年にわたり水害によって大
きな被害を受けていた。改修への要望は大橋房太郎によって具体化し、明治 30
年 (1897) に着手、明治 41 年 (1908) にほぼ完成した。

蛇行川をまっすぐにするため海老江村は 7 割近くが水没した。
新しい川は「新淀川」と呼ばれ、水害の被害は少なくなった。

○大阪市 東成区 深江南 淀川水害（明治 18 年）





(碑文 要約)

明治 18 年（1885）の淀川洪水のうち 6 月末～7 月初めにかけての 2 度目の水害について記す。深江村においては 6 月 30 日の夜から浸水し、水位は庭の地面から約 2.6m に達し、土壌が皆倒れた。村民は上本町の寺院などに避難したが、1箇月余りのうちに帰村しても家も仕事もない状態であった。

平時にあっても災害時の窮状を忘れないようにと戒めている。

（碑文 背景 日経令和 3 年（2021）4 月 8 日から引用）

菅笠の里・深江に残る水害碑、幕末～大正期の歴史映す時を刻む江戸時代に盛んだった伊勢参り。大坂からの道中で人々は、「深江の菅笠」を買い求めた。

その産地だった大阪市東成区の深江地区で令和2年(2020)12月、旧家の土蔵で眠っていた2基の石碑の除幕式が行われた。

1基は幕末～明治期の災害や騒動、もう1基は特に被害が甚大だった明治18年(1885)の淀川洪水について記す。

水がもたらす恵みと危険に寄り添い暮らした人々の息づかいが伝わる。

2基の石碑は今、同区深江南の深江郷土資料館の敷地に立つ。

同館の代表理事、石川健二さんによると、石碑は同館に隣接する旧家の土蔵に保存されていた。

旧家の邸宅は総檜造り2階建てで築80年以上。

地域の歴史資産として保存することが決まり、石碑の調査も始まった。

碑文の解読を担当した市立枚方宿鍵屋資料館の学芸員によると、経年劣化で判読できない箇所もあったが、2つの石碑には幕末から明治にかけて起きた災害や騒動、それらが人々の暮らしにどう影響したかが克明に記されていた。

明治18年淀川洪水を伝える石碑は高さ約180センチ。

片面に「十八年洪水」、その裏に「酉歳（とりどし）紀念碑」と大きく横書きされ、碑の4面に文字が刻まれる。

氾濫を繰り返した淀川の歴史の中でも、明治18年(1885)の水害は特に被害が大きく、日本における最初の近代治水工事、新淀川の開削明治42年(1909)完成を含む淀川改良工事のきっかけにもなった。

その歴史的な水害は、明治18年(1885)6～7月に発生した。

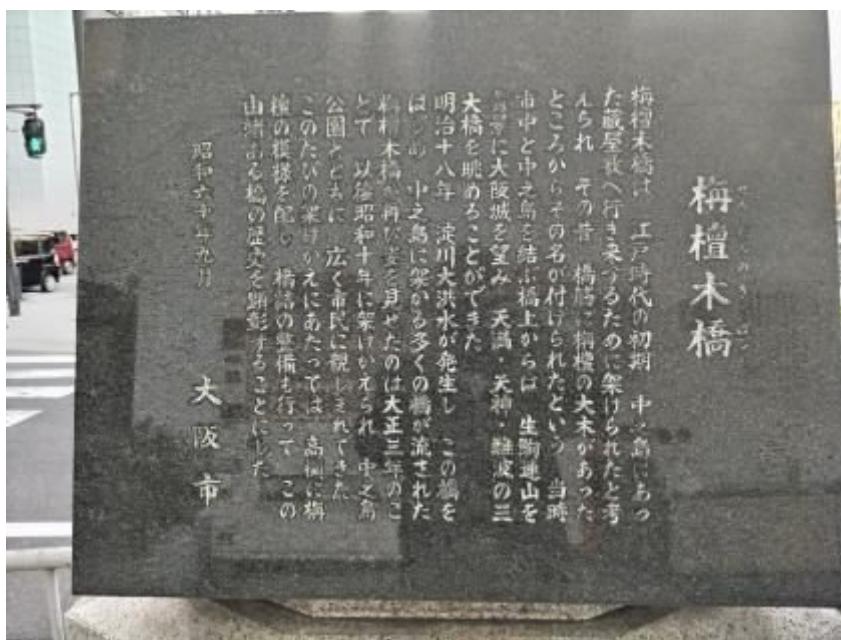
豪雨による増水で現在の枚方市付近の堤防が決壊。さらに台風が追い打ちをかけ、濁流が南西方面を襲った。

大阪府内の浸水家屋は7万戸を超え、現在の大阪市内も上町台地を除く低地部の大半が浸水した。生駒山地と上町台地に挟まれた地帯は、古代には河内湾と呼ばれる海だった。

そこに淀川などが運ぶ土砂で肥沃な平野が形成されていったが、この水害の浸水域はまさに古代の河内湾のような様相だったという。

深江の地には、笠を縫うことを職業とした古代の大和の氏族が移り住んだ笠縫島があったという伝承があり、一帯は菅笠の材料となる良質な菅(すげ)が茂る湿地だったという。江戸期には伊勢参りの菅笠で栄え、水辺の暮らしの恩恵を受けたが、水害もまた身近だった。

●大阪市 中央区 梅檀木橋 淀川水害（明治 18 年）





(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

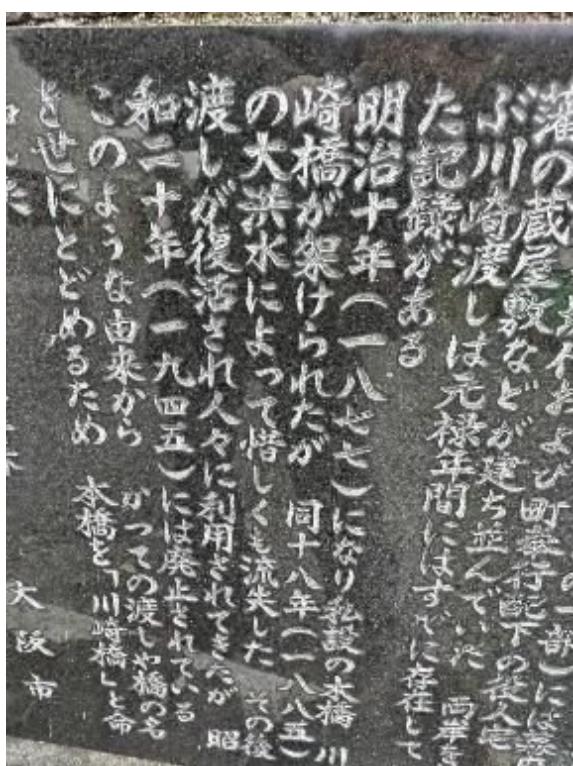
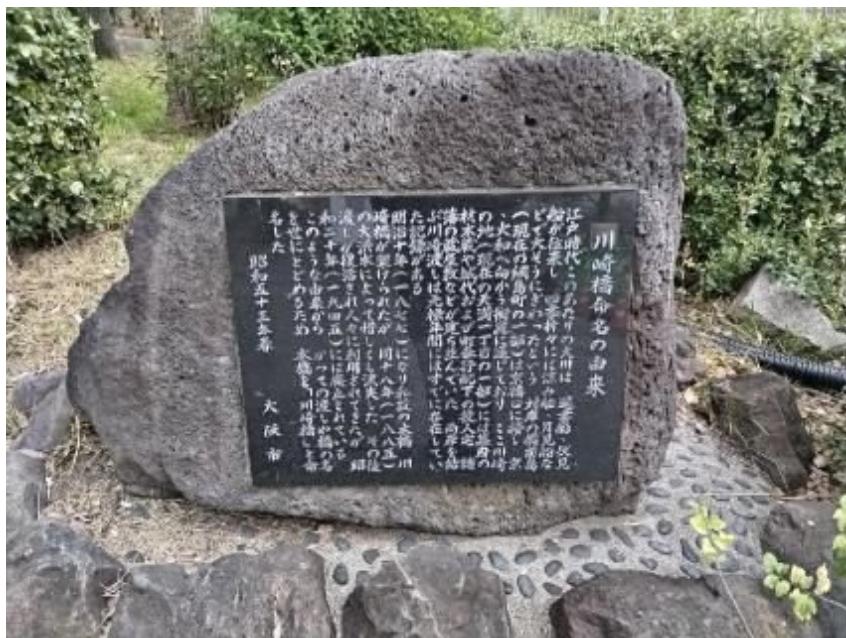
江戸時代、中之島には諸藩の蔵屋敷が建てられ、船場との連絡のために土佐掘川には多くの橋が架けられていた。梅檀木橋もそうした橋の一つであった。橋名の由来は『摂津名所図会』ではこの橋筋に梅檀ノ木の大木があったためとしているが、詳らかではない。

明治になっても木橋のままであった梅檀木橋は明治 18 年(1885)の大洪水で流失した。再び架けられたのは大正 3 年(1914)のこととされる。これは明治 37 年(1904)に、大阪府立図書館が建てられ、明治末には大阪市庁舎の建設が決定されるなど、橋が再び必要となっていたためであろう。

その後、昭和 10 年(1935)に架け替えられた橋は桁の高さが一定のシンプルな美しさを強調した設計であったが、当時の設計者はこれを理想としていたようである。昭和 60 年(1985)9 月、新しい橋に架け替えられたが、旧橋のイメージを大切にしながら橋面などは府立図書館や中央公会堂など、背景にある歴史的建築物との調和を考えてデザインされた。

また、センダンノキをモチーフにした欄間パネルが取付けられている。由来碑と大正時代の親柱は橋梁の橋詰に設置され、橋の歴史が一目でわかるようになっている。

●大阪市 北区 川崎橋 淀川水害（明治 18 年）





(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

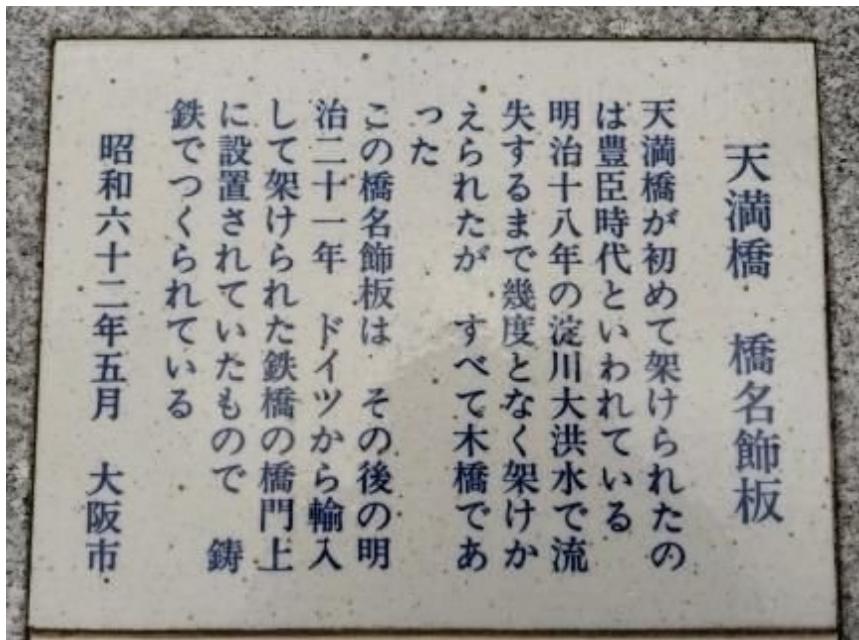
江戸時代、大阪城京橋口から、幕府の役人宅や諸藩の蔵屋敷があった対岸の川崎（北区天満一丁目の一部）へは「川崎渡」が通っていた。

明治 10 年(1877)になってこの地に橋が架けられたが、私設の橋で通行料一人三厘を徴収したことによって、「ぜにとり橋」と呼ばれたらしい。

この橋も明治 18 年(1885)7 月初めの大洪水によって下流の橋ともども流失し、以降再建されることとなかった。

現在の川崎橋は、中之島公園と千里の万博記念公園を結ぶ大規模自転車道の一環として昭和 53 年(1978)に架設された。形式は高い塔から多くのケーブルを出し、桁を吊った斜張橋というタイプで、技術的にすぐれ、景観を重要視した橋として、土木学会の賞を受けた。

●大阪市 北区 天満橋 淀川水害（明治 18 年）



（碑文 背景 大阪市 HP から引用）

天満橋・天神橋・難波橋は江戸時代以来、大坂の町にとって最も重要で、最も親しまれてきた橋である。当時としては最大級の橋で、この三橋は浪華の三大橋と呼ばれた。江戸時代には、ともに公儀橋に指定され、幕府の直轄管理となっていた。大坂の市街地を南北に結ぶ三大橋は市民の生活にも密接に関わる橋となり、都市発展に重要な役割をはたした。東西の町奉行所が、天満橋の南側にあり（のち西町奉行所は本町橋の東北詰へ移転）、谷町筋から東側には様々な役所があった。橋の北側には役所の倉庫や町与力の屋敷があり、天満橋はこれらの役人の通勤経路や役所間の連絡にも利用されたと考えられ、公の性格が非常に強い橋であったと言える。

天満橋・天神橋は、明治 18 年 (1885) 7 月初めの大洪水によって両橋とも流失し、その復旧事業として、両橋とともに鉄橋に架け替えられた。この鉄橋の主要部材

は天神橋と同じく、全てドイツ製であったが、鉄製の高欄、照明柱、橋名額は両橋とも国産品が用いられた。

橋名額は現在も北詰の公園内に保存されている。

現在の天満橋は、昭和 10 年(1935)に重厚なゲルバー式鋼桁橋に架け替えられたものである。この桁の形状に対して当時の担当者が「のびのびとした、鳥が翼を広げたような形」と表現したように、景観上バランスのよい桁橋である。

戦後、自動車交通の発達により天満橋は、交通上のボトルネックになり、昭和 45 年(1970)に高架橋が建設された。在来の天満橋の上に重ねる型式とし、設計荷重としては旧市電の軌道敷部の荷重と高架橋のそれと置き換えるように考えられた。

さらに、平成元年(1989)に旧橋部が改装された。

●大阪市 北区・中央区 天神橋 淀川水害（明治 18 年）





↑ 以上 右岸側



↑ 以上 左岸側

(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

天神橋は文禄 3 年(1594)に架けられたと伝えられ、当初は橋の名ではなく新橋と

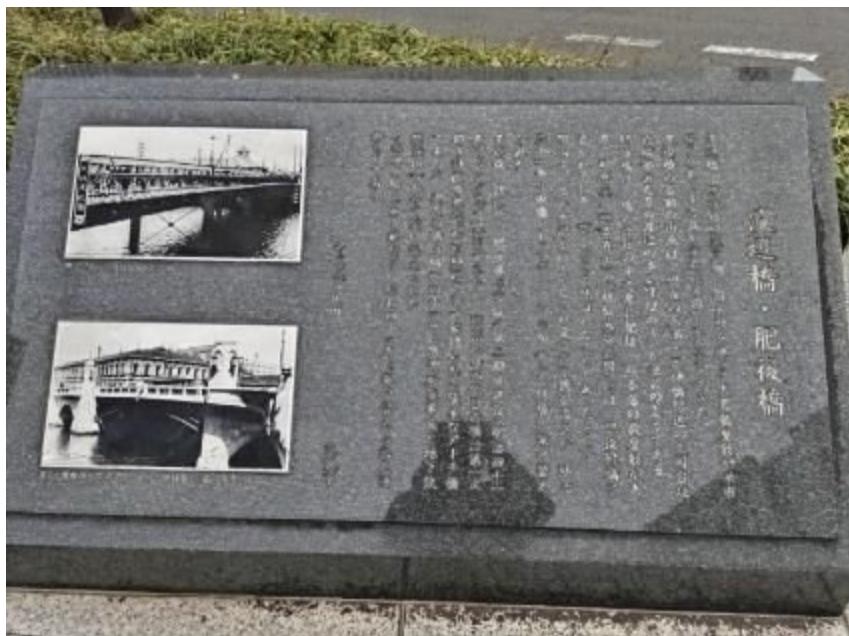
呼ばれていたが、天満天神社が管理することからしだいに天神橋と呼ばれるようになったという。天神橋の架設は上町台地と大坂の北部方面を結ぶという意味で大変重要であり、後に天満組となる現在の北区の一部の発展を見れば、橋が地域を結びつける上でいかに重要な役割を果たしているかが確認できる。

明治 18 年(1885)7 月の大洪水により淀川筋の橋は次々と流されたが、その直後に鉄橋化されることになり、天神橋には、ドイツからの輸入品で長大スパン 66m のボーストリングトラスが用いられた。

現在の天神橋は第 1 次都市計画事業によって完成したもので、低い軽快なアーチが中之島の剣先の風景によくマッチし、水都大阪の代表的な景観を形造っている。主要部の形式は 3 連の軽快な鋼 2 ヒンジアーチで、両端には重厚なコンクリートのアーチを置き、全体のデザインを引き締めている。

昭和 62 年(1987)、剣先側にらせん形のスロープが設けられると同時に美装化がなされ、遣唐使船の陶板ブロックや天満宮所蔵の天神祭絵巻を模写した絵陶板が飾られている。

●大阪市 北区 渡辺橋・肥後橋 淀川水害（明治18年）



の中之島に肥後・熊本藩の蔵屋敷があり、この「新板大坂之図」には、肥後殿橋とも呼ばれたこともあるらしい。ようてこれまでの木橋が流され、明治半ばから鉄橋に架け替えられた。

橋は市電の第二期線建設（明治四十一
年七月）より四代目の橋は第一次

り 明治三十九年（一九〇七）

書かれており 古くはこ
明治十八年の大洪水にて
二十一年に西橋ともいギ
られた



(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

渡辺橋・肥後橋は江戸期、明治期を通じて大名蔵屋敷や米市場とともに中之島や堂島地区の繁栄を支えてきた。

渡辺橋の名前の由来は、現在の天満・天神橋付近の上町台地北端部あたりの渡辺の津と呼ばれていた地名のようである。

肥後橋は、橋の北詰の中之島に肥後・熊本藩の蔵屋敷があり、明暦 3 年(1657) の「新板大坂之図」には、肥後殿橋と書かれており、古くはこう呼ばれたこともあったらしい。

明治 18 年の大洪水によってこれまでの木橋が流され、明治 21 年(1888) に両橋ともイギリスから輸入した鉄橋に架け替えられた。

その後、明治 41 年(1908)、渡辺橋・肥後橋は市電の第 2 期線建設にともなって架け替えられ、明治以降 4 代目の橋は第一次都市計画事業(昭和初期)によって架けられた優美なアーチ橋であった。

現在の橋は昭和 41 年(1966) に高潮対策事業と地下鉄建設に合わせて架け替えられた。

この碑の隣にある親柱は、昭和 41 年(1966) に架け替えられた時のものである。

●大阪市 西区 木津川橋 淀川水害（明治 18 年）



（碑文 背景 大阪市 HP から引用）

木津川橋は川口と江之子島を結ぶ橋として、慶応4年(1868)に架けられたと考えられる。新政府は同年5月の開港にそなえて、川口運上所(税関)を開設し、居留地の建設を促進した。これにともなって新しい橋も架設されたようである。

その後、明治9年(1876)9月に橋脚、高欄を鉄製とした橋に変わり、橋面の中央部を車馬道として区割されていたが、この橋が歩道と車道を分離した最初の例であった。明治18年(1885)の洪水で流出した。

その後、市電の第三期線の事業によって、大正2年(1913)6月に立派なアーチ橋に架け替えられた。この橋は意匠面でも多大な配慮が払われた。

同じ路線の本町橋と同じデザインとされ、橋脚は花崗岩製で側面にギリシャ建築に見られる石柱を模した装飾が施されていた。

現在の橋は、昭和41年(1966)、高潮対策事業の一環として架け替えられたものである。

●大阪市 西区 安治川橋 淀川水害（明治 18 年）



（碑文 背景 大阪市 HP から引用）

江戸時代初期までの淀川河口部には九条島が流れを遮る位置にあり、洪水がたびたび起こり、また土砂堆積により舟運にも不便をきたすことが多かった。このため貞享元年（1684）幕府の命により、河村瑞賢が水路を開削し、安治川と名付けられた。その後、周辺に富島や古川の新地開発が進められ、元禄 11 年（1698）に完成した。安治川橋はこの新地の開発に伴い初めて架設された。

江戸時代末期、幕府は開国に備え、この地を外国人居留地として、準備を進め、明治新政府によって明治元年（1868）大阪開港とともに外国人に競売された。居留地には、洋館や舗装道路が造られ大阪の文明開化の拠点となった。明治 6 年（1873）居留地の交通の便を図るために、新しく安治川橋が架けられた。

この橋の中央二径間は西欧から輸入された鉄橋で、高いマストの船が航行する

時には、橋桁が旋回する可動橋であった。当時の人々はこの旋回する様を見て「磁石橋」と呼び大阪名物の一つとなつた。

明治 18 年（1885）大阪を襲つた大洪水は多くの大川の橋を流し流木となって安治川橋に押し寄せた。

橋はこの流木や洪水に抵抗し、よく耐えたが、市内に洪水の恐れが生じたため、やむなく工兵隊により爆破撤去された。

●大阪市 西区 松島橋 淀川水害（明治 18 年）





(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

旧松島（西区本田一丁目）辺りは、尻無川の分流点にあたり、江戸時代には寺島と呼ばれていた。川沿いには造船所が多く、時々進水の祝いがあって賑やかであったという。寺島の北端には松の古木があって松の鼻とも呼ばれ、この風景を賞するため遊客を乗せた船が集まった。

明治の初めに川口に居留地が造られたこともあって、松島には市中の遊所を集めて、大阪最大の遊所が開かれた。この開発を促進するため明治2年に松島橋が架けられた。この橋は明治18年(1885)の大洪水によって流されたため、直後に鉄杭をもった木桁橋が架けられた。

松島橋が現在のような近代橋になったのは、戦前の都市計画事業である。

3径間のゲルバー式の鋼桁橋という当時の一般的な形式が採用されている。

●枚方市 小野平右衛門家 淀川水害（明治 18 年）



（碑文 要約）

近年の主屋根改修において、明治 18 年(1885)6 月の淀川洪水時による軒先浸水
時の鮎がミイラ化して屋根裏から発見された。

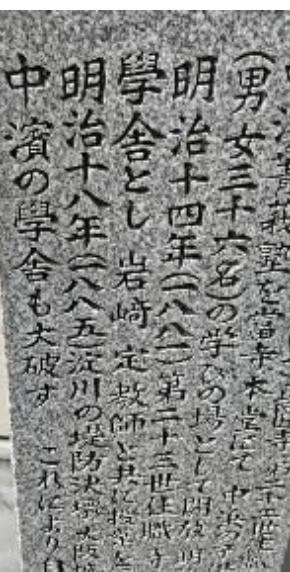
●大阪市 城東区 南中浜子安地蔵尊 淀川水害（明治 18 年）



（碑文 要約）

明治 18 年 (1885) 大阪東部一帯を襲った未曾有の大洪水で、当時大阪城の一角にあった此お地蔵様が平野川に流れつかれた。

●大阪市 城東区 正圓寺 寺子屋中浜菁莪塾 淀川水害（明治 18 年）



（碑文 要約）

明治 18 年 (1885) 淀川の堤防決壊により中濱の學舎も大破す。

●東大阪市 鴻池新田 朝日社 墾田紀功碑 淀川水害（明治 18 年）





†立ち入り不可のため「河内彷徨～郷土を見にゆく～」から引用

(碑文 要約)

去る夏の長雨、茨田郡伊加賀村の堤を壊す。実に 6 月 18 日のことである。北河内三郡は、全て壊滅しそうであった。この時に当たり、新田諸村の民は、励んで土嚢を築き、そして害を免れた。しかし長雨は益々甚だしくなり、30 日に堤は再び大きく壊れ、諸村は遂に全て水没した。

そこで小作人を日下の大龍寺に避難させた。

人口 650 名。7 月 15 日に初めて家に帰った。その寺にいる間、田主は毎日米を一人あたり 5 合与えた。家に帰り、なお米を与えること 30 日。また金千余円を出し、彼らを救う。家数百戸を数える。概ね享和 2 年の例に沿う。この天変が起こると、大水が広がること五里四方、水没をする民は数万。

それなのに新田諸村が難苦を免れたのは、どうしてまた、田主の先祖の余沢でないと言えるのか、いや、余沢に違いない。

どうしてこれを公表せずにいられよう。そこで追録し、あわせ以てこれを伝える。

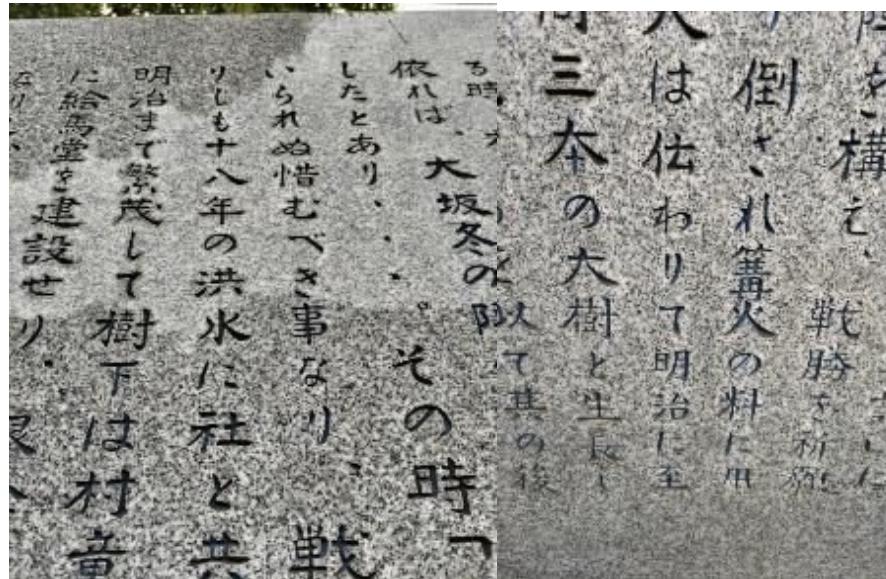
(碑文 背景)

明治 18 年（1885）に建てられたこの石碑には、河内平野の地形と大和川付替え、その後の鴻池新田開発の経緯が刻まれ、新田所有者の鴻池善右衛門宗利の功績が称えられている。

裏面には紀功碑建立と同年に起こった「淀川大洪水」について記されている。明治 18 年 6 月 18 日、現在の枚方市で淀川の堤防が決壊、鴻池新田にも氾濫した水が及び、人々は日下の大龍寺等に避難し、7 月 15 日になり、避難者はようやく各家に帰宅したが、その数は 650 人に上った。

それで、当時の鴻池家当主、善次郎幸方は一人に 5 合の米を与え、その後も 1 ヶ月にわたって千余円の金銭を拠出し、救済に当たった。

●大阪市 城東区 若宮八幡大神宮 由緒之碑 淀川水害（明治 18 年）





(碑文 要約)

若宮八幡大神宮は、当地域の土地柄が寝屋川（古くは大和川）、鯰江川の二つの川、また、古街道東西に貫通し低地であり地味砂土に富み、農耕に適し水運の便多く浪速に於ける庶民生業業の中心地として繁栄してきた。

その関係上浪速に都を定められ御製「高殿にのぼりてみれば煙たつ民のかまどはにぎわひにけり」に示された。

仁徳天皇の御遺徳をしのび、村民こぞって神祀を勧請御創建せしに始まると伝えられている。

「摂津名所図会」によれば、蒲生とは、名産に蒲穂あり、色美しく尺長く、良質のものが出来たと記されている。

蒲生の地名もここから出たものだろう。

神伝によれば人皇 103 代複土御門天皇の御宇、文明 14 年(1482)8 月畠山政長、畠山義就を河内守口城に攻めたる時、村民の崇敬篤く、神域広大なりし当地の神祀に、武運成就を祈願したと伝えられ、「難波戦記」に依れば、大阪冬の陣（鳴野、京橋口の戦い）において、佐竹義宣、当境内に本陣を構え、戦勝を祈願したとあり。

その時、「心なき軍兵の為、神木なる楠の大樹が地上より伐り倒され、篝火の料に用いられ惜しむべき事なり。戦後、佐竹家より矢を献納して贖罪の祈願を

なす。其の矢は伝わりて明治に至りしも、明治 18 年(1885)の洪水に社とともに流失せり。楠の根幹は其の後芽を吹き出し三百年間、3 本の大樹と生長し、明治まで繁茂して樹下は、村童の遊び場なりしが 20 年頃樹労頑に衰え三本共終に枯死せるを以って其の後に絵馬堂を建設せり。

根幹は其の絵馬堂一面の大きさなりと云えば戦時伐木せし楠の如何に大なるものなりしかと知るべし。従って樹齢も他の事例に推算せば、一千数百年前のものなることを認むべし」昭和 10 年(1935)の記録

以上の如く蒲生郷一帯の守護神として、(勝運、商売繁昌、五穀豊穫、安産、家内安全、厄除を祈願し)、世に蒲生の西向き八幡さまと絶大なる信仰をあつめて参りましたことを散見されている。

昭和十年社殿修営の大事業、並びに昭和 45 年(1970)御鎮 1500 年記念集殿御造営事業を竣工せしにより、佐竹義宣の本陣錄を表記として、碑を立つるものである。

改修 平成 27 年 6 月吉日 若宮八幡大神宮前宮司 森弥生

●四条畷市 四条畷神社 大橋房太郎君紀功碑・治水翁碑
淀川水害（明治 18 年）







(碑文 原文)

治水翁碑 子爵 後藤新平

此大橋治水翁頌功碑也名房太郎萬延元年十月十四日生于大阪府下榎本村為人慷慨尚氣節二十七歲舉為戶長後數為村長又當府會議員選為地方自治盡力者三十餘年處身義方忘私徇公府下水害以澠江為最翁深憂之潛心治水刻苦講究夙樹抑水大策獻白歎願奔走東西殆忘寢食淀川改修之大業底成實翁功居多焉水野内相贈以詩曰治水多年壅塞通澠江漲害一朝空洛南殷阜浴餘澤亦是拮頑神禹功衆遂呼君以治水翁明治三十六年二月賜藍綬褒章大正十一年一月更加賜飾版世以為榮君之功績與澠江俱不盡將有以自見後世矣府下綠藍會員情不能已胥謀欲勒其功于石屬文于余義不可辭乃敍其梗概爾

大正十二年八月五日

大阪府知事從四位勲三等 土岐嘉平撰

大阪府主事正五位勲五等 成田軍平書

※3 箇所の「澠江」はの「澠」は、現地は「澠」の古字体と思われる。

(碑文 背景 淀川河川事務所 HP から引用)

明治 18 年（1885）の洪水による大きな被害で、淀川の改修への要望は高まつたが、工事着手までには幾重もの困難があった。

陳情活動など淀川改修に生涯を捧げた大橋房太郎が中心となって実現への努力を重ね、ようやく明治 27 年（1894）に日本人技師で第 4 区（大阪）土木監督署長の沖野忠雄による「淀川高水防御工事計画」が内務大臣に提出される。

さらに、明治 29 年（1896）に河川法が制定され、わが国最初の本格的な治水工事が開始されることになった。これが 100 年前に完成した淀川改良工事である。

この工事は、上流から下流まで流域全体を見据えたスケールの大きい斬新な考

え方に基づいたもので、その範囲は琵琶湖から大阪湾までにおよんだ。新淀川の開削のほか、毛馬閘門と毛馬洗堰の建設、瀬田川洗堰の建設、宇治川の付け替えなど、明治43年（1910）までの約14年にもわたる歳月をかけて完成了。淀川改良工事は、当時の淀川の治水安全度を飛躍的に向上させ、地域の発展に寄与するとともに、その後の日本全国の河川における治水対策にも大きな影響を与えた。

●大阪市 城東区 野江水流地藏尊 淀川水害（明治 18 年）



明治 18 年の大洪水で当地に流れ着いたと伝わる「水流地藏」



(碑文 背景)

大阪北部一帯を襲った、未曾有の明治18年(1885)の大洪水時に、当地に流れ着いたとの謂れがあり、城東区民にとって忘れてはならない出来事の証人として、守り伝えなければならないお地蔵さんとされている。

地元町会に守られ、地蔵盆などの行事は毎年欠かさず行われている。

●守口市 守居神社 淀川水害（明治 18 年）



（碑文 背景『守居神社御由緒』から一部引用）

天文 13 年（1544）に林海の記した当社の由来記、又寶暦 13 年（1763）圓龍の写書等によると、天文 13 年（1544）7 月 9 日前代未聞の大洪水があり大門鳥居流失し社殿失損寶殿流損したので地方に寄進を仰いで辛うじて其の社域を再興し

た。

この時まで王城守護として北東向きであった神殿を南向に、寶殿を改造し營構したが昔日の結構には遙か及ばなかったという記録がみえる。

昭和 9 年(1934)9 月 21 日の室戸台風で社域の惨状恐懼の至りと成ったので氏子崇敬者の寄進を仰いで境内地を拡張し現今の大殿に造営營繕が進められ昭和 16 年(1941)10 月総工事竣成し遷座奉祝祭が盛大に執り行われた。

●大阪市 北区 富島神社 淀川水害（明治 18 年）



（碑文 背景）

明治天皇御製

明治 18 年(1885)の大洪水で淀川大改修となり明治 31 年(1898)に町民の立退きを命ぜられ各地に転居した。

それから二十余年たって今昔の情禁じ難く旧十三町民親睦を図るため思昔会を結成してここに記念碑を建てる。

十三思昔會

●大阪市 都島区 毛馬排水機場 淀川改修紀功碑 淀川水害（明治 18 年）





↑ 大阪城 残念石

(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

淀川の洪水は古代からたびたびくり返され、そのつど大きな被害をうけていた。なかでも明治 18 年(1885)の氾濫は、ようやく近代的発展をとげようとする大阪とその周辺に、甚大な被害をもたらした。

そのため淀川改修工事が急がれ、明治 29 年(1896)測量に着手、途中、日露戦争をはさみながらの困難な事業も同 42 年(1909)完了。

明治 29 年(1896)より始められた淀川改修工事は、上流部では瀬田川の浚渫と南郷洗堰の設置による琵琶湖水位の安定化、中流域では河川の屈曲部や川幅の改良、下流部では毛馬から下流を、川幅を広げ直線的に大阪湾に注ぐという、大規模かつ横断的なものであった。

工事は同 42 年(1909)に概ね終了し、これを記念して毛馬閘門と洗堰の間に淀川改修紀功碑が建設された。

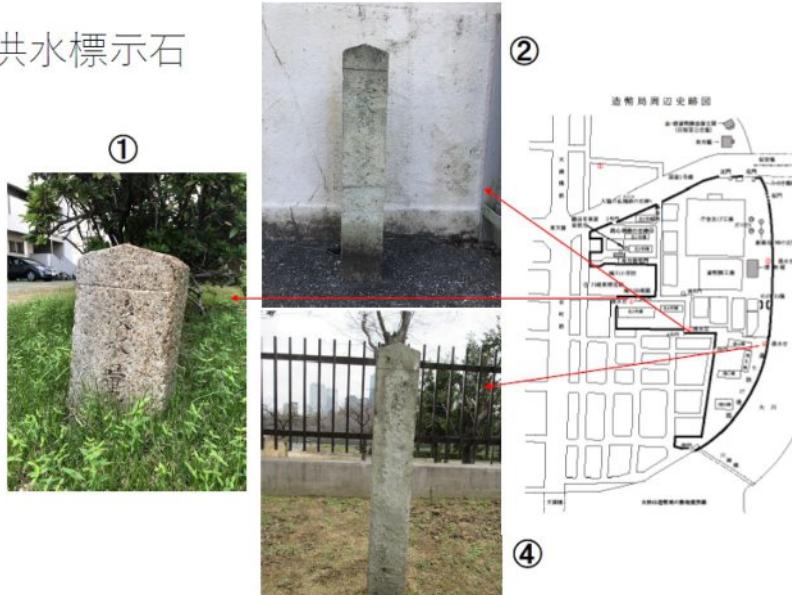
碑は高さ 10.6m、下半部は洋風建築の細部意匠を忠実に表現し、上半はゆるやかに上方を細めた円柱を立てた堂々たるものである。

大阪の近代化に重要な位置を占める淀川改修を象徴的に示す記念碑としても貴重である。平成 20 年(2008)、「淀川旧分流施設」として国の重要文化財指定を受けたことにより、大阪市の指定については解除された。

●大阪市 北区 造幣局 洪水標示石 淀川水害（明治 18 年）



洪水標示石



↑ 敷地内一般立入不可のため、守衛室配備のパンフ等から引用



↑同上

(碑文 背景)

明治 18 年(1885)の淀川左岸決壊時における浸水深を 4 箇所の標示石に明示

●柏原市 大和川右岸堤防 淀川水害（明治 18 年）



（碑文 原文）

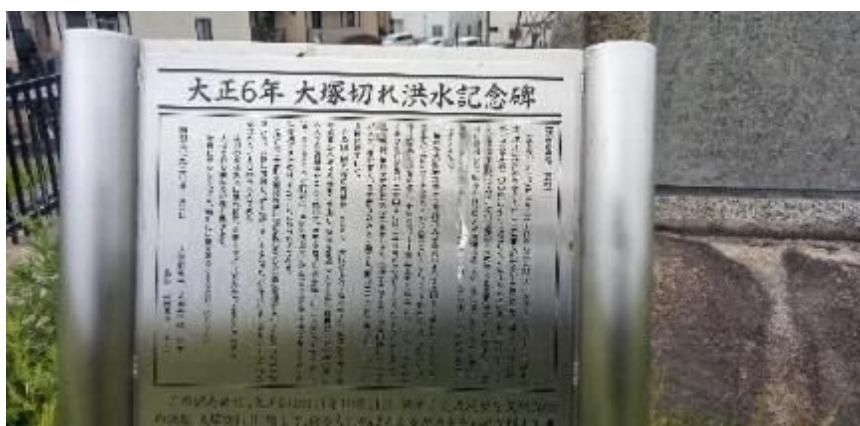
明治十八年六月十七日奠水暴漲潰決茨田郡伊加賀村堤防水勢滔々迺漂没攝河諸郡其丸月水土已平郡村底績建野知府事賑恤民度罹於災害者大起土功修築大和川堤防使後人免水災於未然嗚呼知府事之深仁厚澤與奠水其深漠豈始何乎哉乃記其實以為紀念碑云丹比高安大縣河内若江澁川郡長浦橋僭撰併書

明治十九年八月上浣 浦橋 僕建之 高萩彌一郎幹旋

（碑文 背景）

明治 18 年(1885)の「健野府知事顕彰碑」。この年におきた淀川大洪水の際に復旧に尽力して、水防に功績があったことがたたえられている。

○高槻市 大塚切れ 淀川水害（その他）



(碑文 要約)

大正6年（1917）10月1日、台風による大雨で淀川の水位が上昇し、高槻市大塚町の堤防が200mにわたって決壊した。家屋は流され、倒壊し、死傷者は数十人にのぼった。

後世への戒め

「居安必勿忘危」（安楽に暮らしていても、絶対に危機のあることを忘れてはならない）

○大阪市 西淀川区 大塚切れ 淀川水害（その他）



（碑文 背景 西淀川区 HP から引用）

大正 6 年 (1917) 9 月末の豪雨により淀川右岸三島郡大冠村(現在の高槻市)大塚の堤防が 200 メートルにわたり決壊した。この洪水の決壊個所から「大塚切れ」と呼ばれた。三島郡の大半を沈め当時西成郡であった現在の東淀川区、淀

川区、西淀川区一帯は泥海と化し、十三付近で浸水八尺(約 2.4 メートル)に達した。この洪水による浸水町村数 31、罹災戸数 1 万 5497 戸、罹災人口 4 万 6491 人に達した。当時の福村では、10月1日夕刻、村民に対して避難するよう通告された。そして3日昼過ぎ、さらに濁流が押し寄せた。そして10月中旬ようやく淀川の水位が下がりはじめた。浸水各村内の水位の方が淀川より高いので、今の国道43号より上流約 200 メートルの個所で淀川の堤防を切開して停滞していた湛水を淀川へ流し出した。

福村で地面を見ることができるようになったのは、ほぼ1ヶ月後の11月5日であった。

現在、湛水を流し出すために堤防を切開した地点の右岸堤防に大塚切洪水碑が建てられている。

●摂津市 千本つきの歌 淀川水害（その他）





(碑文 原文)

千本つきには 調子がござる足と手と口 三拍子。

(碑文 背景)

千本つきとは、土木作業の一種の地固め作業のこと。

古代から淀川は、沿川に住む人々に多くの恵みをもたらしたが、その半面洪水が多く、推古天皇の時代から記録に残されているものだけで、250回を越えるといわれている。

そのつど労役に駆り出されたのは、両岸の農民達であった。明治18年(1885)の大洪水をきっかけに、本格的な堤防工事が始まり、沿岸の農民達は労働者として河川工事に参加。男達はモッコやトロッコで土を運ぶ仕事をし、女達は五尺(1.5m)ほどの杵を持って堤防上に並び、土砂を突き固める作業を受け持った。そのとき歌われた「千本つきの歌」の冒頭部、「千本つきには／調子がござる足と手と口／三拍子」が石碑に刻まれている。

●枚方市 上庄南之口樋跡 淀川水害(その他)

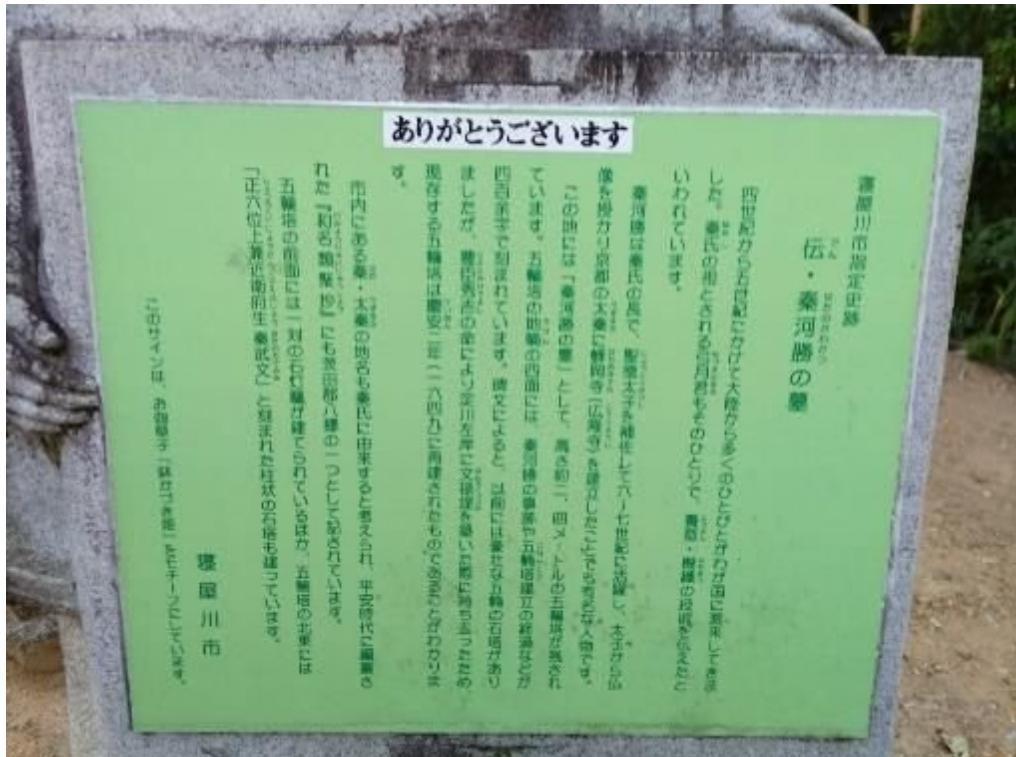




(碑文 背景)

江戸時代に淀川大洪水があり、洪水を下流に流す為に五兵衛が赤井堤を切ったと誤解され、下流の村人からリンチにあい殺された。
後に新たに赤井堤に悪水を流す樋が造られこれを五兵衛樋と呼ばれた。

●寝屋川市 伝・秦河勝の墓 淀川水害(その他)





(碑文 背景)

6~7世紀に聖徳太子を補佐し活躍したと伝わる秦河勝の墓

秦山と呼ばれる寝屋川北岸の丘陵上にある。墓は中央に高さ 2m あまりの五輪塔が立てられており、地輪の四面に秦河勝の事跡や五輪塔建立の経緯などが 400 余字で刻まれているが、ほとんど解読できない。

文禄 3 年 (1594)、豊臣秀吉が文禄堤築造など淀川を改修したとき、近辺の石を運んで堤敷としたため、このお墓は、荒らされて五輪塔などの石類はほとんどなくなった。その後五輪塔などは慶安 4 年 (1649) に秦氏の子孫らが修復、再建された。

秦河勝は、太秦の広隆寺を建立したとして有名であり、京都が本拠地と思われがちであるが、広隆寺の記録などからも寝屋川市のこの地が本拠地という説が有力。

この墓のある周辺の町は秦氏ゆかりの土地らしく、川勝町・秦町・太秦といった地名が現在でも使われている。また、大阪八尾市にも秦河勝が建立したといわれる寺院がある。

五輪塔南側に一対の石灯籠が建てられているとともに、五輪塔の北東側には「正六位上兼右近衛府生秦武文」と刻まれた方柱状の塔がある。

秦河勝は、朝鮮半島より渡来した最大の渡来集団であるとされる秦氏の出身とされ、飛鳥時代に聖徳太子の側近として京都太秦に現在の広隆寺を建てた人物として知られている。

山背国葛野の秦氏の族長的地位にあったとされる秦丹照または秦国勝（丹照の弟）の子供とされている。

河勝は秦氏の軍事力や経済力を背景にはやくから厩戸皇子（聖徳太子）の側近として活躍した。

ある日、天皇（欽明天皇）は「私は秦の始皇帝の再誕である。縁あって この国に生まれた」と名乗る子供と出会う夢を見た。

そしてその後で、初瀬川が氾濫した時に三輪大神（神社）の前に壺に入った一人の童子が流れ着いて、自ら「私は秦の始皇帝のうまれかわりである」と名乗ったという。そこで、この童子を殿上に召しかけ、童子に「秦」の姓（かばね）を与え、川の氾濫より助かったことから「河勝」と称したとされている。ハタというのは古代朝鮮語で「大（おお）」とか「多（おお）」と同じ意味を持ち、古代日本の種族とされる大氏、多氏（オオ氏、オホ氏）などと通じるものがある。

推古天皇 11 年（603）聖徳太子より弥勒菩薩半跏思惟像（現・国宝第一号、通称宝冠弥勒（ほうかんみろく））を賜り、京都市北区付近に、蜂岡寺（はちおかでら）を建てそれを安置したと言われている。

蜂岡寺は現在の広隆寺で、その他に秦氏の氏寺であることから、秦寺（はたのでら）、秦公寺（はたのきみでら）、葛野寺（かどのでら）、太秦寺（うずまさでら）などとも呼ばれてきた。

現存する伽藍は平安末期以降の再建で、現在の太秦に移ったのは 794 年の平安遷都の頃とも考えられているが、記録は焼失し不明。

太秦の地名は「聖徳太子の太」と、「秦氏の秦」からとったものと言われている。

河勝は赤穂で千種川の開拓を進め、大化 3 年（647）に亡くなったとされる。そして、大避神社に大避大明神として祀られており神社の神域である生島には秦河勝のものと伝えられる墓（古墳）がある。

●大阪市 北区 将棊島粗朶水制跡 淀川水害（その他）





(碑文 要約)

将棊島は、淀川の水が寝屋川・鯰江川に逆流して水害を引き起こすのを防ぐために、三つの河川の合流点の網島から天満橋を越えて 236 間（約 430m）余り下流まで築かれた隔流堤で、幅 7 間（約 13m）あった。

淀川治水のため、明治 6 年（1873）に来日したオランダ人技師デ・レーヶ、エッシェル、ティッセンの 3 人は、その翌年、将棊島地先にオランダ式の粗朶沈床による水制工を実施した。これは木の枝を束ね、組み合わせたものに石を詰め、河岸から河の中央に向かって設置された突起物で、水の勢いを弱め、護岸に効果があった。

この工法はケレップ水制とも呼ばれ、現在でも城北公園北側の淀川左岸にその名残を留める。

デ・レーヶは来日してから 29 年間、大阪にとどまり、淀川の治水と大阪湾の建設に尽力した。

●大阪市 淀川区 圓稱寺 淀川水害（その他）



（碑文 背景）

淀川改修中津村旧址記念碑

淀川は、昔から大洪水が多いことで有名で、明治時代には 10 回もの大洪水が起り、多くの死者や行方不明者がでた。

たまりかねた政府は外国から土木技師を招いて工事にかかったが、それでも大洪水を防げなかった。

そこで大阪市は、思いきって沖野忠雄工学博士を起用し、大規模な工事を伴う画期的な計画をたて、周りの誹謗や反対にもかかわらず、大変な苦労の末、明治 42 年(1909)にこの難工事を完成させた。

●大阪市 淀川区 十三大橋 淀川水害（その他）



(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

十三という地名は、旧成小路村（現在の淀川区新北野付近）の字名の一つで、十三の名の起こりは条里制の十三条に由来するという説もあるが、淀川の渡しのうち、上から数えて 13 番目であったこととする説が有力で、江戸時代以前から”十三渡”があったとされる。

この地に初めて橋が架けられたのは明治 11 年（1878）のことである。江戸時代には淀川や中津川には 1 本の橋も架けられていなかったが、明治になって架橋の運動が起り、この気運の中で成小路村村民 13 人の共同経営の橋として、明治 10 年（1877）9 月に架橋の許可を得、11 年（1877）3 月起工、同年 7 月に竣工した。

私設橋であったため有料であった。

この付近で新淀川の開削工事が始まったのは明治 32 年（1899）、これにともない明治 42 年（1909）5 月に鉄橋が完成した。

●大阪市 都島区 毛馬排水機場 淀川左岸水害予防組合設立記念碑
淀川水害（その他）



(碑文 背景)

大正 6 年(1917)に大塚で堤防が切れる惨事があり、これを契機に、枚方切れで被害を受けた地域を対象に大正 8 年(1919)11 月に、「淀川左岸水害予防組合」が設立された。

本組合設立以前も当地には水害予防組合がいくつかあったが、これらを解体して広域的な組合に改変・統合した。堤防で囲まれた低湿地では地域間の利害が対立することが多かった。本組合の設立を記録した文献には、「利害関係を異にする地域等ありて、衆議容易に決せざりし」ところ、当時の府知事の企図にもとづき大正 8 年(1919)4 月から「漸くにして其設立に着手するに至れり」と簡単に述べられている。しかし、広域的な組合の結成は恐らく容易ではなかった。そして、水防長の下に水防部長 18 名、組頭 145 名、小頭 246 名、水防手 2,460 名が初代の水防団員として任命されて、実質的な活動を開始した。

水害予防組合とは、明治 23 年の「水利組合条例」に基づいて設立される公共組合で、水害を受ける区域に土地・家屋・工作物を所有する者を組合員とする。組合は、組合員から選挙によって選ばれた議員により運営され、組合員から徴する組合費を主たる財源として水害の防御活動を行う。

よって、組合とは、江戸時代から存在した村落等を中心とする共同体を法制化したものであるといふ。水利組合条例の下にあつたため、水防だけでなく利水に係る活動も行った。

戦時中の河川の荒廃などにより、戦後は各地で水害が相次いだ。水防組織の整備と水防活動の強化を図るため、昭和 24(1949) 年に水防法(昭和 24 年法律第 193 号)が制定された。

さらに、33 年の同法の改正(昭和 33 年法律第 8 号)で、水防に関する第一義的責任が市町村にあることを明確にし、A 町の堤防が破堤すればその下流にある B 村まで被害が及ぶ場合など単独の市町村で水防責任を果たすことが困難または不適当な場合は関係する市町村が「水防事務組合」を設立しなければならないとされた。

水防事務組合とは、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 284 条に定める「一部事務組合」のひとつで、地方公共団体がその事務の一部(ここでは水防)を共同して処理するために設ける特別地方公共団体である。

水防法の改正により、淀川左岸水害予防組合は「淀川左岸水防事務組合」に改組された(33 年 12 月)。新たな組合は、構成する市町村の議会の議員から選任された者がその議員となり、市町村の分担金等を財源として活動する。ここにおいて、水防活動が江戸時代から続く受益住民の共助としての性格から市町村が行う公助へと転換した。

的確な水防活動を行うためには、河川管理者が有する水位等の情報を活用する必要がある。

現在の淀川左岸における水防活動の流れは、河川管理者である淀川河川事務所及び枚方土木事務所から、水防管理者である水防事務組合を通じて水防団の待機・準備・出動等の水防活動の必要に関する情報が伝えられる。

水防団は、河川管理業務のうち、水防に係る現地実務を担うという位置づけ。水防団の定員は、防潮筋を加えて 4,959 人。団員は非常勤の特別職地方公務員という身分で、平時はそれぞれの業務に従事し、非常時には水防団長の指示により参集して水防活動にあたる。水防活動といえば堤防に土嚢を積みシートを張るイメージがあるが、災害時における避難誘導・救助活動等、被害を最小化する活動の一切が含まれる。これは、現在の淀川左岸水害予防組合の団体を結成したのを記念して作られた石碑で、碑文には大正 14 年 10 月 1 日と刻まれている。

●大阪市 都島区 毛馬排水機場 毛馬北向地蔵 淀川水害(その他)





(碑文 要約)

自然石の前面に彫刻されたものが両サイドに安置され、真ん中に祀られているお地蔵さんは、角の取れた自然石そのものようである。

一体は、明治の終わりごろに旧毛馬洗堰新設工事のとき、浚渫により、大川から発見された。

一体は、大正9年(1920)頃、内務省機械工作所が旧光龍寺（十三付近といわれている）の整地のときに掘り出された。

一体は、昭和6年(1931)頃、土佐堀の旧内務省大阪土木出張所（現建設省近畿地方建設局）敷地内にあったものを移転し、この地に安置された。

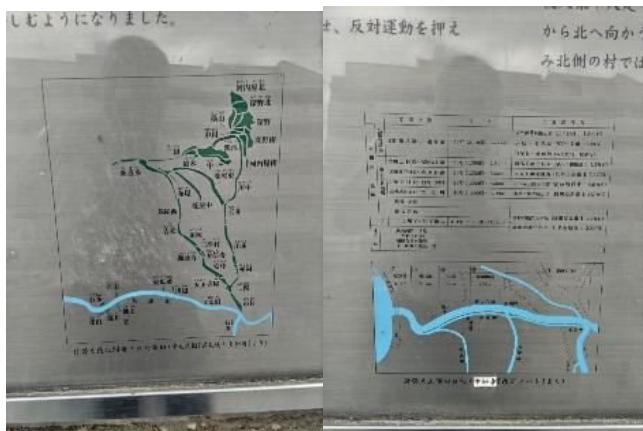
このお地蔵さんは、その昔、聖徳太子が仏教を広めるために大阪市天王寺区に今もその名が残る六万体町で六万体のお地蔵さんをつくらせ、全国にそれを安置させたそのうちの三体である。

歴史的にも古く、淀川を洪水から守っていただくななど、靈験新たかなお地蔵さんで、遠くからの参拝者も多く、毎年8月23日の地蔵盆には御詠歌で供養されている。

●東大阪市 中甚兵衛翁碑 大和川水害







(碑文 原文)

從五位中甚兵衛翁碑 大阪府知事從三位勲二等大久保利武書
 君中氏諱重成通稱甚兵衛晚年薙髮號乘久河内今米村人家業農君容貌魁偉資性剛毅有識量夙懷改修大和川之志語人曰吾必欲成斯事業以貽惠於後世子孫蓋大和川之流入河内也至柏原與石川會更分流轉注複合而入于淀河而其爲水災所由來久矣寧樂朝以降朝廷苦之數有築河內隄使之命和氣公嘗建議欲自荒陵南導川通于海而不成厥後數百年氾濫不已洎德川氏之初沙泥壅塞河身漸與岸平漲溢橫流之災無歲無之瀕河人民不知所爲君深憂之曰方今要務莫急於治水焉而浚河修隄是姑息之計耳於是究水源相地勢潛心精思遂立開通新河之案曰自柏原西折直注于海是順水勢也如斯則災害始除而支川巨沼埋爲田當得數百頃是實萬世不易之策也明暦三年君年十九單身赴江戸請幕府不允而還然志操彌堅規畫益精奔走盡力傾家產而不顧屢訴代官然其所謂新川近邑之民恐其被割田廬哀訴不已且詆毀百方力排君說君不敢屈誓以一身當其衝既而再請幕府復不允至於貞享元禄之際水災荐臻歲加酷民窮困哀訴而官未爲之計也君見機更開陳宿志辯說頗力時萬年長十郎爲代官嘉其說自詣幕府具申焉於是幕議始定乃發修河令傳命本多忠國伏見主水大久保某及萬年等掌之舉君與其事君欣躍不禁乃出積年所考究測度之圖書簿錄悉呈之且日夜督役甚力起工於元禄十六年十月告竣於寶永元年十月於是河患全除且得新田八百餘頃焉蓋自君之致意於治水閱歲殆五十至此素志始達矣官賞其功特許帶刀稱姓君拜謝曰無復遺憾矣享保十五年無病而歿享年九十有二君逝後百數十年嚮苦水患地變爲樂土人不復知其古君之績亦將湮沒不聞會大正三年秋今上天皇陛下閱武於攝河之野追賞地方忠臣賢良君亦得與其選之榮贈從五位頃日中河内郡吏民深德君之志業相謀欲建碑以傳不朽屬予文予素慕君之爲人者因叙其事且爲之銘曰

湯々洪水※ 民人憂傷 天生偉器 方土載康 新河既道 百穀穰々
 帝嘉厥績 遺德孔彰 猶嗟卓兮 邦家雋良 勒銘千載 煥有輝光
 大正四年十一月 清溪 西山全太郎撰 月峯風間金次書

※湯々洪水の「洪」は原文では「シ」に「降」のつくり

(碑文 要約 東大阪市の現地説明文)

江戸時代の初め、河内平野を幾本にも分かれていた大和川は、土砂の堆積により川底が上がり始め、度々洪水を引き起こしていました。

寛永 16 年(1639)今米村に生まれた甚兵衛は、明暦 2 年(1656)父が亡くなった後、河内各地の庄屋とはかり、大和川を柏原よりまっすぐ西に付け替えるよう再三幕府に訴えました。しかしながら、新川筋にあたる村々より強い反対が起ることもあって、幕府は付替えをなかなか受け入れず、何回も淀川と合流する辺りからの大坂河口の改修を行うことで対処しました。

元禄 12 年(1699)大坂河口の治水工事も終了しますが、河内平野の村々の状況はいっこうに改善されず、その翌年・翌々年と大水害が続き、年貢は全く収められないことになりました。ついに幕府は方針を転換、付替えを担当することになった堤奉行の万年長十郎のもとに、甚兵衛は何度も罷り出て意見を具申しました。

こうして元禄 16 年(1703)10 月、付け替えが決定しました。この時甚兵衛は 66 歳、運動開始から 50 年近くが経っていました。

付け替え工事のあいだ(翌年 2 月～10 月)、甚兵衛はその力量を認められて普請御用を勤め、工事完成後、功績により名字帶刀を許され中甚兵衛を名乗りました。翌宝永 2 年(1705)に剃髪、法名乗久を名乗り、享保 15 年(1730)9 月、92 歳で亡くなりました。

この石碑は、大正 2 年(1914)陸軍の大演習が行われたのを記念して有志により建立されたものです。

平成 16 年 10 月 東大阪市

●柏原市・藤井寺市 大和川付替碑 大和川水害



(碑文 背景)

久保田翁寿碑

高安郡万願寺村に住んでいた久保田伝次郎が久宝寺村の高田仁兵衛と共に樋を修復した。

そしてこの地域（六郷地区）の治水を行って農産物増収に貢献したことを表彰するもの。



(碑文 要約)

大和川と石川の合流する築留地区は大雨になれば水が溢れ、非常に危険である。

明治 20 年(1887)10 月の大霖により、決壊の危機となり、役人や村長、年番らが 1500 余名の役夫を指図し、死にものぐるいで決壊を防いだ。

こうした災害を防ぐ為に水門の改修には煉瓦を用いることとし村会に提案し 12 月 4 日に着工、人夫の働きにより明治 21 年(1888)3 月 25 日完了、樋門は堅牢で将来永く崩れることなく後世に伝わることが期待される。

(碑文 背景)

深瀬郡長顯彰碑

上には「長瀬此利」と書いている。

瀬和直が大和川の治水に尽力した。



(碑文 背景)

1906年（明治39）の畠中翁碑

畠中六右衛門が大和川付替え当時、代官万年長十郎に従い功績があった。

それを子孫の畠中好太郎が称えて作った。



(中畠翁像 背景)

工事請負人姿の甚兵衛が左手に図面を持ち、右手の指は付け替え地点を差し示していた。

通説によれば寛永 6 年（1639）、河内国今米村（現在の東大阪市）の庄屋川中九兵衛の三男として生まれた。父九兵衛は悪川である大和川の付け替えを何度も幕府に嘆願したが、志を果たせぬまま亡くなる。九兵衛の遺志を継いだ甚兵衛は責任の一切を引き受け、直接に江戸出訴を試みるなど以後 40 余年にわたって訴願活動を続けた。一方、大和川の付け替え予定地にあたる村々では、新しい川によって先祖伝来の家や田畠がつぶされるため、激しい反対運動や嘆願活動が起り事業はなかなか進展しなかった。

甚兵衛を支持したのは大坂の代官万年長十郎である。万年は堤奉行も兼ね、河村瑞賢の治水工事に随行した経験もあって、甚兵衛の資料をつぶさに検討した。その結果大いに共鳴し、率先して幕府への陳情を行った。

元禄 16 年（1703）、幕府は大和川付替えを正式に決定し、翌年 2 月 27 日、工事は川下にあたる堺の海側から開始される。

河州志紀郡柏原村と船橋村の中間である石川合流点付近から堺浦まで西へ真直ぐ流す、延長 131 町（約 14km）・幅 100 間（約 180m）の川筋を、盛り土や高台を切り開く工法で工事は進んだ。

工事区間は、幕府が費用を負担する「公儀普請」と「御手伝普請」とに分けて進められ、幕府側の担当者は大目付の大久保甚兵衛、代官の万年長十郎らで、甚兵衛も「普請御用」として現場に立った。

幕府とそれぞれの藩が競うように工事区間を分担遂行した結果、当初 3 年と見込まれた工事はわずか 3 ヶ月足らずという早さで完成した。

この付け替えによって、中河内の村民は水害を免れ、鴻池新田をはじめ 1,060 町歩（約 1,050ha）の新田が続々と開発された。農業が盛んになり中河内は全国一の綿作地帯として大発展を遂げる。

一方、付け替え後の大和川の南の村々では降雨ごとに新堤防のため悪水を排水できず、災害から逃れることはできなかった。

甚兵衛は、付け替え完成の翌年仏門に入り「乗久」と名乗り、ひたすら信仰に生きて、享保 15 年（1730）9 月、91 歳の天寿を全うした。



(碑文 背景)
大和川付替 250 年記念碑
昭和 29 年(1954)に作られた。

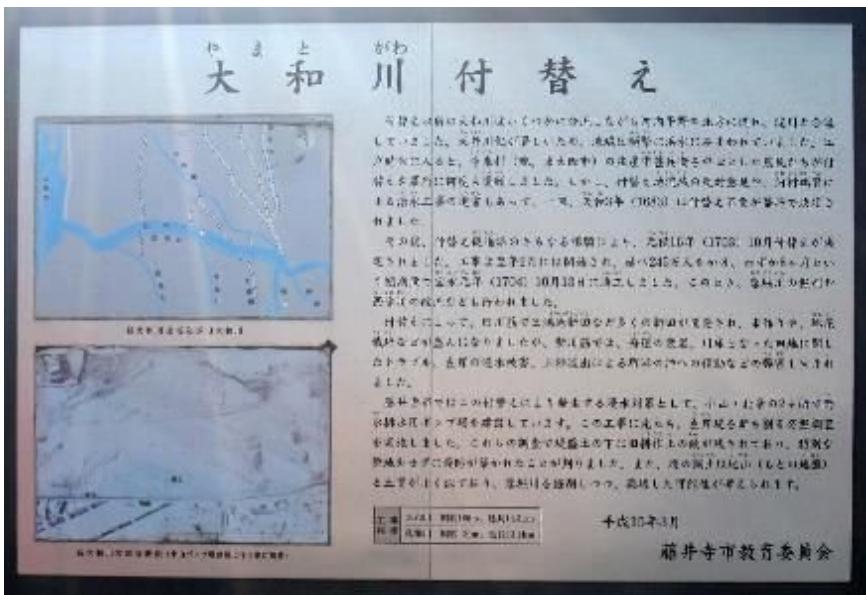




(碑文 背景)

大和川付け替え完成後、旧大和川跡の新田に農業用水を供給するため取水樋門が設けられ、旧河道には長瀬川と玉串川という水路が造られた。人工の長瀬川は、今では国土交通省選定の「日本の疏水百選」の一つになっている。

また、治水公園の裏手の築留土地改良区には、明治 40 年 (1907) に改造されたアーチ形でレンガの「築留二番樋」があり、大和川の水が今も勢いよく流れ込んでいる。



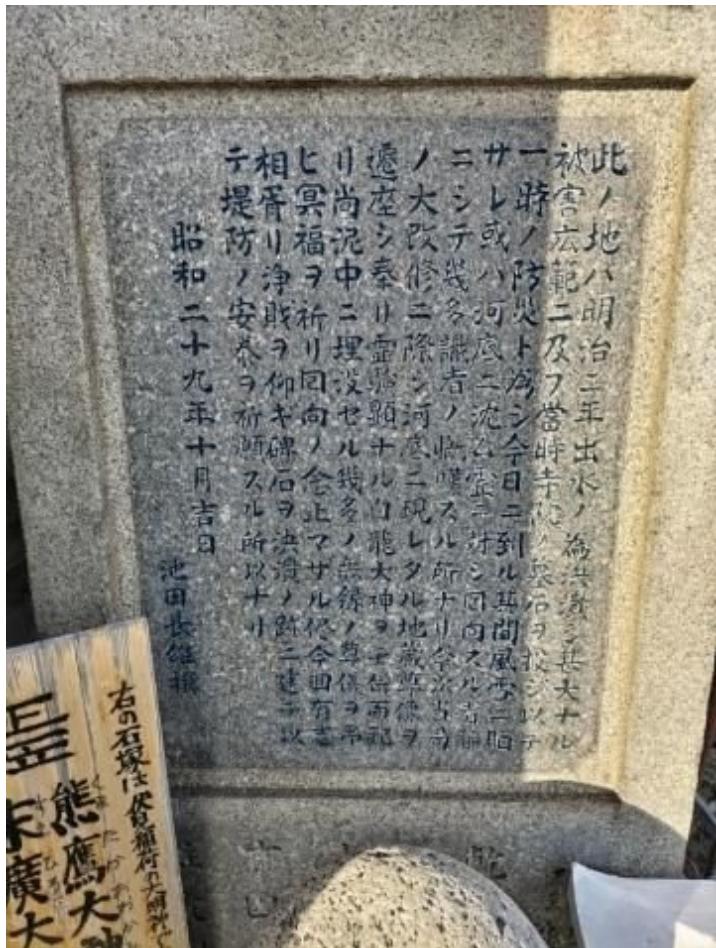


(碑文 背景 大和川河川事務所 HP から引用)
昔の大和川は、亀の瀬の下流の「築留」から北へ向かって流れ淀川へ注いでいた。
しかし、河内平野は低湿地であったため、たびたび洪水を起こしていた。

そこで、宝永元年（1704）に付替え工事が行われ、築留から西向きに流れ、堺の方へ流れる新しい大和川（現在の流路）が開通した。

現在、この築留には大和川治水公園として、付替えの功労者である中甚兵衛の銅像や付替え碑などが整備されている。

●大阪市 住吉区 堤防安泰祈願の碑 大和川水害





(碑文 要約)

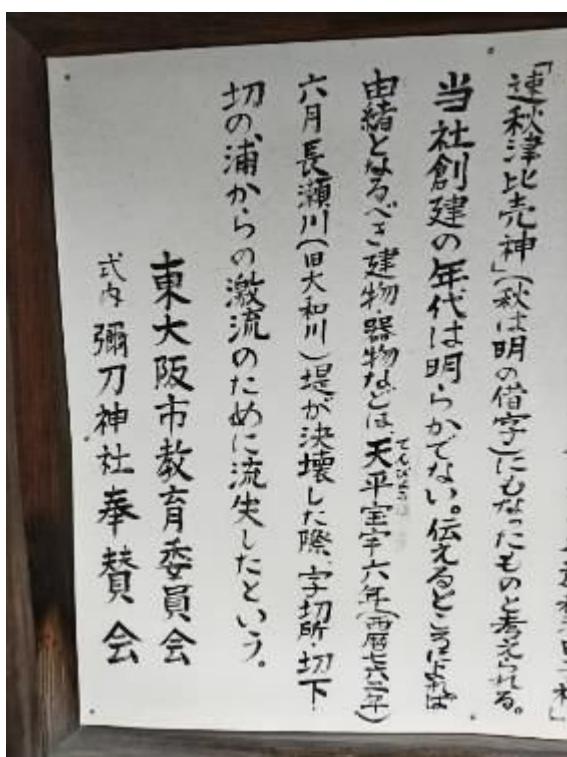
明治の初めの堤防決壊の補修に、やむなく寺院の墓石などを用いたことがあり、その後放置の状態が続いたが、戦後の河川改修の際に、川底から地蔵尊像が現れた。

墓石に混じって、地蔵尊の石像も、堤防補強に使われた。

その際、発掘された地蔵尊像を遷座し、白龍神像を合わせて祀ることで、今なお埋没する幾多の無縁仏を弔い、冥福を祈るようになった。

堤防決壊の跡に、この石碑を建て、堤防の安泰を祈るものである。

●東大阪市 彌刀神社 大和川水害





↑現 長瀬川

(碑文 背景)

由緒となるべき建物器物などは、天平宝字6年（762）6月に長瀬川（旧大和川）が決壊した際、字切所、切下、切の浦からの激流により流失した。

●大阪市 鶴見区 寝屋川改修記念碑 寝屋川水害



(碑文 要約)

寝屋川は交野市星田を水源とし、河内から大阪市内までを東西に結ぶ重要な水路である。

かつては農作物や肥料を運搬した剣先舟や、野崎参りの屋形舟が利用していた。

洪水時には、濁水が氾濫して住民に危険が及んだことから、「放出の太閤さん」と称された大橋房太郎が立ち上がり、寝屋川改修を訴え続けた結果、大阪府は改修工事に着手し、昭和2年（1927）に新喜多橋～徳庵区間が竣工した。

●大東市・寝屋川市 寝屋川治水緑地竣工 寝屋川水害



(碑文 背景)

寝屋川治水緑地は、大東市深野北と、寝屋川市河北にまたがる、50.3ha の地域に建設されている。

普段は運動広場や公園として利用され、大雨の時には河川からの洪水を計画的に一時貯留することによって、下流河川の水位低下と流量負担軽減を図り、洪水による被害を防止する施設である。

●寝屋川市 寝屋川改修記念碑 寝屋川水害



(碑文 背景 寝屋川市 HP から引用)

昭和 45 年(1970)の建立で、知事が揮ごう、建立世話人 4 人、発起人 18 人の名前が刻まれている。

水路としての寝屋川は、北河内と大阪市内を結ぶ重要なルートで、かつては農作物を運ぶ剣先舟でにぎわった。その一方、しばしば洪水を起こす暴れ川でもあった。

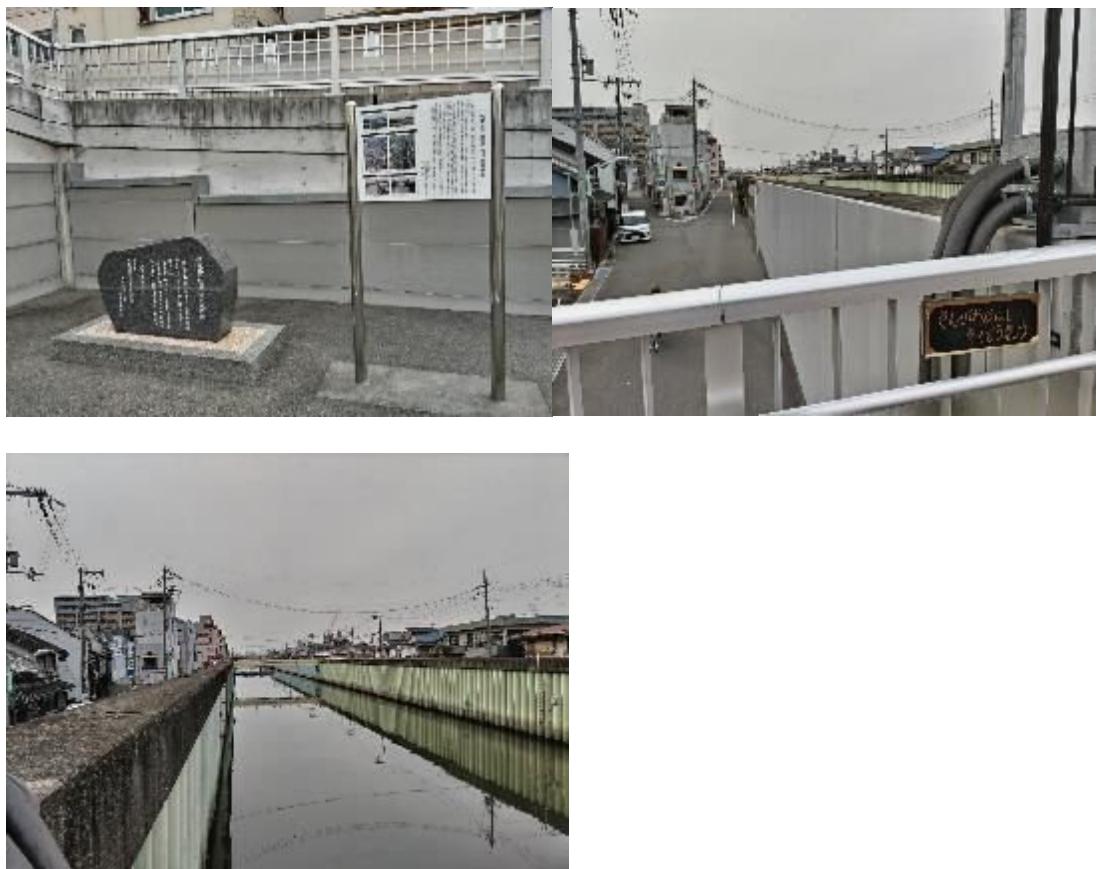
碑は第 2 次治水計画による改修を記念して建立された。

しかし 2 年後、九州から関東地方にまで被害を及ぼした「昭和 47 年(1972)7 月豪雨」の折に、寝屋川流域は大東市などで大規模な水害が起きた。人間の歴史は水との戦いの歴史だといわれている。

寝屋川治水計画は平成元年(1989)、流域の基本高水流量を大幅に見直す第 3 次治水計画を策定、豪雨に備えている。

●大東市 住道地区河川改修完成記念 寝屋川水害





(碑文 要約)

住道地区河川改修完成記念

昭和 40 年代に着手した大東市住道地区における河川改修の完成を記念しここに建立する。

本事業に協力いただいた地元の方に感謝をすると共に尽力した多くの関係者、技術者の労をねぎらい大東市域の安寧を祈念する。

平成 30 年 3 月

大東市

大阪府寝屋川水系改修工営所

元大阪府副知事 吉田喜七郎 書

○大阪市 城東区 今福小学校 室戸台風（学校内）



（碑文 背景）

昭和 9 年(1934)9 月 21 日の朝、近畿地方一帯を襲った室戸台風により、城東区内では寝屋川、平野川が氾濫したため新喜多、鷺野、蒲生、今福、放出、中浜一帯が浸水し、多数の家屋に被害が出た。

鰐江第三小学校（現在の今福小学校）が暴風に耐えきれずに全壊し、児童 33 名の命が奪われた。

子どもの犠牲が大きかったのは、台風襲来時と登校時が重なったことと、木造校舎の倒壊のためであり、以後大阪市では校舎の全面鉄筋化を進めることとなった。

○大阪市 城東区 聖賢小学校 室戸台風（学校内）



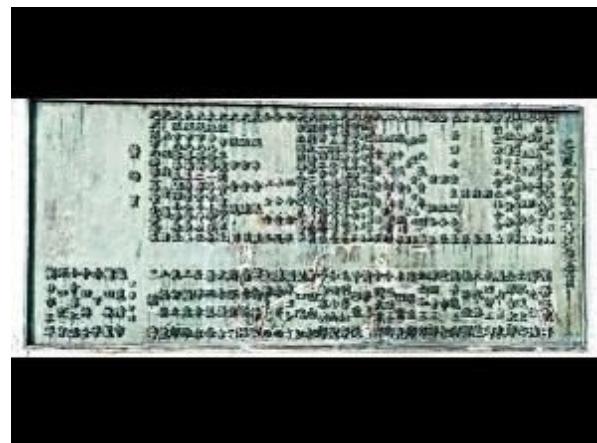
（碑文 背景）

昭和9年(1934)9月21日の朝、近畿地方一帯を襲った室戸台風により、城東区内では寝屋川、平野川が氾濫したため新喜多、鳴野、蒲生、今福、放出、中浜一帯が浸水し、多数の家屋に被害が出た。

鯨江第二小学校（現在の聖賢小学校）が暴風に耐えきれずに全壊し、児童22名、児童の兄1名、教員1名の命が奪われた。

○大阪市 西区 九条東小学校 室戸台風（学校内）





(碑文 原文)

昭和九年九月二十一日早暁室戸岬を掠メタル風速六十米突ノ猛颶風ハ三米突ニ近キ高潮ヲ伴ヒ其ノ日午前八時我力大阪市ヲ襲ヒテ實ニ前古未曾有ノ惨禍ヲ齎ラシ市内住家工場店舗ノ倒壊流失公営物ノ損害等算ナク死者九百九十名重輕傷者一萬六千九百八名ニ上レリ

就中小学校ノ被害最モ甚タシク校舎ノ全壊二十八半壊七十一大破七十七ニ及ビ爲ニ殉職教員七名慘死児童二百六十九名ヲ出セリ我力九條一圓亦此ノ禍難ヲ免

ルゞ能ハス烈風ニ屋根瓦ハ木ノ葉ノ如ク飛散シ濁流ハ滔々トシテ全戸ノ床上ヲ
浸シ街上恰モ舟ヲ行ルヘク交通通信ノ便杜絶シ電燈モ之ヲ点スルニ由ナク上水
並ニ瓦斯ノ用モ亦断タレ各学校ニ殺到セル避難者數百名ニ達シ人心競々危惧困
惑名状スペカラス斬ル前代未聞ノ大雙災ニ遭遇シテ然モ當聯合區内ニ一人ノ死
傷者ヲモ出サスシテ復興挽回ノ途ニ就クヲ得タリシハ是レ洵ニ神明ノ加護ニ依
ルモ區内各学校関係者應急ノ措置ノミナラス青年團在郷軍人分會國防婦人會專
ラ警備配給ニ任シ方面委員衛生組合ノ諸氏等主ニ救護衛生ノ衝ニ當リ各々挺身
戮戰力シタリ其ノ労ヤ多トセサルヘカラス爾來當路者ノ熱誠ト區民一致ノ不撓
ノ努力ハ禍ヲ轉ジテ福ト爲シ今ヤ新興ノ氣街衢に漲り損傷甚ダシカリシ第一第二
ニ第五各小学校ノ復興モ目睫ニアリ此時ニ方リ九條教育會ハ各種公共團體ト相
議リテ此ノ災雙ノ事蹟ヲ碑ニ刻シ以テ向米ノ鑒に備フ

昭和十三年三月

(碑文 要約)

昭和 9 年(1934)9 月 21 日の朝方、室戸岬（高知県）より風速 60m の突風台風
は、3m ほどの高潮と伴い、午前 8 時に大阪市を襲い、これまでにない惨禍を
もたらした。

市内の家屋、工場、店舗は倒壊・流失、公営物の損害等あり、死者 990 名、重
軽症者 16908 名にのぼった。

なかでも小学校の被害は最も甚だしく、校舎の全壊 28、半壊 71、大破 77、そ
れに、殉職教員 7 名、慘死児童 269 名に及んだ。

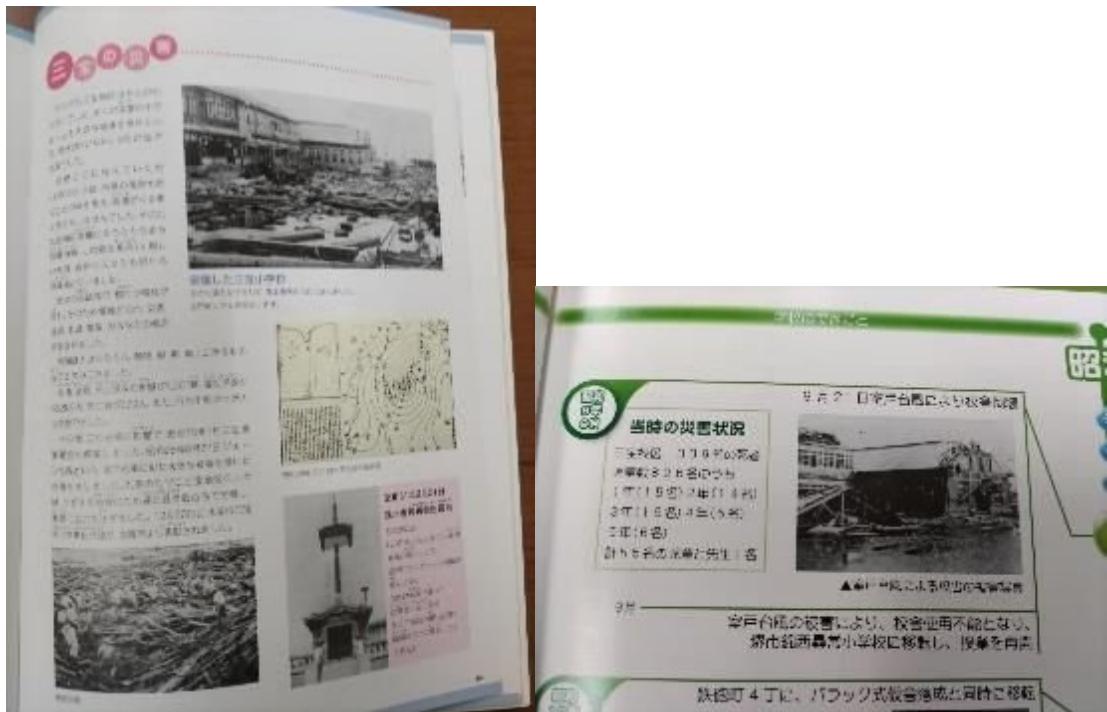
九條一帯は大きな難は免れるが、屋根瓦は木の葉のごとく飛び散り、濁流が押
し寄せ、全戸床上浸水し、交通・通信・電燈は途絶し、各学校に殺到し、避難
者は 100 名に達した。

前代未聞の大災に遭ったが、当西区内にひとり死傷者も出ずに復興の途につい
たのは神明の加護によるものと区内の関係者各位の応急の措置によるもので、
『禍を転じて福と為し』で、今や新興の氣概をもち、第一、第二、第五各小学校
の復興も目前にありここに九條教育会は各種団体と協議し事蹟を碑に刻み、
これから戒めの備えとする。

昭和 13 年 3 月

●堺市 三宝小学校 室戸台風（学校内）





↑ 教頭先生からお借りした記念誌

(碑文 原文 室戸台風関連)

顕彰碑 故栗山優先生

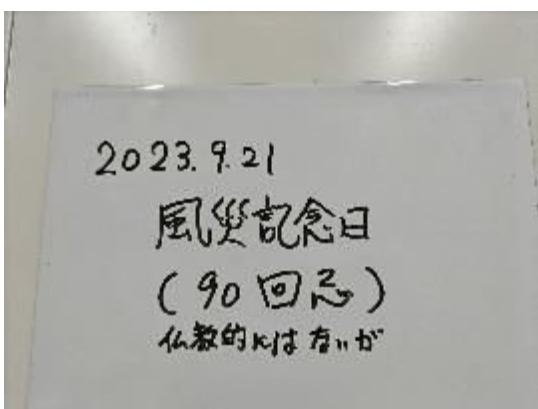
昭和九年九月室戸台風の際児童を助けて殉職

●吹田市 豊津第一小学校① 石碑 室戸台風（学校内）





↑ 校長室内の祭壇



↑ 校長先生の直筆



↑ 校長室の祭壇(校長先生の許可を得て撮影)

大阪府	
市部	死者百六十二名、重傷者百四十一名、軽傷者五百十九名、建物全壊千三百四十五(内小学校十四校、中等学校四校)、同半壊一千四百一十一(内小学校十一校、中等学校九校)
郡部	死者四十二名、重傷者三十一名、軽傷者三百三十三名、建物全壊三百十五(小学校十二校)、半壊五百十六(小学校一校)、合計死者三百五名、重傷者百六十二名、軽傷者七百四十九名、全壊建物千六百八十、半壊建物一千五百七十七(内小学校一百三十九校、中等学校二十九校)、行方不明者二〇名、特種建造物・神社仏閣等全壊一〇、半壊一、流失一、浸水一、この死に者七名、負傷者五名、行方不明一名、船舶流失一六一隻
京都府	京都府警察部保安課調査一千一日午後十時半現在府下の被害状況左の如し 市部 千戸に相当する 小学校十校、中等学校四校、同半壊一千四百一十一(内小学校十一校、中等学校九校) 郡部 死者四十二名、重傷者三十一名、軽傷者三百三十三名、建物全壊三百十五(小学校十二校)、半壊五百十六(小学校一校)、合計死者三百五名、重傷者百六十二名、軽傷者七百四十九名、全壊建物千六百八十、半壊建物一千五百七十七(内小学校一百三十九校、中等学校二十九校)、行方不明者二〇名、特種建造物・神社仏閣等全壊一〇、半壊一、流失一、浸水一、この死に者七名、負傷者五名、行方不明一名、船舶流失一六一隻
岡山県	
市部	死者百五十三名、負傷者五百九十九名、建物全壊一千三百四十五(内小学校十校、中等学校四校)、同半壊一千四百一十一(内小学校十一校、中等学校九校)
郡部	死者四十二名、重傷者三十一名、軽傷者三百三十三名、建物全壊三百十五(小学校十二校)、半壊五百十六(小学校一校)、合計死者三百五名、重傷者百六十二名、軽傷者七百四十九名、全壊建物千六百八十、半壊建物一千五百七十七(内小学校一百三十九校、中等学校二十九校)、行方不明者二〇名、特種建造物・神社仏閣等全壊一〇、半壊一、流失一、浸水一、この死に者七名、負傷者五名、行方不明一名、船舶流失一六一隻
兵庫県	
市部	死者百五十三名、負傷者五百九十九名、建物全壊一千三百四十五(内小学校十校、中等学校四校)、同半壊一千四百一十一(内小学校十一校、中等学校九校)
郡部	死者四十二名、重傷者三十一名、軽傷者三百三十三名、建物全壊三百十五(小学校十二校)、半壊五百十六(小学校一校)、合計死者三百五名、重傷者百六十二名、軽傷者七百四十九名、全壊建物千六百八十、半壊建物一千五百七十七(内小学校一百三十九校、中等学校二十九校)、行方不明者二〇名、特種建造物・神社仏閣等全壊一〇、半壊一、流失一、浸水一、この死に者七名、負傷者五名、行方不明一名、船舶流失一六一隻

↑ 当時の朝日新聞報道

(碑文 原文)

風災記念碑

校長室にも、「風災遭難教職員児童盡」の祭壇とレリーフが継続保存されている。

また、校長先生自らが児童向けの伝承テキスト冊子
「ふたりのヒロイン伝説 にわこ＆ふじこ」
を作成され公開されている。

(碑文 背景 朝日新聞平成 30 年(2018)11 月 28 日から引用)

校舎倒壊、女性教員は児童抱え 遺品が語る美談の実像

大阪府吹田市の市立豊津第一小学校の校庭に、「風災記念碑」と刻まれた大きな石碑がある。

昭和 9 年(1934)9 月 21 日。室戸台風で校舎が倒壊し、女性教員 2 人が児童をかばって犠牲になった、と記されている。どんな先生だったのか。取材を進めるうちに、一人の先生の遺品が、郷里・山口の博物館に残されていたことが分かった。84 年の歳月を経て、被災の実像がよみがえってきた。

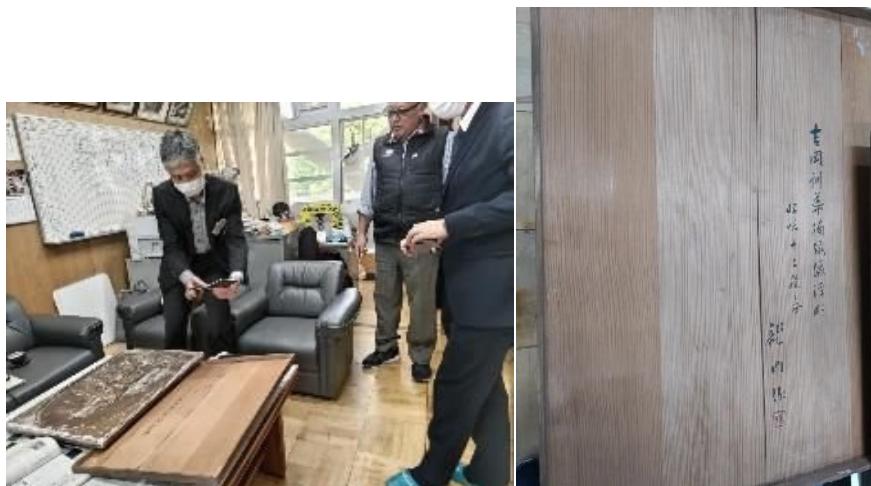
昭和 9 年(1934)9 月 21 日午前 5 時 10 分、高知・室戸で世界記録を更新する最低気圧を観測。強風と高潮で京阪神を中心に 3 千人以上の死者・行方不明者を出した。大阪府では約 1900 人が死亡し、全小中学校の教室の 2 割が失われ、児童生徒や教員の計約 700 人が犠牲となった。

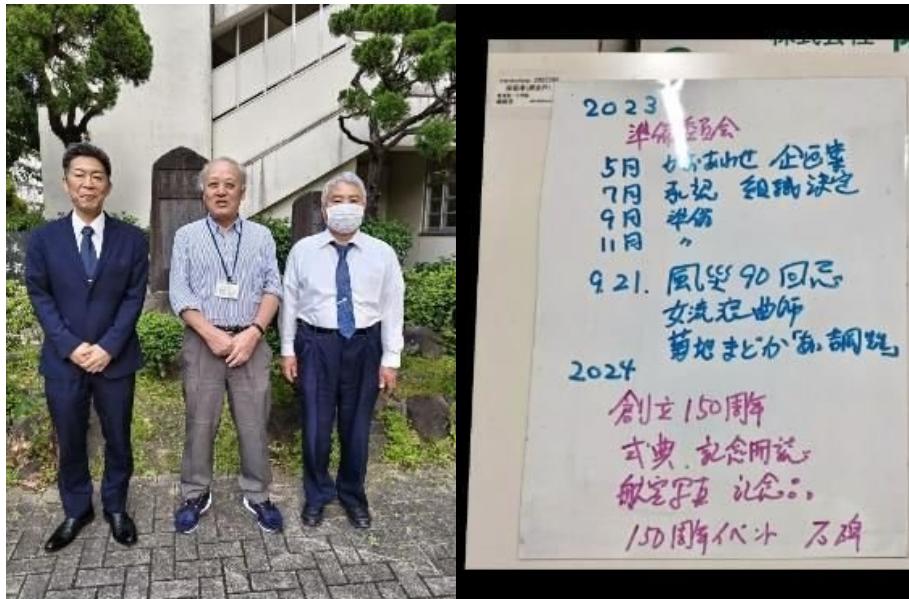
碑文によれば、風災記念碑は室戸台風で当時の豊津尋常高等小学校が被災した翌年の昭和 10 年(1935)9 月、村人たちによって建てられた。同校では台風で児童 51 人と教員 2 人が亡くなっていた。

大阪府に残されていた資料を調べると、殉職した教員の一人が吉岡藤子さんと分かった。27 歳だった。追悼集などをまとめると、台風は授業の始まる午前 8 時ごろ、阪神間に上陸し、大阪は瞬間最大風速が 60 メートルを超え、強風で 2 階建ての木造校舎が倒壊。1 階に吉岡さんが担任する 1 年生の教室があり、がれきの中から子どもの泣き声が聞こえてきた。がれきを取り除くと吉岡さんがうつぶせで絶命しているのがみつかり、その腕に抱えられて女の子 5 人の命が救われたとされる。

この被災について調べてきた吹田市立博物館の学芸員、五月女賢司さんによれば、吉岡さんは山口県厚南村(現宇部市)の農家に生まれた。5 人姉妹の長女。11 歳で父を亡くし、13 歳で京都の紡績工場で女工となる。17 歳で岡山県にあった学費無料の女学校に入学し、教員を目指した。消灯後に真っ暗な押し入れの中で、ろうそくの明かりを頼りに勉強した。

●大阪府 吹田市 豊津第一小学校② レリーフ 室戸台風（学校内）





↑大阪府PTA協議会会長（著者の甥）、校長先生と

（レリーフ裏記載文字）

吉岡訓導殉職像浮彫

昭和十二年六月 保田龍門作

恵存

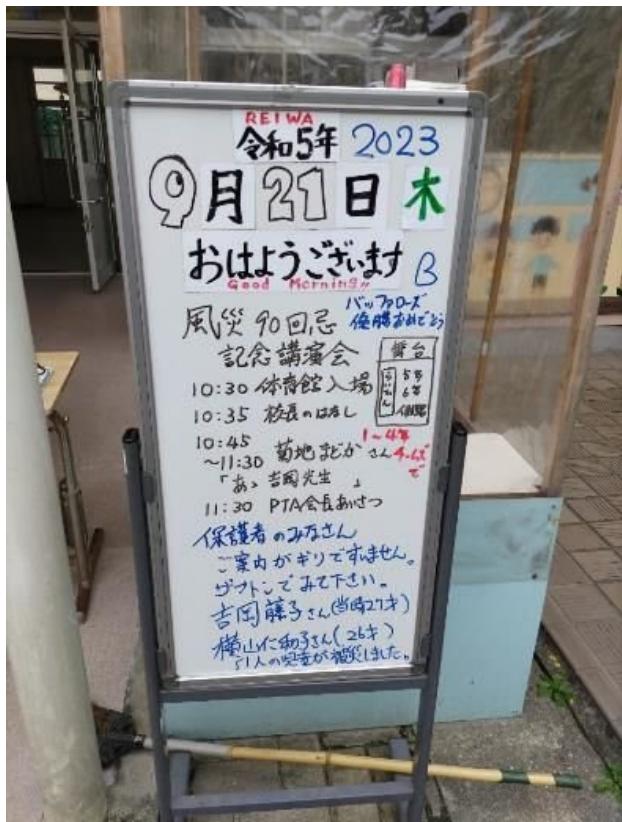
豊津小學校

（レリーフ箱記載文字）

吉岡訓導殉職像浮彫

昭和十二年春 龍門作

●吹田市 豊津第一小学校③ 記念講演会 吉岡藤子訓導顕彰碑
室戸台風(学校内)



↑ 殉職訓導2名のレリーフと画像



(概要 豊津第一小学校 HP から引用加工)

9月21日は風災の日。昭和9年（1934）9月21日に風速70m/hに達する室戸台風が大阪を襲った日。

奇しくも今年は90回忌に当たる年。

当時 亡くなられた51人の児童と26歳の横山仁和子先生と27歳の吉岡藤子先生 ふたりの先生のことを忘れないでいてほしいです。

本日までいくつかの理由で保護者の参加を悩んでいましたがもしあ時間がありましたら、お越しください。

5年と6年の児童が舞台側から座ります。その後ろのスペースで入れるだけ入場してもらいます。運動会練習時期なので、体育館の床に座ってもらうので座布団をご持参ください。

校長先生の講話、女性浪曲師 菊池まどかさん 御講演、児童代表からの御礼の挨拶 他

吉岡藤子訓導顕彰碑等

(顕彰碑所在地は、山口県宇部市立厚南小学校内)



↑ 供出されたため現存しない

(碑文 背景 山口県立山口博物館 HP から引用 遠隔地のため画像とも)

大阪府の豊津尋常高等小学校訓導(教諭)だった吉岡藤子さん(厚狭郡厚南村(現宇部市)出身)は、昭和9(1934)年9月の室戸台風の際、倒壊する校舎から児童を守り殉職しました。山口県教育会はこれを顕彰し、昭和12年(1937)に博物館前庭に銅像を建立した(昭和18年(1943)供出)

昭和10年代に映画や本になり先生の鑑として全国に知られた。

観測史最強となった室戸台風は四国を通過後、大阪に上陸した。あまりにも強い風のため校舎が倒れ、午前中の授業をしていた子どもたちや先生が下敷きになってしまった。当時27歳の吉岡先生は校舎が倒れた時、とっさに近くの児童を自分の着物の下に入れてかばった。台風が過ぎて助けの手が伸びた時には先生はすでに息絶えていたが、先生の下から6人の児童が助かって出てきた。

先生は厚南の新開作の土手町で生まれた。小さい時に父親を亡くしたため昼は働き、夜間学校に通い、先生になる資格を取った。伝記を見ると大阪で先生になるまでは筆舌に尽くしがたい苦労を重ねている。

子どもたちのために殉職された先生の生き様は昭和12年(1937)に大反響を呼び、演劇、映画、ラジオにも取り上げられた。そして殉職当時の様子を表した

銅像が山口県博物館の前に建てられたが、戦時中に銅像は供出されてしまった。遺品などは同博物館に今も大切に保管されている。



↑宇部市立厚南小学校内

(碑文 要約 画像は遠隔地のため吹田市立豊津第一小学校資料から引用)

吉岡藤子先生をしのんで

厚南小学校を卒業した吉岡藤子先生は、大阪府吹田市豊津小学校の先生になりました。

昭和9年(1934)秋、室戸台風で校舎が崩壊したとき、眼前にいた6名の教え子をだきしめ、先生は圧死しましたが、教え子の命を救ったのです。

●茨木市 春日丘高等学校 室戸台風(学校内)



(碑文 要約)

大阪府立茨木高女学校が新たに竣工したが、昭和9年(1934)9月21日の風害で本校校舎は大半が瞬時に倒壊し、6名(教師1名、給仕1名、生徒4名)が死亡した。

爾来当局関係諸氏の奉仕により新校舎が完成した。

昭和十三年十月 学校長

●吹田市 岸部第一小学校 室戸台風（学校内）



(碑文 背景)

風災記念塔

室戸台風により 2 階建本館 12 教室倒壊、圧死者 28 名、重傷者 57 名（内教員 2 名）、軽傷者 103 名（内教員 4 名）

その後木造平屋 12 教室（133.25 坪）が復興し、仮校舎より移転した

●大阪市 生野区 プール学院 室戸台風（学校内）



（碑文 背景 プール学院 HP から引用）

昭和 9 年(1934)9 月 21 日に室戸台風に遭い、全壊した校舎の下敷きとなりながらも讃美歌(聖歌)「主よみもとに近づかん」を口ずさみ、互いを励まし合いながら逝去された 17 名の先輩方を偲んで、記念碑前にて礼拝をささげました。殉難直後に、英國へ帰国されていた普溜(プール)女学校初代校長トリストラム先生から送られた手記をご紹介いたします。

「なつかしい皆様 今朝の新聞で恐ろしい颶風が大阪地方に襲来し、私等の學校も大損害を受けた報道を耳に致しました。私の心は一杯で、自ら心は神に向い、慰めと祝福と御導きを賜る様祈らずにいられませんでした。17名の生徒は逝き、校長豊藤氏は負傷せられ、又校舎も相当損害を蒙ったことの外は未だ詳しいことは存じません。私は皆様に対し心から御同情申し上げ、又惨害のことを思うだに心は痛みます。皆様は愛する生徒。又同級生を失われ御心は悲歎と寂寥のうちに打ち沈まれていると存じます。

又他に多くのお気の毒な人々があると存じます。それ等の人々にも同情致します。又校舎が損害をひどく受け、嘸かし御不自由と思います。しかし皆様はそれにも係らずこの困難な事情のため最善の努力を捧げ、先生方は重き責任を果し又生徒たちは勉学に又周囲の人々の手助けをしておられると確信いたします。

私も姉も絶えず祈っております—豊藤校長の平癒全快のため、負傷を受けられた他の方々のために、愛児を失われし御両親のために、そして又この困難な焦燥の時に際会せられし学校の皆様方のために。

今朝、皆様のことを憶えて、詩編46篇を私共は共に読み、非常に力付けを得ました。どうぞその個所と、今一ヶ所ロマ書8章28節及び35節より49節をお読み下さい。力強き文真理の言葉であり、又今の私等の為に書かれたものです。

私が最も感謝していることは、不幸にして亡くなった生徒は皆主イエスキリストを聞き、十字架に就き、我等のために死に、彼の故によりて神が赦し給うころに就て皆んな知っていたことです。その人等が神を信じて救われんことを希望致しています。

多分皆様のうち何人か『若し自分がその中の一人であったとしたならば、死の準備はできていたろうか』とお考えになった方がおありでしょう。死の準備が出来ていることは何たる幸福でしょう。平常無事な時のみならず危険の時ですら、私共はいつも幸福でいられます。

私は始終皆様のことを考えております。私の友は皆、皆様が私を大阪桟橋に見送りに来て下さった時の写真を好んで見ます。私も遠からず日本へ帰りたいと思いますが、姉の病気のため、思うように早く帰れないので残念です。

真実にして親愛なる友 カザリン トリストラム」

すべて自然災害、また新型コロナウイルスによって地上での生涯を終えられた方の魂の平安を祈りつつ、トリストラム先生が送られた聖書のみ言葉を胸に、明日の希望の光を灯し続ける学院としてこれからも邁進いたします。

●高槻市 如是小学校 室戸台風（学校内）



（碑文 背景）

室戸台風殉難之碑

室戸台風で校舎が倒壊し、児童30名と教員2名が死亡するなどの大きな犠牲となつた。

●高槻市 芥川小学校 室戸台風（学校内）



(碑文 要約)

風害記念

室戸台風で校舎の一部損壊によって 4年生 5名が痛ましい犠牲となった。

●東大阪市 弥刀小学校 室戸台風(学校内)



(碑文 原文)

学校安全の碑

本校がとわに安全平和なる学園であれかしと祈ることせつなり。

ひろく父兄、校区有志ならびに遺族各位の篤志を受け、これを建つ。

昭和 42 年 3 月 東大阪市弥刀小学校 PTA

昭和 9 年 9 月 21 日早朝第一室戸台風が阪神地方に来襲木造二階校舎を倒壊せり。学童 34 名、母 1 名の尊い生命は校舎とともに散りぬ。

昭和 41 年 9 月 21 日布施市立弥刀小学校 PTA は右犠牲者 35 名、校内事故物故者 4 名の追悼慰靈第三十三年祭をいとなむ。

※校舎内においては、室戸台風での事故の様子を、追悼慰靈第 33 年祭の昭和 42 年(1967)に 6 年生が絵画にした学校災害追悼慰靈記念画が掲示されている。

●大阪市 住吉区 住吉小学校 室戸台風（学校内）



(碑文 背景)

昭和 9 年(1934)9 月 21 日に近畿地方を襲った第一次室戸台風は、当時の木造校舎を倒壊させ、18 名の子どもたちの尊い命を奪った。

住吉小学校ではこの悲劇を教訓に、自然災害から身を守る防災教育を進めていく。

犠牲者・負傷者の方々の慰靈と、この悲劇を忘れぬよう地域・児童からデザイン公募し、創立 100 周年にあたる平成 20 年(2008)9 月にこの室戸台風慰靈碑を住吉小学校内に建立した。

また、被災慰靈祭 80 周年記念誌も発行されている。

●大阪市 生野区 北鶴橋小学校 室戸台風（学校内）



（碑文 背景）

昭和 9 年 9 月 21 日 風水害記念

室戸台風被災 男子 46 人 女子 21 人 計 67 人

男子教員 1 人 母親 2 人 店員 1 人 合計 71 人 犠牲

※教頭先生は、学校付近の詳細な廃川の研究をされておられて、御教えいただいた。

●守口市 守口小学校 室戸台風（学校内）



(碑文 要約)

慰靈之碑

昭和九年九月二十一日室戸台風殉難者

右慰靈のためこの碑を建てる

昭和三十四年九月二十一日 守口市立守口小学校児童会
校舎の一部が倒れ、児童 11 名が犠牲、給仕 1 名が殉職

●豊中市 熊野田小学校 室戸台風（学校内）



（碑文 要約）

大風水害記念碑

昭和九年九月廿一日午前八時猛襲セル大風水害に依り講堂校舎倒壊稻久保校長ノ殉職並びに田中義美野村照子田中照子小寺幸男笹部義春生田ヨシエ（於豊南校）ノ犠牲者ヲ始め三十有餘名の重軽症者を出セリ之ガ悲惨事ヲ永久に懷想記念センガ為茲に記念ガ碑ヲ建ツ

村長 石丸義雄 撰 助役 田中嘉治 書

昭和十年九月廿一日建立熊野田村

※石碑画像は公開不可のために不掲載

●大阪市 西淀川区 稗島尋常小学校近傍地 室戸台風（その他）



↑稗島墓地内



（碑文 背景）

遭難児童の碑

室戸台風で校舎倒壊 児童・教職員 13名が殉職

●門真市 大和田小学校正門外 室戸台風（その他）



(碑文 要約)

風災學童之碑

昭和九年九月二十一日未曾有ノ颶風ニ遭遇校舎倒壊憐シ學童十六悲シクモ之レ
ガ尊キ犠牲トナル爾來校村拳ゲテ哀悼清涙ニ暇シ慈ニ隅々本村青年團達專ニ力
ヲ尽シ全村ニ資ト賛ヲ求メ慰靈ノ為建碑シ爾シテ故學童御魂ヲ永ニ弔フ嗚呼

昭和十年十月二十一日 建立

(碑文 背景)

校舎倒壊により 16 名の児童が犠牲

●大阪市 中央区 大阪城公園内 教育塔 室戸台風（その他）



(碑文 背景)

昭和 9 年(1934)9 月 21 日朝、室戸台風が関西地方を襲った。秒速 60m という強風及び大高潮はあらゆる方面に大惨事を及ぼした。

学校においては始業の前後でもあり多数の木造校舎が倒壊し、教職員 25 人をはじめ 600 人を超す子どもたちが亡くなるなどの甚大な被害があった。

災害直後、大阪の教育界は二度とこのような惨事が起こらないことを願って、子ども、教職員を追悼し、その名を永くとどめるため、記念碑の建設を発議し、帝国教育会が臨時総会において記念塔を建設することを決定した。

全国の教育関係者はこの呼びかけにこたえ、児童、生徒、教職員、一般有志の方から 32 万円を超える寄付が寄せられ、大阪城公園に教育塔ができた。

昭和 10 年(1935)9 月地鎮祭、昭和 11 年(1936)8 月定礎式、昭和 11 年(1936)10 月 30 日に竣工の運びとなり、この日に第 1 回教育祭が行われた。

以来、教育祭は例年 10 月末に挙行されてきている。

塔の建築には教育塔建設費に 17 万 5 千円、式典費、準備費等で合計 32 万円ほどがかかった。公募により、塔の設計は島川精さん、塔の正面のレリーフは長谷川義起さんが選ばれた。

祭典は建設当時から神式あるいは仏式で行われていたが昭和 23 年(1948)、日本教育会(「帝国教育会」改称)が解散、日本教職員組合が塔の維持・管理と教育祭の主催を受け継いでからは、宗教色をなくすよう努め、現在は無宗教形式で行われている。昭和 56 年(1981)には、教育塔内正面の塔芯文「咸一其徳」(咸其の徳を一にす)から「やすらかに」に改め、塔芯裏の「説明文」を戦前調のものから現代風に改められた。

昭和 61 年(1986)には「合祀」を「合葬(がっそう)」に、「祭主」を「主催者」に「奉納音楽」を「追悼音楽」に、献花中の音楽を「越天樂」から「葬送曲」に変更された。

第 50 回、昭和 60 年(1985)の教育祭では 180 人が合葬され、特別合葬者の中には御巣鷹山での日航機墜落事故昭和 60 年(1985)の犠牲者 41 人が含まれている。

第 60 回、平成 7 年(1995)の教育祭では、阪神・淡路大震災で自宅の倒壊や火災により亡くなった 121 人の特別合葬者を含む 154 人が合葬され、「教育塔説明掲示板」も全面的に書き改められた。

第 70 回、平成 17 年(2005)教育祭では、新潟県中越地震により亡くなった 4 人の特別合葬者を、以後、第 77 回、78 回、79 回の教育祭では東日本大震災の犠牲となられた 51 人の特別合葬者を含む方々を合葬している。

○大阪市 城東区 榮照寺 室戸台風（その他）





(碑文 背景)

昭和 9 年(1934)9 月 21 日の朝、近畿地方一帯を襲った室戸台風により、城東区内では寝屋川、平野川が氾濫したため新喜多、鳴野、蒲生、今福、放出、中浜一帯が浸水し、多数の家屋に被害が出た。城東区内の 2 つの小学校が暴風に耐えきれずに全壊し、児童教職員 56 名の命が奪われた。子どもの犠牲が大きかったのは、台風襲来時と登校時が重なったことと、木造校舎の倒壊のためであり、以後、大阪市では校舎の全面鉄筋化を進めることとなった。



天王寺第一小学校校庭での授業 昭和 9 年 個人蔵から引用

大阪市内の小学校では、全 244 校の約 7 割で、暴風により校舎が全壊するなどの被害があり、児童・職員合わせて 278 名が亡くなった。

天王寺第一小学校（現天王寺小学校）でも大正 8 年（1919）竣工の木造校舎が全壊したが、校長の指示で鉄筋コンクリート造の講堂に児童が避難したため、一人の犠牲者も出さなかった。

大阪市ではこの台風被害を受けて校舎の鉄筋コンクリート化が進められていくことになった。

●大阪市 西淀川区 外島保養院① 跡地 室戸台風（その他）



(碑文 原文)

明治四十二年四月 法律第十一号ニ基ヅキコノ地ニ第三区府県立「外島保養院」設立サレル 即チ 大阪府主管ノモト京都 兵庫 奈良 和歌山 滋賀 三重 岐阜 福井 石川 富山 鳥取 の二府十県連合ニヨル 公立ハンセン病療養所トシテ開設サレタノデアル

昭和九年九月二十一日室戸台風ノ襲来ニヨリ施設ハ壞滅流失 患者百七十三名 職員三名職員家族十一名ガ死亡スル大慘事トナリ生存患者四百十六名ハ全国六施設ニ分散委託 昭和十三年四月岡山県長島ノ西端ニ名称ヲ光明園ト改メ復興 昭和十六年国立移管 邑久光明園ト改称現在ニ至ル

平成八年四月「らい予防法」廃止サレル 強制収容絶対隔離ヲ根幹トシタ日本ノハンセン病対策ノ終焉ヲ記念シ外島保養院ノ日々ニ思イヲハセ茲ニ記念碑ヲ建立スルモノデアル

平成九年十一月 邑久光明園入園者自治会

(碑文 背景)

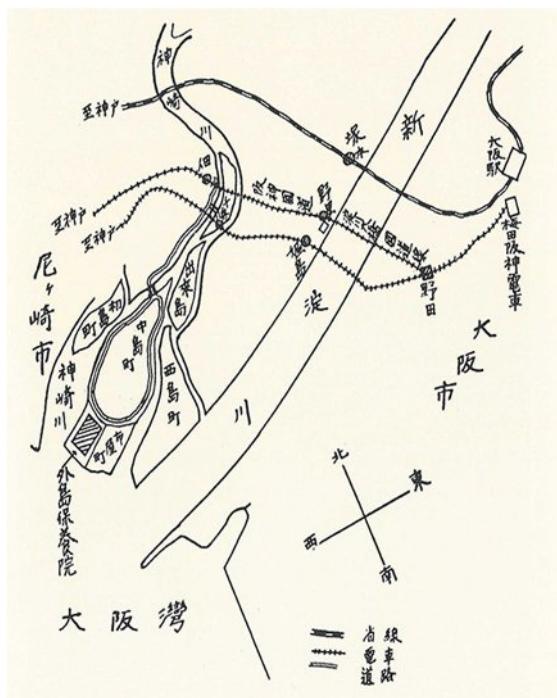
「外島保養院」は明治 42 年（1909）に開設されたハンセン病療養所である。当初、敷地 2 万坪、定員 300 名の規模であった。なおも増設工事が行われていた、昭和 9 年（1934）9 月 21 日の室戸台風により入所者 173 名（当時の入所者 597 人の約 3 割）、職員 3 名、職員家族 11 名、施設拡張工事関係者 9 人計 196 名の尊い命が奪われた。

壊滅的被害を受けた建物は再建されることなく、岡山県邑久郡の長島に「邑久光明園」として再興された。

ハンセン病患者に対して、国、地方自治体が推し進めた強制隔離政策は、重大な人権侵害であり、社会に様々な偏見や差別を生み、患者（当時）、元患者、家族の方々に多大な苦痛と苦難を強いてきた。「らい予防法」が廃止されたことを記念して国立療養所邑久光明園入園者自治会の方々が、「外島保養院」跡地に平成 9 年（1997）11 月 19 日記念碑を建立された。



「第 38 回地方自治研究全国集会第 7 分科会 福祉、環境、農業…地域の宝を探し出せ」から引用



↑「People / ハンセン病に向き合う人びと」から引用

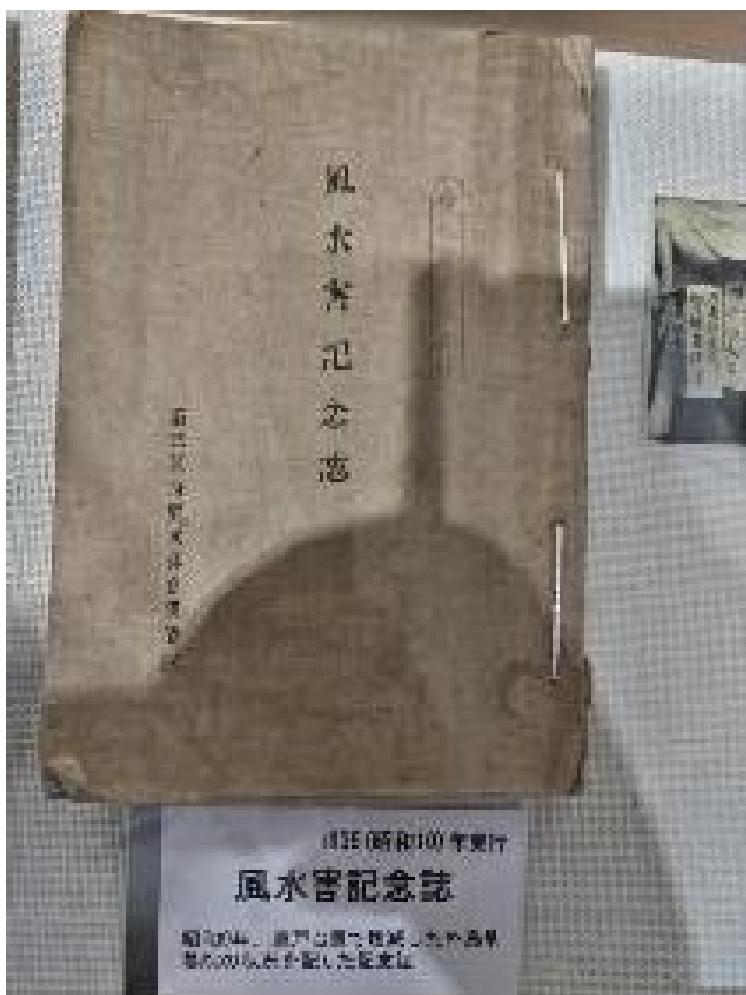


↑殉職悲話の絵画は、大阪府津波高潮ステーションにて撮影

●大阪市 西淀川区 外島保養院② 中野婦長殉職碑 室戸台風（その他）
(殉職碑所在地は、岡山県瀬戸内市 邑久光明園内)



↑ 長島愛生園歴史館



↑ 長島愛生園歴史館で展示されている被災した
「第三区連合府県立外島保養院」（当時 大阪市）の「風水害記念誌」

(背景 一部大阪府 HP から引用)

明治 40 年(1907) 法律第 11 号「癞予防ニ関スル件」にもとづいて、近畿、北陸の 2 府 10 県が協力して、現在の大阪市西淀川区中島 2 丁目にあたる場所に、公立のハンセン病療養所「第三区連合府県立外島保養院」（以下、「外島保養院」）（定員 300 人）を、隔離収容施設として明治 42 年(1909) 4 月に開設した。

外島保養院のあった場所は、現在でこそ治水が完全に行われているが、当時は海拔ゼロメートル地帯で、療養する環境としては厳しい立地条件であった。そのため、何度か他の場所への移転計画が出されたが、その度に移転先の地元住民の反対があり、移転は断念せざるを得なくなつた。

結局、現地での増床となり、1,000 人を収容する大施設への工事がほぼ完成する昭和 9 年(1934) 9 月 21 日、室戸台風の直撃により、防波堤を越えて押し寄せた高波により施設が壊滅し一瞬にして 196 名の命が奪われてしまった。

療養所が復興するめどはたたず、9 月下旬より各地の療養所へ患者を委託するという窮余の策が講じられた。

その後、府内の候補地が決まらず、昭和 13 年(1938)、岡山県邑久郡（現在は岡山県瀬戸内市）の長島に、府県立療養所光明園として再興、昭和 16 年(1941) 7 月厚生省へ移管され、国立療養所の邑久光明園となった。

なお、邑久光明園が開設されるまでの期間は、既存の長島愛生園に一旦入所されることとなつた。

現在、外島保養院の跡地付近には、国立療養所邑久光明園入園者自治会により「らい予防法」廃止の記念事業として記念碑が平成 9 年(1997)に建立され、毎年 9 月に、関係者により犠牲者追悼行事が行われている。

我が身を犠牲にしてまでも入所者の救命に全力を尽くし殉職された「中野鹿尾（なかのしかお）」看護婦長を記念して邑久光明園に殉職之碑が昭和 17 年(1942) 9 月に建てられた。

中野婦長は、当日いち早く重病棟に出勤し、風雨におびえる病人たちを励まし、避難と決まるや、すぐさま身動きもできない病人を背負い、また、手を引いて堤防へと急ぎ、それは三度にもおよび津波の迫る中、なお、その水の中に入って行き、残されている病人を背負い、視覚障がい者の手を引いて堤防へ上がるとした際、高波に飲み込まれ二日後に遺体で発見された。



↑ 中野看護婦長殉職之碑（船からの遠景・邑久光明園）

（碑文 背景 国立療養所邑久光明園 HP から引用 遠隔地のため画像とも）

この碑は、室戸台風で当園の前身である外島保養院が壊滅（入所者 173 名、職員・家族 14 名死亡）した際、我が身を犠牲にしてまでも入所者の救命に全力を尽くし殉職された「中野鹿尾（なかのしかお）」看護婦長を記念して建てられた。

中野婦長は、当日いち早く重病棟に出勤し、風雨におびえる病人たちを励まし、避難と決まるや、すぐさま身動きもできない病人を背負い、また、手を引いて堤防へと急ぎ、それは三度にもおよび津波の迫る中、なお、その水の中に入って行き、残されている病人を背負い、視覚障がい者の手を引いて堤防へ上がるとした際、高波に飲み込まれ二日後に遺体で発見された。

中野婦長は昭和 9 年(1934)4 月に就職したばかりの看護婦であったが、遺体発見後、災害のあった 9 月 21 日付で婦長昇格の任命を受け、殉職死亡退職となつた。

1942 年 9 月

○枚方市 長安寺 室戸台風（その他）



（碑文 原文）

遭難供養塔

昭和九年九月廿一日午前八時未曾有ノ大暴風関西一圓ニ襲來セリ風速六十米ヲ突破シ一瞬ニシテ我ガ牧野小學校倒壊シ訓導松田武行伊東綾子二氏殉職セリ學童田宮操岡本朝野中瀬ハル子中城正雄山本岩夫田中茂代松村祐吉笠井政枝北牧キミ子上田恵美子嶋田愛子小川タツノ日垣スミ田中正夫井口アキノ十五名其災禍ニ遇ヒ犠牲トナル寔ニ痛恨限リナシ茲ニ小碑ヲ建テ以テ諸士ノ英靈ヲ慰メントス

昭和十年九月廿一日
長安寺住職 村田 瑞澄 建立

○寝屋川市 水本墓地 室戸台風（その他）



（碑文 原文）

昭和九年九月二十一日午前七時五十分近畿地方ニ大颱風襲來シ本村小學校新築二階建て校舎倒漬シ學童死者十三名ノ犠牲者ヲ出シタリ翌二十二日大字燈油七名ノ個人葬ヲ當墓地二行ヒ超ヘテ十月二十一日小學校校庭ニ於テ校葬ノ禮ヲ以ツテ合同葬ヲ營マル参列者知事代理以下二千余名實ニ前古未曽有ノ盛典ナリキ茲に遺族相謀リ一碑ヲ建テ永久ニ記念セシントス

昭和十年二月二十一日 建之

「ゆく里なく花の蕾ちらしたる風うらみつつみ魂安めむ」

（碑文 要約）

寝屋川市では、当時の水本尋常高等小学校の新築 2 階建校舎が強風で倒壊し、児童 13 名が亡くなった。この碑は、当時の燈油出身者 7 名の慰靈碑。

○寝屋川市 打上墓地 室戸台風（その他）





(碑文 要約)

昭和 9 年(1934)9 月 21 日午前 8 時、大阪に上陸した室戸台風では、風速 60m の強風と満潮が重なったことで、阪神地方に高潮による浸水、堤防の決壊等の被害をもたらした。

寝屋川市では、当時の水本尋常高等小学校の新築 2 階建校舎が強風で倒壊し、児童 13 名が亡くなった。この碑は、当時の打上出身者 5 名の慰靈碑。

●堺市 関西大風水害殉職者慰靈碑 室戸台風（その他）



↑防潮堤竣工記念碑

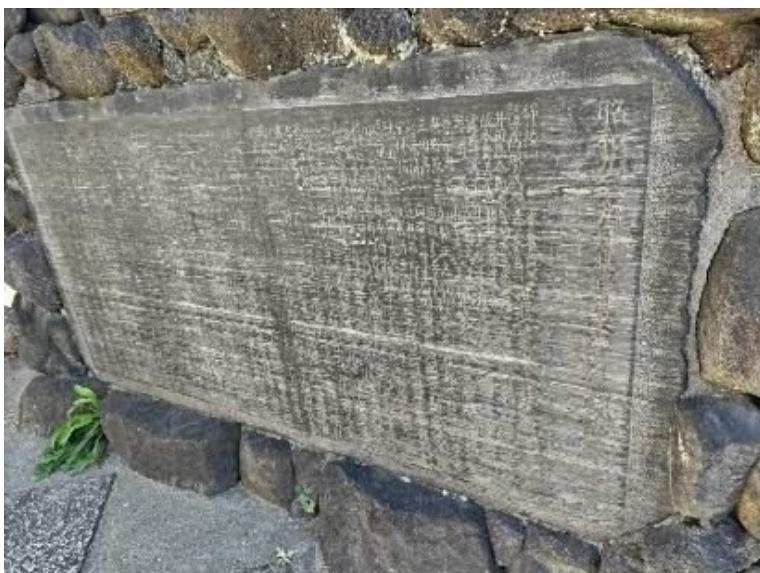
（碑文 原文）

この地もと河口の寄洲高潮の覗うところ室戸に次ぐジェーン台風の憾みは深く、市民の祈念が凝って防潮堤の竣工となる かくて海浜の護りは固く脅威はついに霧消した

昭和 31 年 9 月 堺市長 河盛安之介

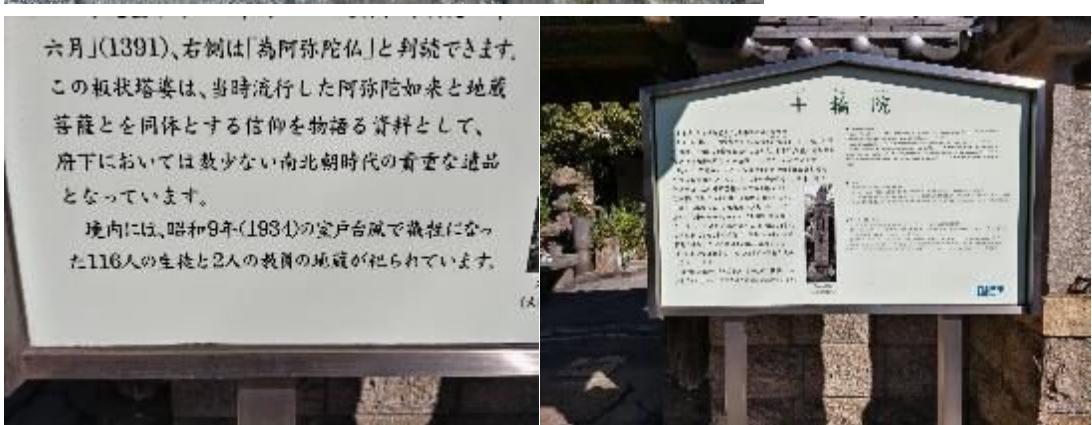
いたましの靈に捧げん真なる心の薰り永遠にうけませ

●堺市 十輪院 室戸台風（その他）



六月」(1391)、右側は「為阿弥陀仏」と判読できます。
この板状塔婆は、当時流行した阿弥陀如来と地蔵菩薩とを同体とする信仰を物語る資料として、
府下においては数少ない南北朝時代の貴重な遺品
となっています。

境内には、昭和9年(1934)の室戸台風で犠牲になっ
た116人の生れたと2人の教員の墓碑が祀られています。





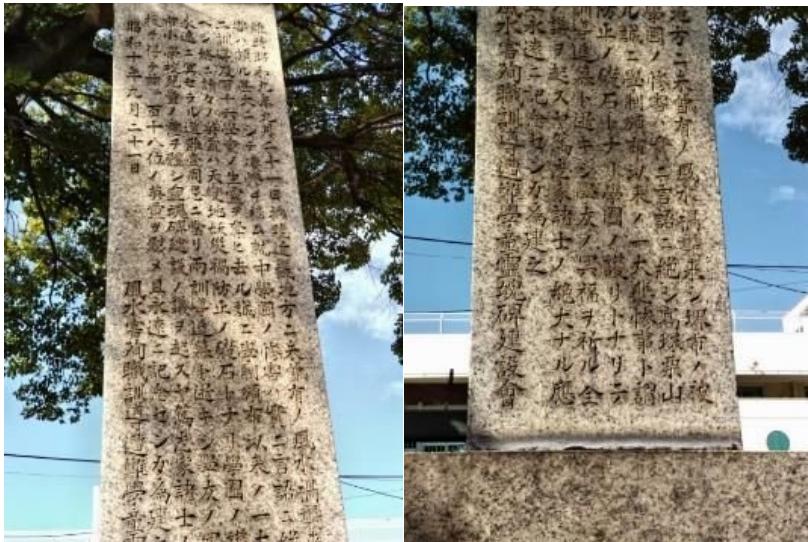
(碑文 原文)

昭和 9 年 9 月廿一日風水害遭難訓導名記

※室戸台風で犠牲になった 116 名の生徒と 2 人の教員のお地蔵様が祀られている。

●堺市 宝珠院 室戸台風（その他）





(碑文 原文)

風水害殉職訓導遭難学童靈魂碑

(碑文 背景)

三宝小学校を始めとして市内各小学校の被災学童と訓導の名前が刻まれている。先頭にあるのは三宝小学校で避難誘導にあたっていて殉職した栗山優訓導。栗山訓導は学童の最後尾で学童を励まし続け、ついに学童と共に高潮にさらわれた。ここに記されているのは、三宝小学校で高潮により 54 名の学童と 1 名の訓導が、錦小学校では校舎倒壊の下敷きになって 39 名の学童と 1 名の訓導、湊小学校でも校舎倒壊で 14 名の学童が、その他にも校舎倒壊で、少林寺小学校で 3 名、南旅籠小学校（後に英彰小学校に合併）が 2 名、錦西小学校で 1 名、同高等小学校で 1 名、錦綾小学校で 1 名と学童 116 名、訓導 2 名の犠牲者名がある。

●堺市 月蔵寺 室戸台風（その他）



(碑文 原文)

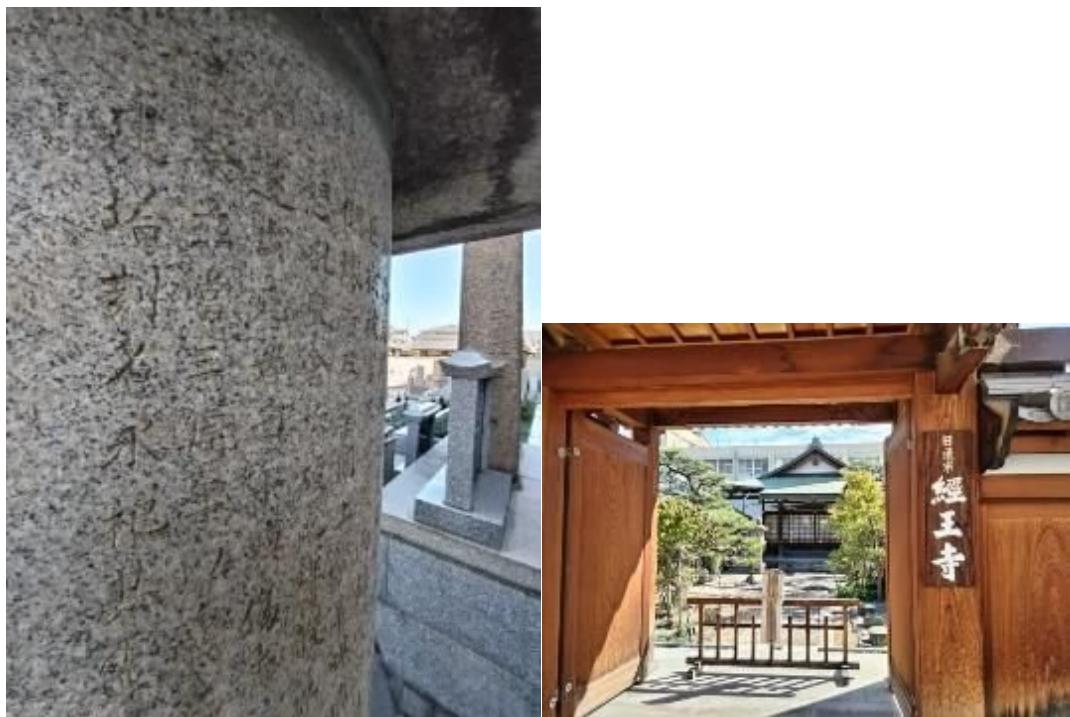
大風水害慘死者供養塔

昭和 10 年 9 月

●堺市 経王寺 室戸台風（その他）







(碑文 背景)

室戸台風で校舎が倒壊して多数の死傷者があった錦小学校の西隣りの境内墓地にある、錦小学校の学童と訓導を慰靈する供養塔。
三周忌にあたって建てられたもので、背後には今の錦小学校の校舎が見える。
供養塔には亡くなった高塚武訓導を中心にして学童たちの俗名が刻まれ、裏面には錦小学校で死者 40 名、負傷者 200 余名もあった罹災状況と、その靈を祀るために建立された旨が記されている。

※今も 9 月 21 日には錦小学校の学童や学区の人たちがお参りされておられる。

●大阪市西区 関西風水害浸水深（現存せず） 室戸台風（その他）



↑ 両写真とも、石碑そのものが現存しないため、大阪市内で戦争と平和を考える HP から引用





(碑文 原文)

「昭和九年九月二十一日関西風水害浸水々水位標」

※室戸台風の時の浸水線が 95 cm の所に横線で彫られ、「最高水位線」が記載
されている。

※近くにお住まいの方（85歳）にお聞きしたところ、
「5歳の時にこの場所に引っ越して来ましたが、いつもこの石碑の文字が
見やすくなるように磨いていました。

また、水害の時は近くのお地蔵様を抱きしめて避難したという伝説が残さ
れています。しかし、2年くらい前に突然、企業の方が地元自治会を通さ
ずに移転されてしまいました。

大切な石碑が今どこにあるのか不明でとても残念なことです」
とのことであった。

●大阪市 西区 九島院 室戸台風(その他)





(碑文 要約)

寛文大津波

龍溪禪師水定遺蹟

昭和九年九月

大阪颱風津浪為記念建立

龍溪禪師遺蹟顕彰會

(碑文 背景)

山門開山龍溪禪師と寛文大津波

九島院は現在、中央大通のすぐ西側の本田三丁目に所在する。江戸時代初期

の寛永 10 年（1633）池山新兵衛一吉によって開発された衝壌島に彼が創建した寺院であるが、後水尾天皇の信任が厚く、「大宗正統禪師」の称号を賜っていた龍溪禪師（1602～70）を招いて開山の祖と仰いだ。

龍溪禪師は中国（明）からの渡来僧隱元に弟子入りして宇治の万福寺造営を助けた高僧であった。

寛文 10 年（1670）の 8 月 15 日に九島院では開堂法要を行うため籠溪禪師を招いた。この招きに応じた禪師は、旬日、九条島に滞在して信者に佛法（黄檗宗）を説いていたが、同月 23 日、未曾有の台風が大阪湾に来襲し、当時の大阪湾の陸地の先端に位置した九条島に高潮による大災害をもたらした。

この日、龍溪禪師は高潮の来襲にも読経をして動かず、座禅をしたままの姿で激浪の中へ入寂したと伝えられている。

古人は、龍溪禪師を称して『九条の人柱』とよび、その不慮の死を弔い、かつその死を無駄にせぬよう祈った。

その 10 年後、幕府は河村瑞賢に命じて、九条島を開削し安治川を通したが、龍溪禪師の人柱がその動機のひとつになったと思われる。

「大亀通靈」と刻まれた亀の墓

開堂法要の日、大阪湾に住する大亀が背に花をのせて祝意を表わしにやって来る吉瑞にめぐまれ、人びとは喜んだが、九島院の亀の墓は、禪師の死とこうした伝説に基づいて祀られたものである。

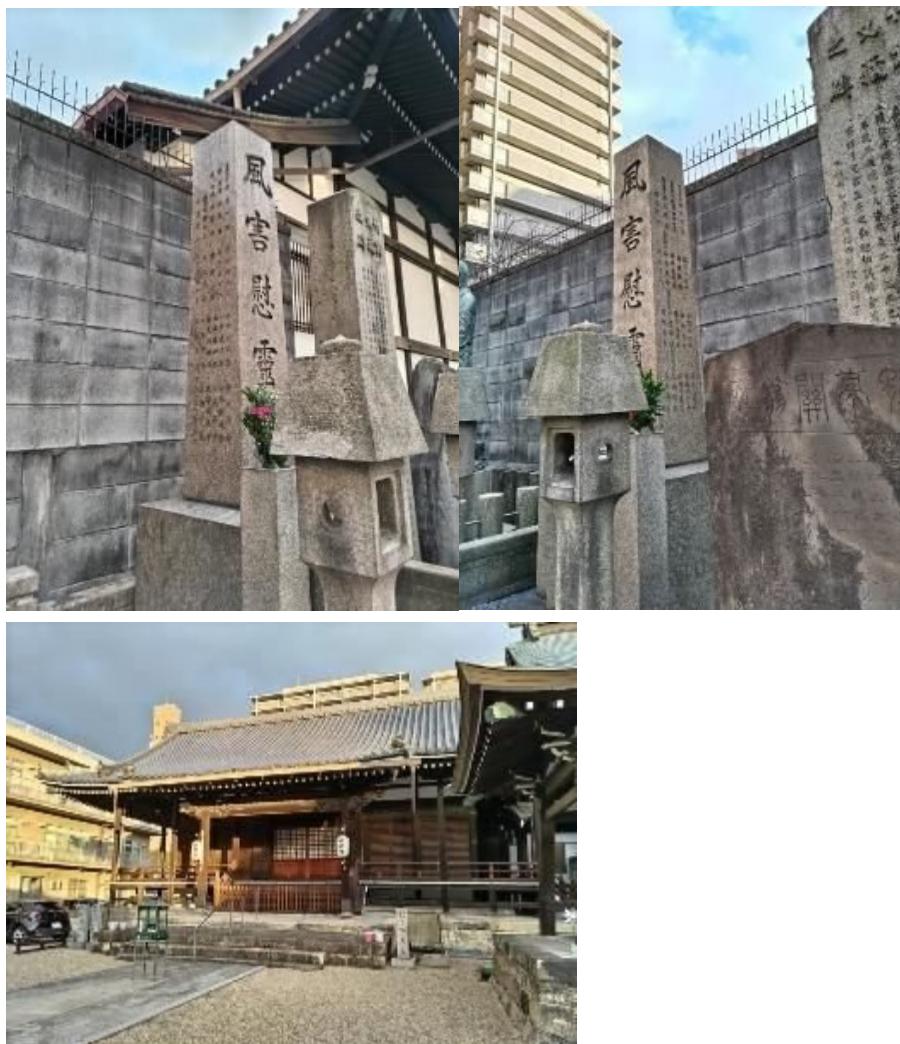
海亀は当時（17世紀）の大坂の海浜部に数多く回遊していた。

例えば敷屋町（鞠）の亀祭催行の因となった 1.5 尻余りの大亀は「敷屋町」の札をつけられて沖へ放生されたものの、また西国の漁師の地引き網にかかるという具合であった。

人びとは亀に水火の難から逃れる願いをこめたのである。

●大阪市 北区 鶴満寺 室戸台風（その他）





(碑文 要約)

風害慰靈碑

(碑文 背景)

室戸台風で、倒壊した校舎の下敷きになり亡くなった大阪市立豊崎第四小（現豊崎東小）児童19人の冥福を祈り建立された。大阪市内にある240校の学校の古い木造校舎180校がすべて被害を受けた。

暴風警報で学校が休校になったのは室戸台風以降である。

なお、本堂の高さは淀川に近く洪水から守るために、石垣でかさ上げされている。

●東大阪市 友井墓地 室戸台風（その他）



(碑文 要約)

学童之靈

この碑は室戸台風で犠牲になった友井地区の児童の供養の為、友井地区の方々によって建てられたもので、11名の名が刻まれている。

●大阪市 生野区 生起地蔵尊 室戸台風（その他）



(碑文 原文)

昭和 9 年室戸台風の折堺三宝浜に出現の地蔵尊有志相図り町内に勧請町の平和と安全親と子の恵みを垂れ賜茲に約半世紀今度御堂再建に当たり由來を顧み誌す。

昭和 55 年 8 月 10 日 生起地蔵講

●東大阪市 殉難記念碑 室戸台風（その他）





(碑文 原文)

殉難記念碑

盾津村青年團古箕輪支部建

故大西勝君天資明朗卒小學校享職於西六鄉校餘暇學於城東商業校日夜精勵偶逢昭和九年秋稀有風害校舍將倒壞也救出兒童十數名而殉職時年十六村民憐其情且慕其德胥謀建碑以傳諸不朽云爾

昭和十年九月二十一日

從四位勲三等成田軍平撰書

(碑文 背景)

当時盾津村には、「西六郷」、「北江」、「東六郷」の三校の小学校があり、現在の弥栄小学校の前身である「西六郷小学校」の校舎が損壊し児童2名、給仕の方1名が亡くなられた。

●大阪市 都島区 水防碑



(碑文 原文)

都島区は、これまで幾多の水害に見舞われてきたが、中でも明治十八年（一八八五年）の大洪水による被害は大きく、東成郡 27ヶ村が水中に没した。そこで濁水を淀川に戻すため、野田村の現在の網島町の堤防を切り崩し、徐々に放流した。近年こうした大水害はほとんど見られなくなったが、このような平時において、なお、一層人々が水防意識を高め、不斷の努力で、災害を防除することを祈願して、この碑を建立する。

昭和五十五年秋 大阪市

●大阪市 浪速区 水防碑



(碑文 原文)

浪速区はこれまで台風に伴う高潮により、幾多の水害に見舞われたがなかでも昭和九年（一九三四年）の室戸台風、同二十五年（一九五〇年）のジェーン台風、同三十六年（一九六一年）の第二室戸台風により、多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害はほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が水防意識を高め、不斷の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和五十四年秋 大阪市

●大阪市 北区（現在） 水防碑



（碑文 原文）

大淀区はこれまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが中でも昭和九年（一九三四年）の室戸台風、同三六年（一九六一年）の第二室戸台風より多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害はほとんど見られなくなったがこのような平時においてもなお一層人々が水防意識を高め、不斷の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和五十五年秋 大阪市

○大阪市 西区 水防碑





(碑文 原文)

西区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和九年（一九三四年）の室戸台風、同二十五年（一九五〇年）のジェーン台風、同三十六年（一九六一年）の第二室戸台風により多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害は、ほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が、水防意識を高め不斷の努力で災害を防除することを念願してここ長堀川跡にこの碑を建立する。

昭和五十三年 秋 大阪市

●大阪市 大正区 水防碑





(碑文 原文)

大正区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和九年（一九三四年）の室戸台風、同二十五年（一九五〇年）のジェーン台風などにより、多くの人命と財産が失われた。
近年こうした大水害はほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が、水防意識を高め、不斷の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和五十二年 秋 大阪市

●大阪市 港区 築港南公園 水防碑





(碑文 原文)

港区をはじめ西大阪は、これまで高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和九年（一九三四年）の室戸台風、同二十五年（一九五〇年）のジェーン台風、三十六年（一九六一年）の第二室戸台風により多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害は、ほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が、水防意識を高め不斷の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立し、あわせてこの近くに建立されていた風水害記念塔の銘板を右に設置する。

昭和五十二年 秋 大阪市

(碑文 背景 大阪市港区 HP から引用)

昭和 9 年(1934)9 月 21 日、風速 60 メートルに達する室戸台風が大阪を直撃し 1,800 名余りの死者が出た。室戸台風の被害を忘れず、犠牲者の靈を慰め、全国からの救援に感謝する趣旨で昭和 11 年(1936)9 月に「風水害記念碑塔」が建てられた。

しかし戦災にあい、築港中学校の敷地となるために撤去され、現在は碑文のみが昭和 51 年(1976)に新たに造られた「水防碑」とあわせて、築港南公園入口に設置されている。

また水防碑には「災害は忘れたころにやってくる」と記され、災害の恐ろしさを伝えている。

●大阪市 淀川区 水防碑



↑ 十三公園内

(碑文 原文)

淀川区は、これまで幾多の水害に見舞われてきたが、中でも明治二十九年（一八九六年）の油津村大字新在家の神崎川堤防決壊は区内全域に大きな災害をもたらし当地（旧称堀）の旧家に救助所が設置されたという。

近年河川改修が進みこうした大水害はほとんど見られなくなったが、なお、一層水防意識の高揚をはかり、水害防除と河川愛護を念頭してこの碑を建立する。

昭和五十一年秋 大阪市

●大阪市 住吉区 水防碑





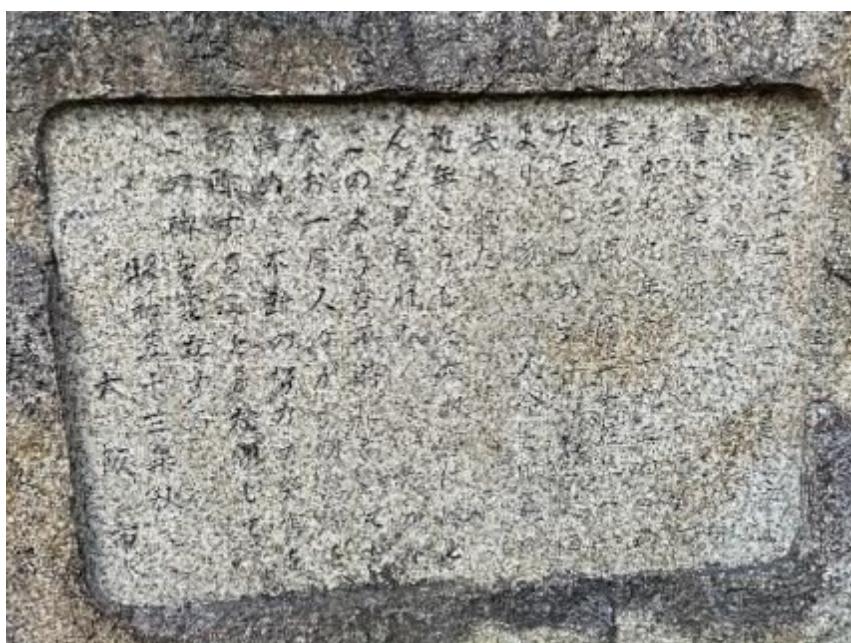
(碑文 原文)

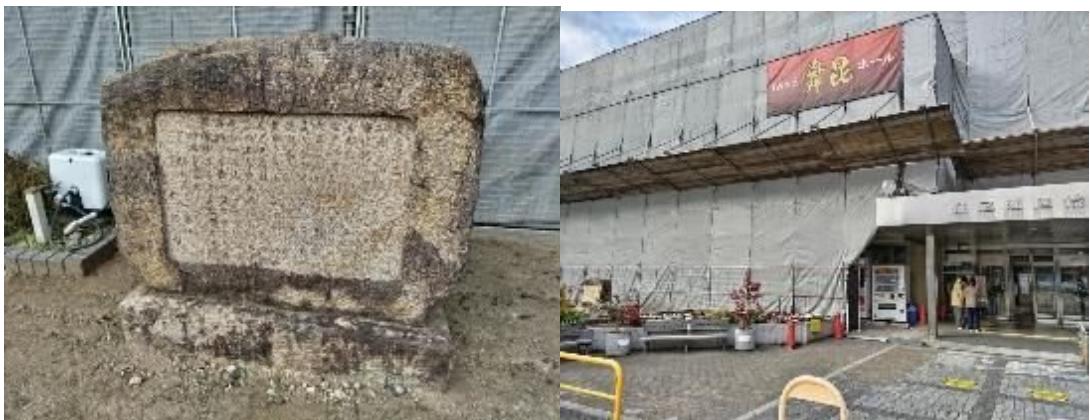
住吉区は、これまで幾多の水害に見舞われてきたが、なかでも明治元年（一八六八年）の大水害では当時の住吉郡遠里小野村の大和川堤防が決壊し多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、このような平時においてなお一層人々が水防意識を高め不斷の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和五十五年秋 大阪市

●大阪市 住之江区 水防碑





(碑文 原文)

住之江区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和九年（一九三四年）の室戸台風、昭和二十五年（一九五〇年）のジェーン台風により、多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、なお一層、人々が水防意識を高め不斷の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和五十三年秋 大阪市

●大阪市 此花区 水防碑





(碑文 原文)

此花区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和二十五年（一九五〇年）のジェーン台風、同三十六年（一九六一年）の第二室戸台風などにより多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、このような平時においてもなお一層人々が水防意識を高め、不斷の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和五十二年秋 大阪市

●大阪市 福島区 水防碑



(碑文 原文)

福島区は台風に伴う高潮によって水害に見舞われたが、なかでも昭和九年（一九三四年）の室戸台風、昭和二十五年（一九五〇年）のジェーン台風、昭和三十六年（一九六一年）の第二室戸台風によって多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、このような平時においてもなお一層人々が水防意識を高めることを念願してこの碑を建立する。

昭和五十三年秋 大阪市

●大阪市 西淀川区 水防碑

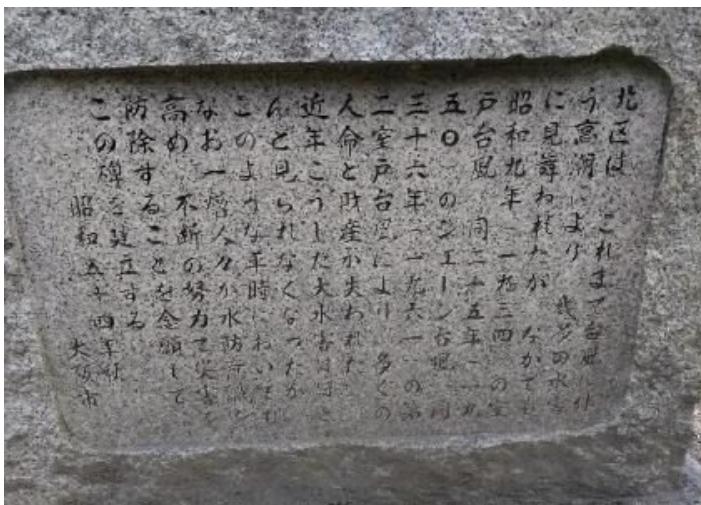


(碑文 原文)

西淀川区は、高潮などによりこれまで幾多の水害に見舞われてきた。なかでも昭和九年(一九三四年)の室戸台風、昭和二十五年(一九五〇年)のジェーン台風などによる被害は大きく、多くの人命と財産が失われた。近年防潮堤工事が進みこうした大水害はほとんど見られなくなったが、なお一層人々が水防意識の高揚をはかり水害防除と河川愛護を念願してこの碑を建立する。

昭和五十一年秋 大阪市

●大阪市 北区 水防碑



(碑文 原文)

北区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和九年（一九三四年）の室戸台風、昭和二十五年（一九五〇年）のジェーン台風、昭和三十六年（一九六一年）の第二室戸台風により多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、このような平時においてもなお一層人々が水防意識を高め、不斷の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和五十四年秋 大阪市

●大阪市 東淀川区 水防碑





(碑文 原文)

東淀川区はこれまで幾多の水害に見舞われてきた。

なかでも大正六年(一九一七年)の神崎川下新庄樋(ここより北二百m)の決壊は区内をはじめ淀川河口に至る全域に大きな災害をもたらした。

近年河川改修が進みこうした大水害がほとんど見られなくなったが、なお一層水防意識の高揚をはかり、水害防除と河川愛護を念願してこの碑を建立する。

昭和五十一年秋 大阪市

※大阪市が各区に水防碑を設置された経過

大阪市ではかつて、多くの人命や財産を失う大水害が発生しており、また、昭和51年9月に発生した台風17号による全国各地の被害等がきっかけとなり、日ごろの水に対する備えや堤防の保全、避難緊急時の心構えが重要であると考えられた。そこで本市は、水防意識の高揚をはかり、水害防除と河川愛護を念願する意味から、かつての被災地に水防碑を建立することとした。

(昭和51年台風第17号)

日本全国に記録的な大雨をもたらした。

台風がもたらした降雨量の正式な統計は存在しないが、この台風の800億トンを超える降雨量は、おそらく歴代第1位とされる。

●大阪市 北区 堀川戎神社 福興戎像 阪神・淡路大震災



(碑文 背景)

平成 7 年(1995)1 月 17 日の阪神淡路大震災で破損した表門石造鳥居(昭和 2 年(1927)制作)の柱に彫られ、平成 10 年(1998)に奉納、さらに、平成 12 年(2000)には、「福」と「興」から名付けたもの。

被災した鳥居から蘇った由来により、防災の伝承がされている。

●大阪市 平野区 白鷺公園 阪神・淡路大震災



(碑文 要約)
平成七年一月十七日午前五時四十六分
阪神震災鎮魂植樹
犠牲者 5504 餘人のご冥福を祈る

●大阪市 西淀川区 大野百島住吉神社 阪神・淡路大震災



(碑文 要約)
阪神淡路大震災復興記念

●大阪市 西淀川区 田蓑神社 阪神・淡路大震災





(碑文 要約)

阪神淡路大震災で標柱が破損したが、金属で補強し境内に設置した。

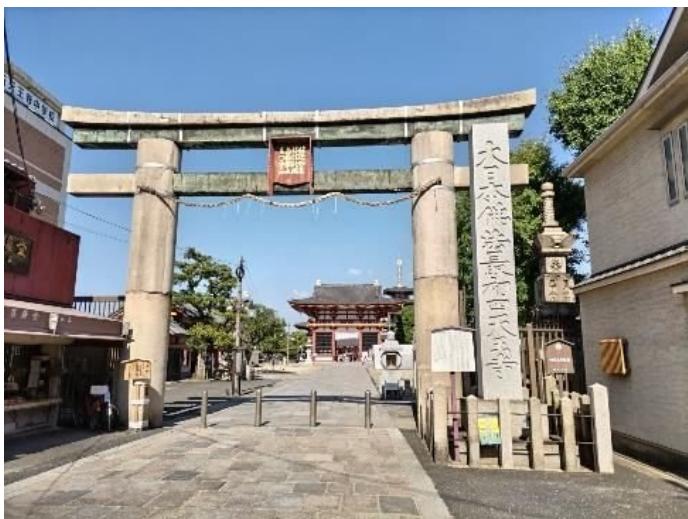
●大阪市 福島区 福島天満宮 阪神・淡路大震災



(碑文 要約)

阪神・淡路大震災で大正 10 年(1921)建造の石造大鳥居が被災したが、完成奉建した。

●大阪市 天王寺区 四天王寺 阪神・淡路大震災



（碑文 要約）

過去に幾多の地震や災害による被災、修理の記録があり、近年では平成7年(1995)の阪神・淡路大震災の後に、石橋のひび、傾きが認められたため、平成9年(1997)に半解体修理を実施している。

この際、島木を包む銅板の中から永生・寛文年間などの写経・毛髪・経木が多数確認された。

●枚方市 砲弾解体中の引火 火災





↑ 枚方市 HP から（現地撮影物理的に不可のため）

（碑文 原文）

昭和十四年三月一日本町禁野区内ニ火災勃発スル中、本町公設消防組員茨木安三、小笠原慶五郎、小路政治郎、出口義三、坂本彌市、瀧川義秀、西川重吉、丸山利吉門、田豊繁、竹内丑太郎、今堀春三、余膳繁一郎、森本藤松、山中道雄、森崎丑松並ビニ町会議員山本徳次郎ノ諸氏ハ決然現場ニ出動善ク消火ニ奮闘シ、遂ニ殉職ス。其ノ行動タルヤ実ニ警防精神ノ發露ニシテ衆庶ノ龜鑑タリ以ツテ茲ニ碑ヲ建立シ諸氏ノ遺勲ヲ永久ニ讃フ。

昭和十五年三月一日 枚方町建之

（碑文 背景 枚方市 背景 HP から引用）

戦前、この一帯には、陸軍の兵器用火薬や砲弾・弾薬を収蔵する禁野火薬庫がありました。禁野火薬庫は、昭和14年（1939）3月1日午後2時45分、大爆発を起こし、火薬庫はもちろん周辺の住民に大きな被害をもたらした。軍人・民間人を含む死者100人近くにのぼり、家屋の全半焼は821戸および多数の負傷者を出す大惨事となった。

この殉職記念碑は火薬庫の大爆発による消火活動等に従事して殉職した消防関係者16名を慰靈するため、昭和15年（1940）3月1日に建立された。

枚方市は、禁野火薬庫大爆発から50年目の平成元年（1989）に、「3月1日」を「枚方市平和の日」と決めた。



(碑文 原文)

殉職義烈之碑



(碑文 背景 現地案内板より)

戦前、この一帯には、陸軍の兵器用火薬や砲弾を収蔵する禁野火薬庫があった。禁野火薬庫は、昭和 14 年(1939)3 月 1 日午後 2 時 45 分、大爆発をおこし、火薬庫はもちろん周辺の住民に大きな被害をもたらした。周辺の住民によれば、死者 100 人、負傷者 100 人、家屋の全半壊 821 戸、多けり等々といふが、現地案内板によると、負傷者は 100 人、死者 100 人、家屋も多めに破壊されたといふ。火薬庫は、兵庫県立の研究機関であるため、昭和 15 年(1940)3 月 1 日に建立された。

枚方市は、禁野火薬庫大爆発から 50 年目の平成元年(1989)3 月 1 日に、「3 月 1 日」を「枚方市平和の日」と定めた。

枚方市

●大阪市 天王寺区 一心寺 東日本大震災



(碑文 原文)

11-03-11

東日本大震災

世界最大級震度

大波命奪い去る 濁流・炎・町をのむ

命の72時間「小さなその手は」

邦夫

制作者 竹谷邦夫

○高槻市 芥川 陸軍工兵殉難之碑 昭和10年水害



(碑文 要約)

昭和10年(1935)6月29日、関西地方は前例のない豪雨に見舞われた。周辺の河川で決壊が起こる中、芥川でも増水し、今にも決壊する恐れが高まった。工兵隊に出動要請をし、水防活動が行われた。その最中、北野小一郎上等兵は、芥川の増水に際し堤防防御に出動、木流し工法により決壊を防ぐものの作業中に濁流に転落し殉職した。

●大阪市 天王寺区 一心寺 疫病



(碑文 要約)

大正八九年流行感冒病死者群靈

大正十一年十二月

施主 薬剤師 小西久兵衛 小西吉栄

(碑文 背景 日経新聞令和2年(2020)6月11日から引用)

およそ100年前、大正7年(1918)から大正9年(1920)にかけて全世界で大流行したスペイン風邪は日本でも猛威を振るった。ほぼ収束した後に再び流行が起り、国内の累計の患者は2千数百万人、死者は38万人を超え、関西でも多くの人が亡くなった。

大阪市天王寺区の一心寺の境内には「大正八九年流行感冒病死者群靈」と刻まれた慰靈碑。

建立したのは大阪・道修町で薬種業を営んでいた小西久兵衛・吉栄夫妻。

栄養剤の販売で財を成した小西氏は神社に拝殿や鳥居などを寄進しているが、この慰靈碑を建立した経緯は不明。

同氏が設立した大阪女子商業学校（現あべの翔学高校）を運営する学校法人朝陽学院は創立100年に向け、小西氏の足跡を調べている。楠嶺順功事務局次長は「一心寺の慰靈碑については記録がなく、わかつていない。地域の名士だったので様々な依頼が来たのではないか」と語る。

大流行の異常事態は当時の記事にも表れている。神戸で明治から戦前まで発行されていた神戸又新（ゆうしん）日報の紙面には「野焼を望む喪家 遺骸の野曝しに懲りて」「屍骸の鉄道輸送 神戸駅から日に五六柩」という記事がある。スペイン風邪は第1次世界大戦の戦勝ムードがあったためか、悲惨さを後世に伝える記録が少ない。

収束後に再び襲ってきた大流行を今こそ教訓にしたい。

大都市を中心に流行したスペイン風邪がのどかな田舎を襲ったのは不運な理由からだった。

当時、伊根町筒川地区に筒川製糸場という製糸工場があった。生糸は当時の重要な輸出品で、明治34年(1901)に設立された同工場では最盛期に160人以上の若い女性が働いていた。

明治42年(1909)に火災で全焼した工場が大正7年(1918)に再建され、慰労と研さんのために大正8年(1919)1月、従業員の旅行が企画された。100人以上が申し込み、京都から名古屋、横浜、東京などを10日間かけて巡った。生糸は当時、主に横浜港から輸出されており、製糸関連施設の見学などをしたようだ。ところが、帰路、伊根に近い宮津で参加者が次々に発症する。当時の記録に

「宮津町ニ帰着シタル一月二十二日ノ夜（中略）悪性感冒ハ可憐（かれん）ノ女工ニマデ襲ヒ寄リ……」という記述がある。看病むなしく 11 人が亡くなつた。

この時の流行によって筒川地域では工場従業員ら約 40 人が亡くなつた。地元寺院の住職らの発案で鎌倉の大仏を模した青銅製の仏像が建立された。

その後、戦時中の金属類供出で仏像は失われてしまったが、終戦前の昭和20年（1945）4 月、石仏が再建された。

京都や大阪には供養や慰靈のために建てられた仏像や碑が残り、当時の衝撃を今に伝えている。

●寝屋川市 八坂神社 疫病



延年代は詳らかでないが伝承によれば第一
五二年の頃と伝へられる。

茨田の池に悪疫発生し住民死亡する者多
く、播磨廣峯神社に疫病平癒の祈願を行つた
所、成らずして終息す。人々これ忘れざる
を以つて廣峯神社分祀を勧請し、小社と
園社と稱え、里の守神とし、祀り奉る。



(碑文 要約)
祭神
素戔嗚尊、住吉大神

由緒

当社の創立年代は醍醐天皇の延長元年（923）、また皇極天皇二年（643）とされる。播磨国の広峰神社から神靈を勧請したと伝わる。

一説に、仁徳天皇の時代に茨田の堤が築かれ、ここに河内平野東部を南北に走る山脈丘陵に源を発し、高宮台地に迫り南流した水は此の地に滞留し広大なる池となっていた。

人呼んで茨田の池という。皇極天皇二年七月、池の水が腐敗し、口黒く身白き小虫がわき、池を覆い、翌八月に入ってその虫が死に、死骸は水面十粁から十五粁の厚さなりしと云う。

その為池の水藍汁の如く変じ魚類死滅、悪疫発生し住民死亡する者多く、ここに於いて里人困窮し播州広峰神社に疫病平癒の祈願を行う。

靈験著しく、日成らずして終息する。従って住民が小祠を建て、素盞鳴尊を祀った。

●大阪市 此花区 正蓮寺 (分類困難・その他) 濃尾地震



(碑文 背景)

明治 24 年 (1891) 10 月 28 日午前 6 時 37 分、岐阜県美濃地方、愛知県尾張地方を突然猛烈な地震がおそった。

最初は上下、水平方向への動きとともに、北、南へ揺れていたが、いきなり大きな烈震となり、岐阜地方気象台の地震計の針は振り切れてしまった。

31 日までの 4 日間に、烈震 4 回、強震 40 回、弱震 660 回、微震 1 回、鳴動 15 回、合計 720 回を数えた。その後も余震は絶えなかった。

震源地は本巣郡根尾谷（現本巣市根尾）。

地震のエネルギーはマグニチュード 8.0、世界でも最大級の内陸直下型地震であった。あの記憶に生々しい阪神・淡路大震災（1995 年）がマグニチュード 7.2、関東大震災（1923 年）と同じく 7.9 であった。

地震の及んだ範囲は、西は九州全土に、東は東北地方にまで達した。

中でも激震地域は岐阜県の美濃地方を中心に、愛知県尾張地方、滋賀県東部、福井県南部に及んだ。死者は全国で 7,273 人、全壊・焼失家屋 142,000 戸という大きな被害をこうむった。

（『浪華紡績会社震災死の慰靈碑』）

遠く濃尾地震によって亡くなった職工・女工さん 22 名の慰靈碑

遙かに離れた岐阜を震源とする地震が、なぜ、大阪で犠牲者を出すほどの被害を引き起こしたのか。

浪華紡績会社・工場の倒壊 濃尾地震での大阪府の死者 24 名のうちの 22 名は西成郡南伝法村（現大阪市此花区）の浪華紡績会社（現在、UR 伝法団地）で働いていた職工・女工さんたった。

浪華紡績会社は、明治 21 年（1888）開業、据付錘数一万錘以上の大工場で、西洋式の新築間もない工場が倒壊した。倒壊した第二工場は 50 間（90 メートル）に 20 間（36 メートル）のレンガ造三階建、昼夜交代制で、地震が起きた 6 時 30 分頃は、前夜から勤務していた者と昼間勤務の者とが交代した直後であった。

当時 567 名の労働者が工場内にいたが、ただならぬ地震の揺れに驚いて、多数の職工・女工さんは狭い階段を先を争って階下に逃れようとした。工場の屋根が落ち、さらに三階の壁が内部に向けて倒れ、多くの職工・女工さんたちが瓦礫の下敷きとなった。当時の大阪朝日新聞の挿絵から、3 階の大部分が崩壊したことが分かる。

朝にかかるわらず、多数の死者があったのは、昼夜 2 交代制の厳しい労働条件だったからであろう。

女工さんたちは工場と正蓮寺川の中州にあった寄宿舎を往復する毎日であった。細井和喜蔵『女工哀史』に浪華紡績会社の被災についての記述がある。（ただし、死者数などについての誤りもある。）近代的紡績工場がなぜ倒壊したか。

被害地を調査した大森房吉は、浪華紡績会社の倒壊について、大阪のように地震の揺れがそれほど強くない地で倒壊したのは、設計に問題があったとしている。また、工場の二階三階の床横木は壁の切り込みに載せてあるだけで、建物が振動するに連れて壁から脱落してしまったと述べている。

付近の民家や寺に大きな被害が無かったことから、工場の倒壊は耐震性が極度

に劣っていたといえよう。

大阪府下での死者は、浪華紡績会社を除けば 2 名であった。

当時、大阪市内（東・西・南・北区）では倒壊した家屋は北区で 4 戸であった。

西成郡では、現西淀川区千船で寺院の本堂が倒壊、御幣島で田畠が陥没、現大正区三軒家でレンガ造の建物に被害、郡全体で倒壊家屋は 9 戸であった。

東成・住吉両郡では家屋の倒壊は 5 戸、多くの石灯籠が倒れた。生駒山地の西側低地に位置する河内地方で最も被害が大きく、若江郡、現・東大阪市で 55 戸が倒壊した。

住家の被害程度から、大阪府下の震度は弱いところで 4、強いところで 6 弱と推定された。鉄筋コンクリート造建築の主流化濃尾地震は近代化の途上にあつた日本の国民、政府にとって大きな衝撃であった。

翌年、震災予防調査会が発足し、「被害の軽減」を任務として、具体的には「耐震建築の方法」と「地震予知の方法」を開発することに力を注がれた。レンガ造建物の非耐震性が認識され、耐震性・耐火性を併せ持つ鉄筋コンクリート造建築が注目されるようになった。

大正 12 年(1923)に起きた関東大震災でも、再びレンガ造建築に多くの被害が出て、以後、鉄筋コンクリート造建築が主流となった。

しかし、弱いと思われているレンガ造であるが、英国人コンドルの指揮によつて施工されたレンガ造など、関東大震災でも無被害であったものもある。レンガという材料に問題があるのではなく、造り方の問題もあるといえよう。当時の建築技術をリードした佐野利器は、

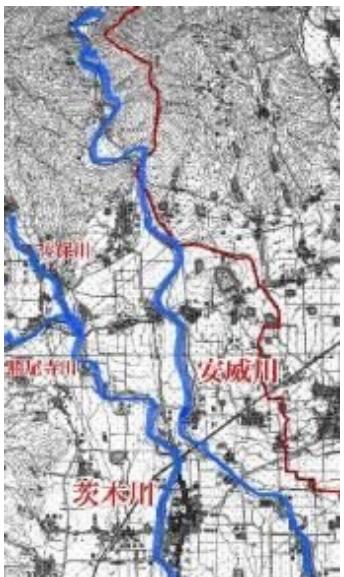
「鉄筋コンクリート構造はその手法よろしきを得れば最も簡単に耐震、耐火、耐久的たり得べきことを断定し得る」
と述べている。

承継法人の東洋紡におかれては、毎年お盆の時期にお参りされておられるとのことである。

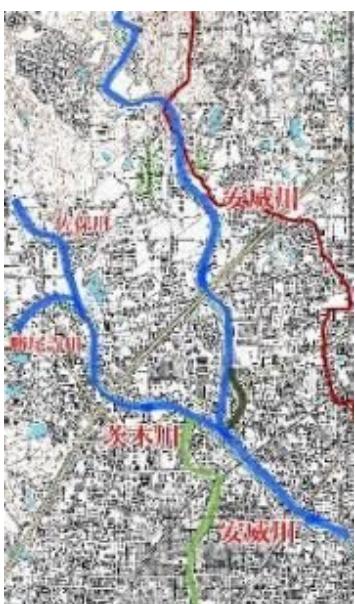
※石碑の文字の下には「震災」という文字が刻まれている。

●茨木市 安威川茨木川合流 (分類困難・その他) 水害





1920 年代の茨木の地図⇒茨木川と安威川が合流していない。



2000 年代の茨木市の地図⇒茨木川と安威川が合流しており 1920 年のものより
川が直線化されている。

(碑文 背景)

茨木川と安威川は過去に堤防の決壊を起こしていた。昭和 9 年(1934)7 月に豪雨により茨木川と安威川が決壊。昭和 10 年(1935)6 月にも茨木川と安威川が決壊。そして、同年 8 月にも茨木川と安威川が決壊。これでは、何度も何度も決壊してしまい何度も洪水で町がやられてしまうということで、当時の茨木町が対策を講じようとする。

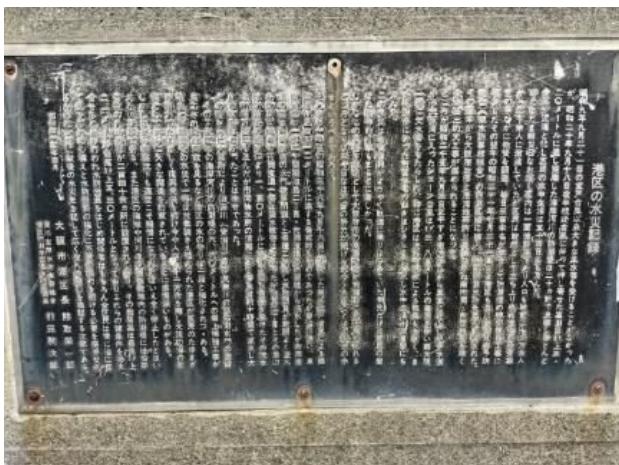
茨木町や周辺流域の自治体、大阪府だけでは改良工事はできないということで、

大阪府は政府に援助を求めた。そこで茨木川と安威川の改良工事をすることが決定した。改良工事の案として、茨木川と安威川を合流させることだったが、安威川流域の住民が反対。そこで、河川を直線化して決壊の恐れを減らし、堤防をより高くし、河川を低くし、合流地点には茨木川側に水門を設置する、ということで合意。

そして、昭和 12 年(1937)に工事が開始された。その結果、昭和 18 年(1943)に茨木川の付け替え工事が終わり、昭和 24 年(1949)に合流地点より下流の茨木川が廃川となった。

しかし、昭和 42 年(1967)に茨木市を含め集中豪雨を襲い、茨木川と安威川は再び決壊してしまい、多数の人的被害や建物に被害が出た。そこで、安威川の流域である茨木市、高槻市、吹田市、摂津市、大阪市の市長らが安威川ダムを建設する河川整備を大阪府に要求。安威川は東海道新幹線や名神高速など日本の大動脈を通過する河川であり再び決壊を起こしてしまえば、大阪だけではなく全国にも物流などで二次被害が発生する可能性があり、大阪府は安威川の上流にダムを建設することになった。

●大阪市 港区 天保山 (分類困難・その他) 水害





(碑文 要約)

「港区の水災記録」昭和 20 年(1945)9 月 18 日枕崎台風による被害で防潮堤が決壊。

区民への水害影響は 54 日にも及んだ。戦災による人口の激減・物資窮乏の中で区民は懸命に立ち上がり防潮堤を補強。

「港防潮区分団」を創設した。

昭和 25 年(1950)9 月 3 日ジェーン台風により大水害を被る。

港区は特に被害甚大で、水中生活は 12 日にも及んだ。

この災害を教訓に大阪府市が高潮対策を拡充強化する。

昭和 36 年(1961)9 月 16 日猛烈な第二室戸台風が襲来。

市岡方面まで流水が及んだものの浸水による大きな被害はなかった。

港区で発生した台風による水災被害と区民の尽力による水防の記録が刻まれている。

●摂津市 神崎川改修饒足の碑 （分類困難・その他）水害



（碑文 要約 摂津市教育委員会 HP から引用）

淀河之水汪悒として十余里、遭運に便じ灌漑に利す。沿岸の地頼りてもっていづくんぞ安んず。

独り北岸嶋下郡に至りては、即ち地勢窪下にして、河底殆ど屋頭より高からんとす。故に河水時に田圃皆没す。

其の鳥飼別府一津屋の数郷の若きは維新後、其の害にあうこと既に四回霖にあれば即ちむなしく居民荷澹して立つ。或は家も移し疆を出す。

府知事渡辺君之を憂い、或る時は其の窮耗を賑わし或は其の堤防を修む。またただ河水湾回し、北岸常に其の衝に當る、實に天然の勢いかんぞかならず。ここにおいて断然水勢を変更する議を下し、神崎川かたわらに於て新に一河をさくす。其の道極直にして且つ深し。不日竣功し旧河の水奔來してここに注ぐ。其の勢の快なること決するがごとし。時に明治十二年七月也。

嗚呼往年の水害一挙にそく減し。また沈そう懸釜のおそれ有る無し昔西門豹、水を利して民皆饒足す。

（略）いたく後世に流し誰かよく其の法式を改めん（略）此の偉業あに一言もなかるべし。よってせんれつを顧ずして誌す。

日柳政懇撰・大庭景明書

（碑文 背景 摂津市教育委員会 HP から引用）

この石碑は神崎川付け替え改修工事が竣工した際、渡辺大阪府知事の功績をたたえる為に鳥飼八町村の人々が建てたもの。

当時、鳥飼・味生地区は地勢が低いため排水が悪く、何度も大きな水害に遭遇していた。

明治 12 年(1879) 神崎川改修工事が完成し迂回していた河道をまっすぐ西走するように改良が行われた。

この地区が水害から免れて多大な恩恵を受けることになった喜びと感謝の気持ちが碑文に表されている。

●高槻市 番田大樋 (分類困難・その他) 水害



（碑文 要約 枚方市 HP から引用）

芝生大樋と番田井路は長い歴史のなかで、下流域を含めた水利を飛躍的に増大させた。水利のみならず、京保年間（1716～1736）には玉川・安威川・神崎川を結んだ水運を利用して、大阪の下肥を芝生に運ぶ「芝生村尿船」が運航されていた。歴史遺産としての樋門と水路は、時代に応じた機能整備が行われて、いまも幹線水路として生き続けている。

（碑文 背景）

慶安 3 年(1650) 高槻は大洪水に見舞われ、淀川沿いの村々では収穫が半減するなど被害を受けた。

これを契機に、翌 4 年から高槻藩主永井直清により、番田の排水路（井路）掘削工事が行われた。

これは、天井川である芥川の川底の下を横断する巨大な木管（木製樋門）によって、番田井路と天正年間に完成した三箇牧井路を結ぶものであった。工事は承応 2 年(1653)に完成し、番田の悪水は柱本で淀川に流されるようになった。

しかし、淀川川床の上昇のために改修が必要になり、元禄 13 年(1700)から、川村瑞賢の監督で再度工事が行われ西に井路が開削された。これにより、番田から芝生・玉川・安威川を経て神崎川へ至る経路が完成した。

その後幾度と改修が行われたが、大正 6 年(1917)の大塚切れと呼ばれる大洪水を契機に大正 12 年(1923)改修工事に着手、大正 15 年(1926)に 2 艘の樋を統合改築する工事が完成した。

この大樋は、鉄筋コンクリート製で樋門の正面は赤煉瓦の構造物であった。

平成 3 年(1991) 芥川右岸堤防拡幅に伴い新大樋が完成し、赤煉瓦の旧大樋は撤去されそれを模した記念碑が作られた。

芥川の右岸は芝生と呼ばれ、平成 9 年(1997)3 月に一連の改修工事が完成した際に、出口（芝生側）に大阪府によって「芝生大樋」記念碑が完成した。

●寝屋川市 鴨川洪水北向きお地蔵さん (分類困難・その他) 水害



終戦混亂の時、町内の主人
氏、山口利衛門氏により京都
帰り、鴨川にて洪水により
いたと思われ埋もれていた
を見つけられて、電車で
されました。





(碑文 原文)

北向きお地蔵さんの由来

昭和二十年、終戦混乱の時、町内の主人川端久太郎氏、山口利衛門氏により京都での仕事の帰り、鴨川にて洪水により運ばれて届いたと思われ埋もれていた、お地蔵さんを見つかり、電車でこの本町西にお迎えされました。

戦争で多くの人、子供の命が奪われ、心が悼むその供養、そして世界が平和である事、家族の幸せ、無病息災を祈り此処に奉られました。

北向きお地蔵さんと多くの人に親しまれて手を合わせています。

毎年八月、二日間に渡り地蔵尊祭りが町内一体となり執り行われており、子供振神輿の巡行他盛大に開催されております。

本町西自治会

●大阪市 平野区 平野川氾濫被災者供養塔 (分類困難・その他) 水害



↑全景



↑平野川供養塔



平野川法要記念碑



(碑文 背景)

平野川は氾濫で多くの人が犠牲になった川でもあり、種々の供養塔や法要記念碑が建てられている。

●大阪市 生野区 平野川分水路改修之碑 (分類困難・その他) 水害





(碑文 背景 城東区 HP から引用加筆)

平野川は柏原市の樋門から大和川の水を引き、八尾市から平野区を通り駒川・今川を合流し生野区・東成区を経て城東区に入る。

城東区では中浜の南で永田の方から西に向かって流れる千間川を併せ、ついでJR環状線に沿って北に流れてきた猫間川を加えたあと寝屋川に注いでいた。

この川の名称は、時代や流域によって竜華川・百濟川・河内川などと呼ばれていた。百濟川とは奈良朝から平安朝にかけて百濟の郡が置かれ、その中央を流れていたため。

大和川の付け替え以前は今よりずっと大きな川で、水量もあり流れも緩やかなことから、水運も盛んで京橋と柏原を上下する物資運搬用の柏原舟が有名。ことに鶴橋あたりまでは頻繁な舟運が行われていた。

しかし、大雨になると水かさを増した濁流が勢いよく流れ、堤防が低く川筋も蛇行していることから、毎年のように氾濫し水禍を繰り返していた。このため治水工事が度々行われ、現在の川筋は昔の流路とは異なったものになっている。

大阪市の河川対策として、昭和4年（1929）に着工された平野川分水路（城東運河）の開削は、戦争の激化で中断するが、寝屋川水系の治水計画の見直しもあってようやく昭和33年（1958）に完成する。

この分水路には八尾市や平野区方面の川の水を流し込むようにし、従来の平野川は主に駒川・今川の流れを受け持つことになった。平野川分水路の完成により洪水による被害は減少した。

今では想像することもできないが、戦前まで千間川の合流するあたりでは泳ぐことができた。

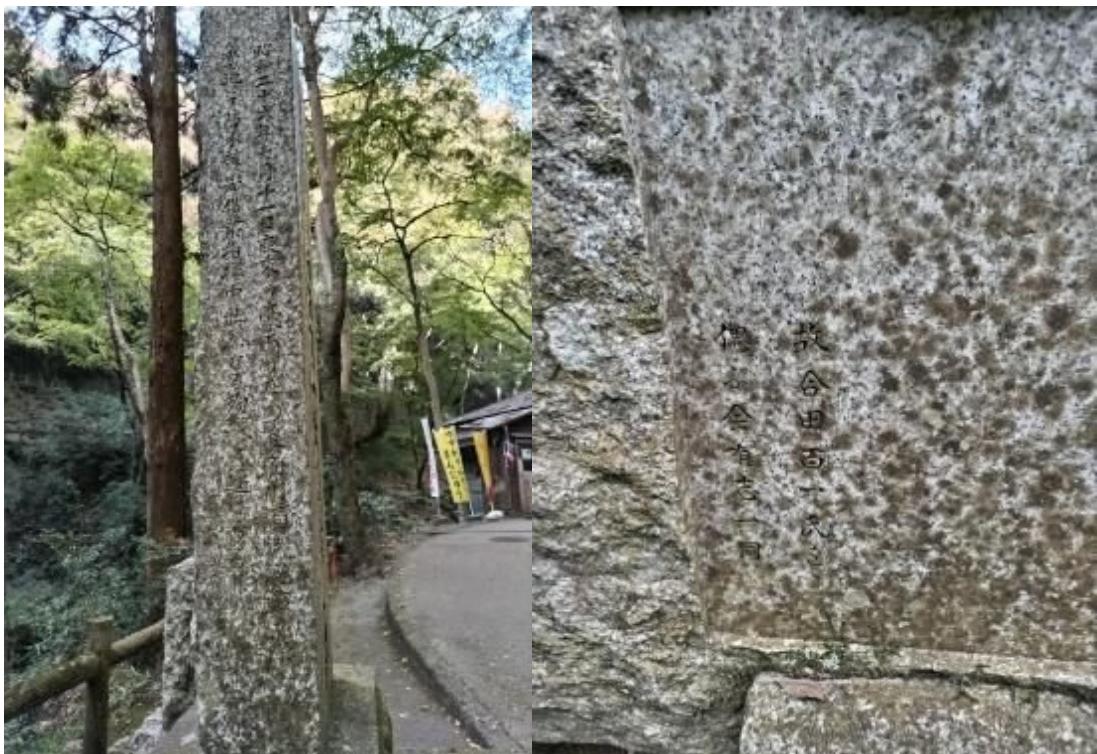
●箕面市 箕面川 滝道① (分類困難・その他) 水害



(碑文 原文)
昭和二十五年災害復旧

●箕面市 箕面川 滝道② (分類困難・その他) 水害





(碑文 原文)

警視正箕面町警察長合田百一氏殉職之碑

昭和二十六年七月二十一日夜來の豪雨のため箕面川濁流氾濫の際當地にて防水護岸作業指揮中壮烈なる殉職を遂げらる

(説明碑 原文)

警視正箕面町警察長合田百一氏殉職之碑

昭和二十六年七月十一日未明から近畿に襲来した集中豪雨により、箕面公園内を流れる箕面川は未曾有の増水となり濁流渦を巻いて氾濫し、低地は濁流に現れ、園内の飲食店や旅館は押し流される危険な状態になった。増水に伴い護岸警備に従事中の合田警察長はこれが救援要請を受け、部下三名を同行し箕面公園に出動した。公園内を順次下方から現況視察をかね、個別に被害調査と懇切な避難に対する助言と指導を行いつつ、降りしきる雨の中の滝道を登り、最終地点に至った時、同店に助けを求める人影を認め、ただちにこれが救助に当たるべく、合田警察長は部下の先頭に立ち、濁流と化している道路を避け、山の斜面を這うように伝いながら進んだところ、当碑より五十米上手の地点に至った時、突如、足元の地面が崩れ落ち、助ける手立てもなく濁流に呑まれ尊い犠牲になった。

故合田警察長は、昭和二十三年三月、警察法の改正に伴い、箕面町警察署の初代警察長として赴任、爾来町の治安維持のため、強く責任感と実行力を持って

行政、業務に精励され、その業績は高く評価され、かつ温厚堅実で、情に厚いところから町民や部下から尊敬と信頼を受けていた惜しむに足りる高潔な警察官であった。

ここに同警察長の遺徳を忍び、その功績を讃え、町民有志により同殉職の碑が建立された。

昭和六十二年九月吉日 之建

●大阪市 港区 池島公園 勝利の女神 (分類困難・その他) 水害





(碑文 背景 港区 HP から引用)

港区は太平洋戦争で空襲にみまわれ、一面焼け野原になった。また、戦後は地盤沈下のためジェーン台風などで大きな水害にもあった。そのため災害に強いまちをつくるために、平均2メートルの地面のかさ上げ（盛土）や道路・上下水道工事など大規模な土地区画整理事業が、45年もの歳月をかけて行われた。これを記念して「勝利の女神像」が、池島公園に設置された。

●大阪市 港区 災害モニュメントパーク （分類困難・その他）水害



(碑文 背景 港区HPから引用)

過去の災害の記憶を風化させないようにと、平成10年(1998)に開設されたコミュニティ公園。

被害状況等の説明や災害時の心得を記した掲示板のほか、浸水時の水位をしめすモニュメントなどが設置された。

●大阪市 都島区 旧毛馬基標 (分類困難・その他) 地震



(碑文 要約)

南海地震や地盤沈下などにより、高さに変動が生じている。

以下、建設省近畿地方建設局：淀川百年史から引用

毛馬基標には写真のよう 「BMOP. 15.50」、「4.697M」と刻字されているが、 BM (ベンチマーク) 15.5 尺、 4,697 メートルを表している。

標高の変動や毛馬閘門の改築工事のため基標としての役割がおわり 1960 年代

から現位置で記念として保存されている。またこの位置は国土地理院の基準水準点 111 号ともされていたが現在は地図にも掲載されていなく成果使用不可となっている。

東京湾の平均海面は T. P (Tokyo Peil) といい現在の日本の標高基準になっているが大阪湾の場合はこれに対し O. P (Osaka Peil) という。東京と異なり平均海面ではなく最低潮面ということになっている。

O. P の由来は明治初期の大坂港の建設に際して旧砲台内灯台下船溜所に量水標を設けてオランダ人デ・レーケが潮位の観測をした。

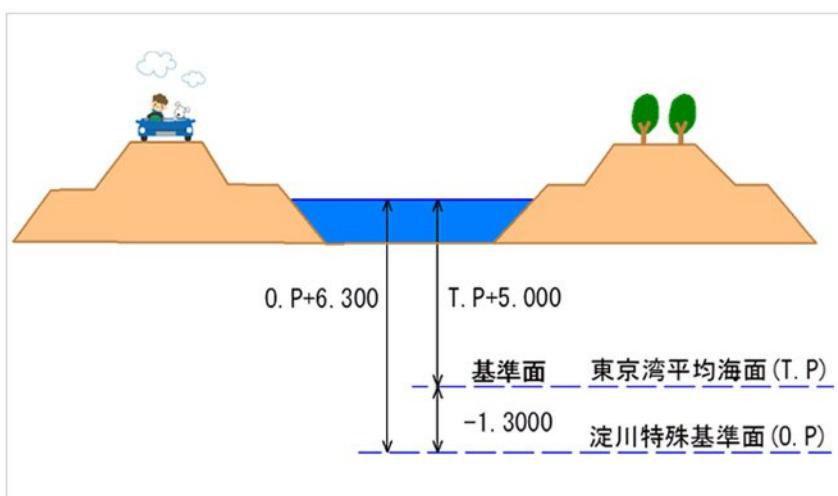
そのとき明治 7 年(1874) 中の最低潮位が同量水標で 9 寸 6 分であったのでこの点を O. P 零と定義し水準測量の基準面とした。

その後、天保町元標などいくつかの基準標が各地につくられたが毛馬基標は淀川毛馬閘門が完成した明治 40 年(1907) に現位置から東北東 20 メートルの地点に設置された。

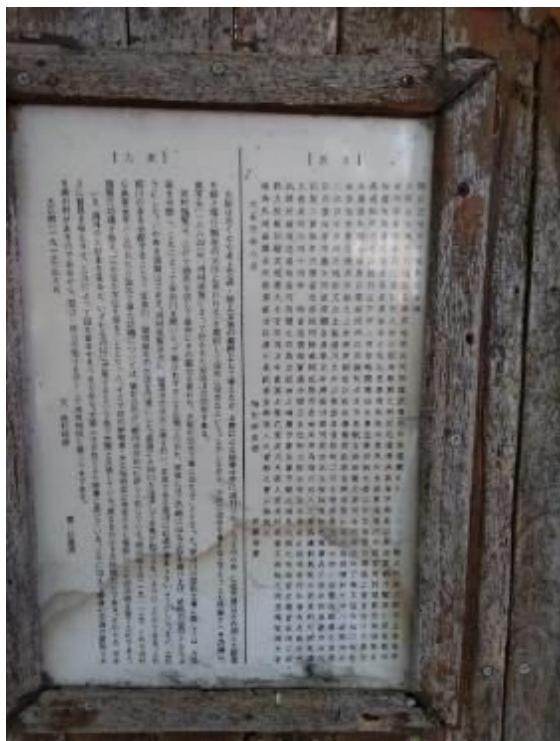
昭和 10 年(1935) には毛馬洗堰下流右岸岸壁の最下端の隅笠石にある釘打の頂点とし O. P +4.697 メートル(15.5 尺)と定義された。

O. P と T. P の関係も何度も変わったが昭和 31 年(1956) から近畿地方建設局内では 1.20 メートルの換算値を採用していた。昭和 41 年(1966) には O. P 基準標を茨木市大字福井にある国土地理院の基準水準点「基 21」に移しその標石下 65.4235 メートルを O. P と定めることになった。

T. P を基準とした高さを O. P を基準とする高さに換算するときは T. P に 1.30 メートルを加える。(O. P 海面は T. P 海面よりも 1.30 メートル低くなっている)



●大阪市 西区 河村瑞賢紀功碑 (分類困難・その他) 水害





(碑文 原文)

贈正五位河村瑞賢紀功碑

大阪自古為中外通航要津其地帶淀河而臨攝海得舟車運載之便以收物貨集散之利所以既庶且富也然有利斯有害水為尤甚淀河之於大阪為無窮之利而氾濫潰決其害不測是以難波奠都乃鑿堀江厥後濬治相踵而效績尤著者為貞享治水之役先是幕府欲救水患天和末派吏巡視河水源委河村瑞賢從焉瑞賢名義通稱平太夫以號行江戸市人有智略開陳治水事宜幕府納之委以河工瑞賢以謂施工宜首海口乃募役先備器具鑿九條島以開新流河口用楗制水水乃急駛自無淤塞之虞而全河沛然注于海工程有法二旬告成安治川是也積其所挑之土於南岸樹松以防波濤兼表航路世稱瑞賢山尋設圃與楗於中津川岐頭均分二水以令本流不淺淤又分土佐堀川之水以救島曾根崎二川之堙廢最後治大和川浚鑿而疏導之京橋以西撤沿岸市廳令河道深濶自貞享元年興役四載而記功本文安流害徐利興事具于新井君美畿內治河記後二百餘年内務省改修淀河雖或開或廢而安治川仍為海口出入之要路運載集散永蒙其利可謂惠澤久遠矣明治四十四年特旨追褒瑞賢遺功贈正五位而大阪夫有金石壽世之設頃者府知事大久保君利武謀於諸有志者取浚河所獲之石為立紀功之碑屬予書其事予觀夫海外大都之夸雄富者概皆在河口與我大阪相似顧其規模大小不同耳方今富國之術在貿易而大阪人固長於商業又得地之利宜竭智彈力爭雄海外則益講水利恢廓前功以資于長計者豈非後人之責耶乃書以勸勉云

大正四年八月 西村時彦 撰 伊藤清 書

(碑文 背景)

河村義通（よしみち・後に法名瑞賢）は、元和4年（1618）、伊勢国度会郡に生まれ、13歳で江戸に出て車力になったが芽が出ず、一時は帰郷しかけた。

しかし、その途次会った老人の忠告を受け入れ、再び江戸に戻る。

普請役人にも取り入り、人夫頭を経て次第に資産を蓄えた。明暦3年（1657）の江戸大火の際、木曽の山林を買占め巨額の利益を得た。

この利益を元に土建業を始めた瑞賢は、幕府や諸大名の普請を請け負うようになり、さらに奥羽御用米の江戸への回漕、東廻り海航路の開発と出羽御用米の回漕、西廻り海航路の開発など、海運発展の基礎をつくったことにより幕府の厚い信任を獲得した。

天和3年（1683）、幕府は、畿内の大和川治水の抜本策を講じるため、若年寄・稻葉正休を派遣し、その一行に瑞賢を随行させた。明くる貞享元年

（1684）正月、全権を委任された瑞賢は、水患の原因是淀川河口の九条島が水流を妨げているにあるとし、九条島を真二つに分ける開削工事に着手。

同年2月からわずか20日間でやり遂げた。こうしてできた南北約3km、幅約1kmの新しい河道「新川」は、後に「安治川」と名付けられる。

瑞賢は、九条島開削は大和川の付替えよりも工事費が少なくて済み、治水効果が大きいとしたが、実際は新たな水運航路の確保による経済効果を的確に見通していた。

安治川出現により、伝法口から中津川経由で大きく迂回して市内に入っていた船は大坂湾から直接堂島川や土佐堀川に入ることができ、距離の短縮と船の横づけが可能となり、両川の沿岸には各藩の蔵屋敷が立ち並ぶようになった。

瑞賢が迅速かつ大胆に実施した淀川治水事業の船運への貢献によって、その後、大坂は「天下の台所」として飛躍的な発展を遂げることになる。

●大阪市 此花区 重修櫻堤碑（ちょうしゅうおうていひ）
(分類困難・その他) 水害・津波



(碑文 原文)

重修櫻堤碑

從一位三条實美公 篆額

五十川左武郎撰文

攝之西成郡春日出新田舊有隄曰櫻堤廢夷為田久矣今重築之者何耶蓋清海安五郎翁為永遠無窮之圖也新田在大阪府治之西數十町與四貫島恩貴嶋屋南四新田隣東西北則中津濱二河環之南則接嶋屋南二新田之海塘故屢罹河溢海嘯之災明治十八年大水纔免其患後官修沿河之隄防也五新田合議出金以資其工費以故防最崇厚

堅固云於是翁告里正中谷徳恭及里之故老曰自今河溢之災可以無大患唯可虞者海嘯而已子等尚記慶應丙寅明治辛未之大災乎嘗閱邸乘吾春日出未嘗罹海嘯之患而近時數罹者何也非災有今昔之異蓋櫻隄之有無職是之由耳櫻隄在我極南界與二新田之海塘相對形如遙隄是以雖有海嘯決潰之災常阻格其潮勢而天保十四年代官築山氏貪目前之升合開拓為田是譬如存外門而徹內塀若一旦颶風鼓怒潮汐翻起二新田之海塘其一不能自持焉則蕩佚而入内地其執箕簸山立無敢阻格者宜矣其災覃及他四新田也然則築櫻隄距非興利除害之急務乎而頻年風旱肆虐黎庶困阨恐貴用難辦然不忍惜其費以留異日漂溺之災吾其獨力代衆辦之乃奮然剏工於十九年一月告竣於其五月隄長二千百零尺高九尺厚四十八尺而殺其上得厚五分之一實捐田二千七百五十步費金一千五百圓也於是衆庶鼓舞曰使吾等免沈溺之患者誠清海翁之力也因欲傳其功於不朽謀諸徳恭徳恭乃持圖與狀來請余記其事余曰昔歐陽永叔作偃虹隄記謂慮民也深故以百步之隄禦至險不測之虞以惠利其民宜記以傳後人以余觀之當時滕子京身居太守之職則其力何難辦之有而其隄之長亦不過一千尺比之翁以齋民獨力成此大工者其難易固不可同日而語也況於方今奔競功利為俗乎孰有儉朴自奉以興利除害圖永遠無窮如翁者寧可無記耶乃不辭而書之曰令後人時修舉而勿廢前功

中邨正美謹書

(碑文 要約 一部大阪市 HP から引用)

春日出新田は数次にわたって干拓されたが、当時、「桜堤」を築いて浸水を防いでいた。

しかしその後いつのころからか、堤が田畠になってしまっていたのを、開拓のあとを引き継いだ清海安五郎が、あらためて津波などに備えて重ねて築堤した。明治 29 年(1896)に建立された。

摂津の西成郡春日出新田に「桜堤」という堤があったが、これを潰し田に作り変えて久しかった。このたび再び堤を築くことになったのは、どのようなわけなのか。

それは、清海安五郎翁の恒久的な防災計画によるもの。

新田は大阪府の西に位置し、広さは数十町、四貫島、恩貴嶋、嶋屋、南の四新田と隣接している。

東西北の三方を中津川と淀川に囲まれ、南は嶋屋、南に新田の護岸堤防に接しづらしば河川の氾濫や海嘯に見舞われてきた。

明治 18 年(1885)の淀川大洪水ではかろうじて被災を免れたがその後、官により川沿いの堤防を修築することになった。五新田は合議して、金を拠出して工費に資することで、堤防をより分厚く堅固にすることにした。

そこで翁は、中谷徳恭や村の古老たちに言った。

今後は、河川の氾濫によって大きな災害に遭うことはないだろうが、もっとも虞れるものは海嘯である。

諸子らは慶応2年（1866）や明治4年（1871）の大災害を覚えているだろう。村の古文書を閲読したが、わが春日出村は以前には海嘯の被害に遭ったことがなかった。

ところが近年たびたび罹災するのはどうしてなのか。これは決して災害に今昔の違いがあるからではなく、桜堤の有無に起因するものである。桜堤はわが村の南境界にあって、二つの新田（鳴屋・南）の護岸堤防と互いに向かい、長く連なっていた。そのため、たとえ海嘯で堤が決壊しても、常にその潮勢を遮って止めることができた。

ところが、天保14年（1843）に代官築山氏が、わずかばかりの米を貪むさぼるために、堤を潰し田に開拓した。これを警ていうならば、外門はあるが、内堀を撤去したようなものだ。もし一旦颶風が吹き荒れ潮汐が怒涛のように翻って湧き起こり二新田の護岸堤防の一ヵ所でも持ちこたえられなくなったら、たちまちすべてを洗い流して堤の内側に押し寄せてくるので、箕や簸で盛り土を作り溢れた水を遮って止めるものが無くてよいだろうか。

その災いは他の四新田にも及ぶ。

しかば、桜堤を築くことが利益を生みながら、害を除くことが急務ではなかろうか。しかるに近年はたびたび大風や干ばつが起こり、店先に品物が並ばず、庶民は大いに困窮していたので、その分担金を拠出するのが困難であることを恐れた。然るにその費用を惜しむことを忍ばず、異を唱えて曰く、水で人が溺れる災害は、吾ひとりの力で衆に代わって弁じようと。乃ち憤然として明治19年（1886）1月に工事着手し同年5月に竣工した。

堤は長さ2100尺、高さ9尺、厚さ48尺、実に寄付した田は2750歩、費やした資金は1500円。

そこで、村の衆が打ち躍り喜んでいうには、吾らが沈没の災害から免れたのは、まことに清海翁の力によるものだ。その功績を不朽に伝えたいと考え、徳恭と諸事を相談した。そこで徳恭は図面と書状を持参して、余に碑文を書くよう請うた。

余は曰く、昔、歐陽永叔は偃虹堤記を書いて民を深く慮った。故に百歩の堤を以て大きな危険と不測の虞を防ぎ以て民に恵と利益をもたらした。宜しく記して、以て後人に伝えよ。以て余が之を観るに、身分は太守職にあり、その力をもってすればどうしてこれを行うことが難しかっただろうか。

しかもその堤の長さは1000尺を過ぎない。これに比べ翁の事業は独力で、この大工事を成し遂げたものである。もとよりその難易は、同日に語ることはできない。いわんや今日において功利を求めることが競うことが世俗となつてい

る。自ら質素儉約し人々のために利益を興して害を除き、永遠無窮の方策を図る翁の如き人物はどこにいるだろうか。

このことをどうして記さずにおけるだろうか。

すなわち辞さず、書して曰く。後人たちよ、定期的に堤防の維持補修を行い先人の偉功が廃れることがないようにせよ。

中邨正美謹書 大阪石工松原嘉右衛門

●池田市 水害記念碑 (分類困難・その他) 水害



(碑文 背景)

明治 29 年(1896)8 月 30 日からの大雨による猪名川洪水により東能勢村で山崩れ、建物流出、崩潰、26 棟、同破損・浸水 40 棟、耕地流亡約 320 ケ所、崩れ

ヶ所田畠宅地約 1500 ケ所・山林 22 ケ所・道路毀損約 50 間、橋梁流出・毀損 38 ケ所、堰流失 50 ケ所。

明治 31 年(1898)9 月旧能勢郡 7 か村長及び細河・止々呂美村長は、水害の惨禍を思い、復興を記念し細川村の兵庫県境に近い猪名川辺りに「水害記念碑」を建設。

碑文には、この水害の経過にふれ、

「近年、諸山の濫伐大いに行い、人其の禍を蒙るを恐れていた」と記載されている。

●豊能町 潑本訓導の碑 (分類困難・その他) 水害



よりよいくらしをめざして 洪水が起きない余野川に

野間口の入り口に大きな碑がたつ
ているのを見つけました。

碑には、「瀧本訓導殉職之地」と
書いてありました。

そこで、おじいさんに話を聞いて
みました。

写真の碑は、瀧本先生の碑です。

瀧本先生は、今から80年ほど前、
今の東能勢小学校の先生をしていま
した。1938年(昭和13年)7月5
日、大雨のとき、子どもを助けよう
として、水にのまれて亡くなられたのです。その日、瀧本先生をはじめ9人が亡くなったそうです。

今の余野川しか知らないみなさんは、この豊能町で大水が起こり、たくさんの家が流されたり、田畠が土砂にうもれ、何人もの人が亡くなっ
たことなど、とても信じられないことかもしれません。でも、余野川は、
昔から今のように立派な堤防があったわけではありません。昔は、川幅
もせまく、曲がりくねった、たびたび洪水を起こす川だったのです。



◎余野川

†豊能町立小学校図書（豊能町から情報提供いただいた）

(碑文 背景 豊能町 HP から引用)

瀧本訓導の碑

昭和 13 年(1938)7 月 5 日の大水害の折り、野間口では山地が崩壊して、山津波が押し寄せ、岩石・土砂・立木が流出し、道路・家屋を押し流した。東能勢村だけでも 9 人の死亡者を出す、同村はじまって以来の大惨事となった。

その 9 人の中に前年度箕面尋常高等小学校より東能勢尋常高等小学校へ主席訓導として赴任されていた瀧本撰治訓導（当時 33 歳）が含まれていた。

瀧本訓導は児童を家庭に送り、その帰路、担任児童の一家の危難を見、救助にむかい殉職された。「大阪毎日新聞」の昭和 13 年(1938)7 月 7 日には、

『あゝ殉職・瀧本先生山津波に敢然・教え子離さず』の見出しで同訓導の殉職を報じている。同年 7 月 18 日に学校葬が行われた。

※本石碑の経緯については、豊能町立小学校の図書にも余野川の洪水の歴史などとして記載されている。

●大阪市 西淀川区 大野百島住吉神社 (分類困難・その他) 風害



(碑文 原文)

昭和三拾五年九月参日チーン颶風の災禍に依りて、社殿は痛ましき迄に損傷せ今や講和條約の調印を終了平和日本の再出発の時期至る氏子一同大いに奮起し敬神の誠を捧げ茲に神社の復興を図る

昭和三十六年十月

●大阪市 西淀川区 左門殿川 (分類困難・その他) 水害



(碑文 原文)

左門殿川過去最高水位 2018. 9. 4 台風 21 号 OP+4. 61m

●寝屋川市 千種庄右衛門彰徳之碑 （分類困難・その他）水害



(碑文 要約 寝屋川市 HP から引用)

国松町は、近世には讚良郡(さらこおり)国松村とよばれていた。

この地の悪水は、寝屋川と南前川の合流地点付近で寝屋川に流れていた。しかし、寝屋川の川床が上流からの土砂でだんだん高くなるに従って悪水の排水が悪くなり、大雨があると領内に逆流して田んぼや畠が冠水してしまうという状態であった。

かつては「国松のやきどうふ」という言葉があり、日照りが続くと田は焼け、雨が続ければ悪水が停滞し水浸しになっていたといわれている。

江戸時代中ごろ、国松村は幕府の直轄地で近江信楽(おうみしがらき)代官の支配下にあった。当役人であった千種庄右衛門は、国松の人々の苦しみをみかねて享保9年(1724)寝屋川の川床をくぐる伏越樋を設けて、友呂岐悪水路(ともろぎあくすいろ)に水を落とすことに成功した。

しかし、用水・悪水などの関係の複雑さから隣村の三井村との紛争が絶えなかった。

千種庄右衛門は、その責任をとって自害したと伝えられている。

昭和28年(1953)には行誓寺本堂前に「千種庄右衛門大人(うし)之碑」、昭和40年(1965)には伏越樋のある堤上に「千種庄右衛門彰徳之碑」が建立された。

千種庄右衛門については、行誓寺には「智久璫昌右衛門(ちぐさしょうえもん)靈」と記した位牌と江州信楽の役人と云う伝承があるのみであったが、平池の旧家の古文書により享保9年(1724)にこの悪水の工事があったことが明らかになった。

●吹田市 記念碑 (分類困難・その他) 水害





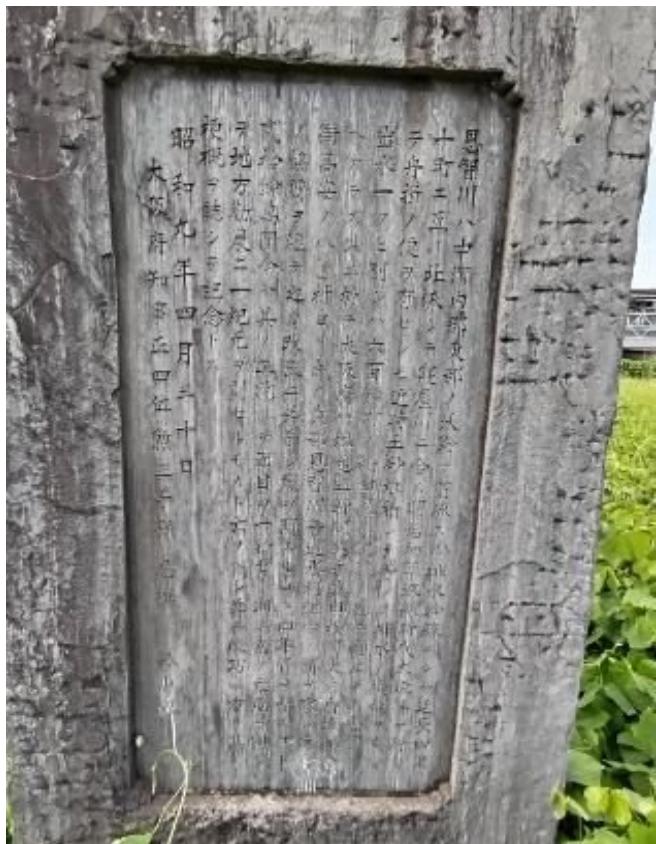
(碑文 原文)

記念碑

上之川合流當糸田川は年々堤防決潰土砂埋没家屋倒壊耕地被害甚大なりしが昭和拾五年初代吹田市長川端信次郎氏の努力斡旋により現在の如く完全改修され永く沿岸居住者の不安を除き得たり仍而我々有志相謀り茲に碑を建て此喜びと感謝の意を表し其徳を表彰す

昭和二十七年九月吹田市垂水町有志一同識

●東大阪市 恩地川記念碑 （分類困難・その他）水害





(碑文 原文)

恩智川改修記念

恩智川ハ中河内郡東部ノ沃野ヲ貫流スル排水幹線ニシテ延長四里十町二瓦リ北流シテ寝屋川に合ス明治初年堺縣時代大浚渫ヲ行ヒテ舟揖ノ便ヲ有セシモ近時土砂堆積シテ著シク排水ノ機能ヲ失シ出水ータヒ到レハ六百餘町ノ稻田忽チ氾濫ノ厄ニ遭ヒテ損害謂フヘカラス此ニ於テ大阪府ハ地元三野郷繩手英田枚岡大戸盾津孔會衛高安ノ八箇村ヨリ成ル東部恩智川普通水利組合ノ請ヲ容レ府會ノ協賛ヲ経て之力改良ニ着手シ歳ヲ閏スルコト四年資ヲ費スコト式拾餘萬圓今ヤ其ノ工就リテ面目ヲ一新セリ洵ニ克ク天厄ヲ制シテ地方勸農ニ一紀元ヲ劃セルモノト云フヘシ茲ニ竣工ニ方リ其ノ梗概ヲ誌シテ記念トス

昭和九年四月三十日

大阪府知事正四位勲三等縣忍撰 瓢山題

●大阪市 北区 歯神社 （分類困難・その他）水害



（碑文 背景 歯神社 HP から引用）

当社は社名を「綱敷天神社 末社 歯神社（つなしきてんじんしゃ まっしゃ はじんじや）」と称し、今から数百年前に梅田一帯が大洪水に見舞われ、あわや水没するかにみえた折、地元の人間がお祀りしていたお稻荷さんの御神体で

ある巨石（本殿地中深くに鎮座）が、流れ来る水を歯止めし、梅田の水没を防いだことから、歯止めの神さまとして慕われました。のちに歯止めの語呂が転じて歯痛止めにご利益があるお社といわれ、いつの頃からか歯神社とよばれるようになった。

明治の初年頃に地元の人間だけでお祀りしてきた歯神社をちゃんとした神社としてお祀りしようと、大阪市北区神山町に鎮座する綱敷天神社の境内飛地末社（けいだいとびちまっしゃ=御本社境内の外にある小さな神社の意）としてお祀りされるようになった。

また先の大戦の折、大阪は大空襲に見舞われ、梅田一帯は火の海となつたが、この折も歯神社までは火が届かず、戦火を歯止めしたともいわれている。

現在では、全国の歯に悩む方々をはじめ、歯科医、歯科技工士などの歯の医療に関わる方々や、歯科医師を目指す学生、歯ブラシ・歯磨き粉・歯に関するガム・入れ歯など歯に関わりのあるお仕事をされる方々の参拝が絶えずあり、「歯磨きは己の心磨き」の心と共に、歯の大神さまとして慕われている。

●堺市 三宝公園西 (分類困難・その他) 津波





(碑文 背景)

この附近は宝永元年（1704）の大和川の付替え以降、河口に堆積した土砂による附洲（つきす）を利用した新田開発が盛んにおこなわれた地域である。

かつては海に近かったこの場所に祀られている「波切不動尊」は、唐から帰る弘法大師を守ったと伝えられ、海難除け、航海安全はもとより、「波切」と「難切り」を掛けて、地域の篤い信仰を集めている。

傍らに立つ石碑は、寛政3年（1791）8月20日の「海嘯（かいしょう）」（潮津波）によって命を落とした人々の50回忌にあたる、天保11年（1840）に建てられた供養碑。

供養にあたっては、南嶋の光得法師が願主となり、来迎寺の蘭嵐上人が導師をつとめたことなどが刻まれている。「堺市史」によれば、当時、中浜筋一帯まで潮が押し寄せ、壊れた船や流木が町中に流れ込むなどして、多くの人々が被災したと伝えられている。海に接して発展してきた堺の町では、海から多くの幸を得るとともに、このような苦難の歴史も忘れられることなく、語り継がれている。

○阪南市 鳥取池（分類困難・その他）水害



(碑文 要約)

昭和 27(1952) 年 7 月 11 日、鳥取池は未曾有の豪雨により決壊、多数の田畠、家屋が流出し、特に桑畠地区は死者・行方不明者 51 名の惨事となった。コンクリートダムとしての池の再築にあたり水難者の芳名を記録し尊靈を弔う。

(碑文 背景 阪南市 HP から引用・画像とも)

桑畠にある鳥取池は灌漑用として男里川上流の井関川をせき止め、戦時中の昭和 19 年(1944)に着工し、昭和 23 年(1948)に完成した。昭和 27 年(1952)7 月 10 日、朝から降り続いた雨は昼ごろから断続的な豪雨となり、夕刻には各地で河川が増水氾濫。阪和線、南海線ともに不通。橋は流され、道路は水没した。しかし、雨は一向に止まず、午前 0 時過ぎ、鳥取池の堤防が決壊。この時の雨量は梅雨時の平均月間降雨量をはるかに上回る 403 ミリメートルが 1 日足らずで降り、大阪管区気象台始まって以来の記録となった。

鳥取池の決壊は各地区に大きな被害をもたらし、特に桑畠地区では、浸水した家屋の救援作業の人や就寝中の老若男女を一瞬のうちにのみ込み、水位は 3 メートルにも達した。

死者・行方不明者は、同地区の人口の 3 分の 1 である 51 名で、小学生が 6 名含まれていた。当時の東鳥取村(桑畠・自然田・山中渓・鳥取中)の被害は、流失家屋 35 戸、半壊 62 戸、田畠の流失 70 町歩(ちょうぶ)、昭和 22 年(1947)10 月に制定された災害救助法適用第 1 号となった。復旧作業には数ヶ月が費やされ、被害金額は当時の金額で 5 億円に上った。その後、鳥取池は昭和 29 年(1954)に復旧工事が着手され、昭和 33 年(1958)に完成した。

このダムは水害の苦い経験をいかし、貯水量は 33 万トン、1 時間 240 ミリメートルの雨量にも耐えられる構造になっている。

(番外)

●大阪市 北区 国分寺公園 天六地下鉄工事現場ガス爆発事故 火災





↑ 国分寺



(碑文 背景 なにわの地下鉄から引用)

昭和 45 年(1970) 年 4 月 8 日 17 時 45 分、大阪府大阪市大淀区（現 北区）国分寺付近の谷町線建設現場でガス爆発事故が発生した。

天六ガス爆発事故と呼ばれ、死者 79 名、負傷者 420 名を出す大惨事となった。

建設中の地下構内のガス管が、継手部分を含め約 200m にわたって宙吊りとなっていた。建設工事や交通荷重の影響で継手部分が劣化していった。結果、17 時 15 分に継手部分が抜け落ちて都市ガスが噴出した。この区間は開削工法で建設されており、ガス噴出時は覆工板が設置されていた。覆工板が蓋の役目をして地下構内は都市ガスが充満、隙間から地上にも漏れ出た。たまたま通りかかった大阪ガスのパトロールカーがガス漏れを検知して通報、事故処理車が到着する。この事故処理車が現場で移動しようとエンジンを始動した際にセルモーターの火花が引火、17 時 39 分に発火し、地上に噴出していたガスにも着火した。自動車が燃えたことにより、野次馬が多く集まりだして付近は多くの人が集まっていた。そして 17 時 45 分、何らかの原因で地下に充満していたガスに着火、高さ約 10m の火柱とともに大爆発が発生した。この大爆発により、付近に敷き詰められていた覆工板（重さ約 380kg）約 1,500 枚と、その上に乗っていた人も吹き飛ばされた。爆発の火柱は、道路両側の家屋に燃え移った。そのため、すぐにガスを止めることができず、21 時 20 分頃にガス止め作業に着手、後に消防による消火活動が行われ、21 時 40 分頃に鎮火した。

現場付近の国分寺公園には、この事故の慰靈碑が設置されている。

当時、事故現場の調査にあたった兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科の室崎益輝教授は、大きな問題点が 4 つあると指摘している。

- ①地下のどこにガス管や水道管が入っているのか、図面もない状態で突貫工事をしたためにガス管を損傷してしまったこと。
- ②先を急ぐあまり、手掘りで注意深く進めるどころか重機を入れて強引に掘削する工法を取ったこと。
- ③ガスが漏れてからの危機管理を怠ったこと。現場に近づく市民を規制せず、ガスが漏れているかもしれないところにエンジンをぶかした車を入れてしまいまったくこと。
- ④この事故に先立つ 4 月 4 日と 6 日にも同じ場所でガス漏れがあったのに、応急処理だけで済ませ、消防や警察に連絡していなかったこと。

人の命や安全よりも万博関連工事を優先させてしまった結果の事故で、この天六ガス爆発事故は、「都市災害」という言葉が日本で使われるきっかけになったと言われている。